

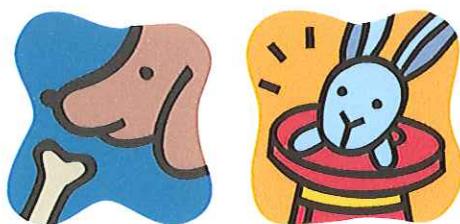
— これからの動物看護を共につくりあげましょう！ —

日本動物看護学会 第16回 大会

● テキストA ●

第1部

第2部 A B ①~③



2007（平成19）年 7月8日（日）
東京 港区 慶應義塾大学・三田キャンパス 北館ホール

第16回大会にご協賛いただきました各社様に、心より御礼申し上げます。
誠にありがとうございます。

アニコム インターナショナル株式会社

株式会社 インターズー

株式会社 学窓社

マスターフーズ リミテッド

株式会社 緑書房

五十音順

この冊子はコピー機により制作しておりますので、印刷の不鮮明により、ご覧いただきづらい個所も一部ございます。
申し訳ございませんがご了承ください。

日本動物看護学会 第16回大会に際して

日本動物看護学会 会長 今道友則

(日本獣医生命科学大学 名誉教授、元 同大学学長)

平成19年(2007年)度の日本動物看護学会の総会(第13回)並びに年次大会(第16回)が、今年もお馴染の慶應義塾大学三田キャンパスで開催されます。同大学の関係各位の御理解と御協力に深く感謝いたします。

第1部では、招待講演として、岐阜大学医学部看護学科・箕浦とき子教授にお願いして、「人医療の看護に学ぶーその進展経緯と職業観に学ぶ・家族看護学と動物看護学の接点を考えるー」という演題で広い視野で有益なお話を伺い、引き続き公開ミーティングという形式で会場の皆さんを交えて活発な意見交換を行い、動物看護学の発展に役立てたいと思います。

第2部の研究発表の部では、公募演題のみで15題(昨年の3倍量)集まったことと、多くの演者が新人であることは誠に喜ばしい次第であります。4年前に始まった本学会の「動物看護師資格認定試験」に既に合格された、新進気鋭の動物看護師の活躍が始まっている証しであります。会員の研究活動が更に活発化して、多数の発表と出席者で会場が埋め盡(つく)される日の到来も近いと予測されます。

さて、今回の発表演題15題の発表者の所属を見ると、獣医学の附属動物病院から2題、大学の研究室から3題、動物看護関係専門学校から1題、グループ研究から1題、及び開業動物病院5病院から8題となっております。

獣医学の附属動物病院が動物看護師の職場として機能し始めた成果が今後益々顕在化するでありますように、専門学校の教育に研究的要素が加わって教育内容が高められることは好ましいことであります。

一方、研究活動が活発な一部の病院を除いて、一般に小規模の動物病院では多忙な診療業務と人手不足に追われて研究に手を廻すゆとりのないことも実状であろうけれども、他病院の動物看護師と連携して、共通のテーマを取扱う同好会的な研究グループを結成して研究活動を行うことも現実的な解決方法といえます。

先般開かれた理事会でも、このような動物看護師の研究活動を助長するため、学会としては、従来行ってきたグループ研究に対する会合場所の提供(事務局会議室)に加えて、今大会で行われた研究発表と討論の状況を録画したCD-ROMを希望者に配布することに致しました。

動物看護学が関与する対象は広範多岐に亘りますが、御多忙な日常業務と併行させて、小さな研究テーマを選んでデータを記録して積重ね、系統的に整理することが研究の始まりであります。会員の皆様の御健闘を祈ります。

● 日本動物看護学会の趣旨と概要 ●

本学会は1995（平成7）年に発足以来、〈学問としての動物看護学の進展〉・〈動物看護師の職域拡大と地位確立〉を目的とした活動を行っている学術団体（学会）です。会員には動物看護師・獣医師・研究者・学生・大学や専門学校の教員らが多く、職種や研究領域の違いを超えて大勢の人々が入会しています。現在、次のような活動をしています。

- ・行事の開催（研究発表・教育講演など）
- ・「動物看護師資格認定試験」の実施
- ・本学会「動物看護師」資格認定者への生涯教育活動（各種講座・勉強会など）
- ・出版物の編集・発行（書籍『動物看護学（総論・各論）』、学会誌『Animal Nursing』など）

本学会が対象とする看護動物は、ペットやコンパニオンアニマルと称される伴侶動物以外の産業動物・野生動物・実験動物・展示動物にも及びます。これらを含めた、わが国における「人と動物の関係学（ヒューマン・アニマル・ポリシー研究＝HAB研究）」をも広く深く考えます。

会長：今道友則（日本獣医畜産大学 名誉教授、元 同大学学長） 会員数：1,760名（2007年7月1日 現在）

● そもそも学会って何？ ●

学会の定義をあらためて確認してみましょう。辞典には「学者（注：学ぶ人全般と解釈します）相互の連絡、研究の促進、知識や情報の交換、学術の振興をはかる協議などの事業を遂行するために、組織する団体」（広辞苑）とあります。

つまり日本動物看護学会とは、動物看護の発展をめざす会員の皆さんのが積極的に集まり、動物看護に関する研究結果を報告・考察し合うための開かれた交流の場です。動物看護を研究する上でわからないことがあって困った時、また行き詰った時など、ここへ来て問題提起すれば一緒に考えてくれる人がいる——それが学会の役割と使命であると考えます。

さて、〈学会の大会や学会誌における発表（動物看護報告）〉は各自業務の中から生まれてくる貴重な報告です。しかし、一方通行の発表だけで終わってしまうのは残念です。発表を見聞きしたら、自らの業務に照らし合わせて比較・分析・考察してみてください。そして今度は、ぜひご自分でも発表してみてください。

そうやって数多くの発表が時間をかけて蓄積されてゆくと、そこには必ず、自ずと“発表テーマの体系形成”や“発表内容の質のいっそうの向上”が生まれてきます（必ずや量は質を伴います）。そのとき初めて“現場発の、わが国独自の動物看護学”が立ち上がってくることでしょう。それを推進するのが当事者である動物看護師です。

看護とは“実践の科学”ですので場当たり的に行うものでは意味がありません。看護実践の蓄積と発表から生まれる理論的根拠の明確化が必要となりましょう。

半世紀前の昭和20年代、来日した米国人医療関係者は、当時のわが国人医療の看護師（当時の呼称は看護婦）を「まるで召使いと同じだ」と感じたそうです。しかしその後、人医の看護学も、上述のような経過を積み重ねて看護師自らの努力により構築されてきました。

「獣医学からの指導」「獣医師との連携」は大切かつ不可欠です。しかし動物看護師自らが、独自の動物看護観を確立させるための活動を自主的に推進しない限り、動物看護師の職域拡大・地位安定をいくら叫んでも、飼主や社会全体からの広範囲な支持を得ることは難しいと思われます。動物看護観と動物看護学の確立のために何ができるか、また何をすべきなのか、日本動物看護学会としても引き続き探っていきます。

● わが国の動物看護師の現状とは? ●

本格的な少子高齢化・核家族化を迎えて、わが国では今、人々のペットに対する接し方も大きく変わりつつあります。「家族の一員のみならず、人生の伴侶としてのペット（コンパニオンアニマル）」としての意識の急速な高まりです。ペットが「理想の家族の投影先」となる傾向もあります。家族社会学の分野では“家族ペット”という概念も提唱されています（『家族ペットよりもペットが大切!?』東京学芸大学・教授 山田昌弘著、文春文庫）。

こうした社会変化を受けて動物医療の側には早急な対応が求められています。動物病院には、「長寿ペットの難病や重篤な疾患」「ペットの健康管理やしつけ」などに対応できる、先進的かつ充実した診療・サービスの提供が強く求められています。「狂犬病予防や人獣共通感染症対策についての地域の情報拠点」としての役割も求められます。

このように高度化・複雑化する小動物診療の最前線で、大きな役割を担い始めているのが動物看護師です。動物看護師は獣医師の補助的役割にとどまらず、飼主とのよりよいコミュニケーション形成や飼育指導などにおいて欠くことのできない職種です。動物看護師は全国でおよそ2万人とも言われており、その地位確立が急務となっています。

しかし現状では、動物看護師に関する法的根拠は一切存在しません。人医療における看護師は、保健師助産師看護師法という法律で規定された国家資格です。国家資格を持たないと看護師には就けません。いっぽう動物医療では、獣医師法や獣医療法に明記されているのは国家資格である獣医師だけです。動物看護師の地位確立については様々な兆しが出ていますが、現段階で大きな動きには至っていません。

2005年7月に農林水産省が発表した「小動物獣医療に関する検討会」の報告書では、「獣医療補助者について」という項目名で、わが国の動物医療において動物看護師が大きな役割を果たしている現状が盛り込まれました（国による動物看護師の初の事実上認知）。

また、2006年12月に発足した「日本獣医師会 小動物臨床部会個別委員会内 動物診療補助専門職検討委員会」は、これまで2回会合を行いましたが、このたび7月以降の継続開催が決まりました（本学会からも委員として参加しています）。いずれにしても、具体的な方向性が出るまでには、なお時間を要すると思われます。動向が注目されます。

今後、動物看護師の職域拡大と地位確立を図るためにには、当事者である動物看護師自身による積極的な意見表明が必要と思われます。また、それにもまして動物看護の事例発表を推進して、その成果と実績を動物医療界・飼主・広く社会一般に向けてアピールすることが求められると思われます。

文責：日本動物看護学会 事務局

来場者の皆様へ“2つのお願い”

<1> このテキストに掲載されている内容を、

無断で複写・複製・転載することを厳禁します。

このテキストの内容は、聴講者の学習の便宜のために、講演者・発表者の皆様から許可をいただいた上で掲載しています。したがって、個人や院内での学習・研究目的に限りその使用を認めます。許可のない転載も認められません。なお、適正な引用(下記参照)は可能です。

「引用」と「参考(参照)」のちがい

「引用」とは、「(自論を説明・証明するために)他の文章をそのままの形で一部紹介すること」です。「引用」を行う際は、次のルールをまもることが必要です——引用部分は必要最少限にとどめる／引用部分は「」でくくるなどして自分の文章とはっきり区別する／文章は勝手に改変せずにそのまま載せる／引用時の出典(書名、引用ページ、編著者名、発行元、発行年など)は、原則的には引用個所の最後に記す(論文最後の参考文献には記さない)——。これらの点をまもると、わが国の著作権法において問題のない正当な引用となります。わが国において各種レポート・学術論文・書籍・雑誌記事を執筆する際は、この“公正な慣行”を遵守する必要があります。

●一部発表者の掲載内容は、会場で映写されるものと異なりますが、ご了承ください。

<2> 本日の大会を録画いたしますので、ご了承ください。

p1 の会長あいさつ文にも記載されていますが、今回、本学会としては初の試みとして、大会の様子を録画し、本学会員（および本学会の認定動物看護師）のみに限定して、後日有料配布いたします。この旨、本年 6 月開催の常任理事会・動物看護師認定試験委員会での協議を経て、理事会にて承認されました。本件につきまして、大会聴講者の皆様のご理解をいただければ幸いです。

本学会の認定動物看護師は、資格取得後その継続のために、〈学習ポイント〉を 2 年間で 10 ポイント取得することが課せられています。その取得方法には多種ありますが、本学会や他団体が開くセミナーや勉強会などの受講が、ポイント取得の有力手段となっています。

しかし、「本学会の大会や例会は東京や大阪ばかりで開かれるので、どうしても行けない」といった声が以前より学会事務局へ届いていました。その理由は次のようなものでした。

- 地方在住者から——「東京や大阪への交通費がどうしても捻出できない」「地元でセミナーや勉強会に参加したくても、まったく開かれない」「ポイント取得や学習は地方在住者には不利だと感じる」など
- 在住地域の別なく——「動物病院の仕事がどうしても多忙なので参加できない」「セミナーや勉強会への参加を院長が奨励しないので、行きづらい」など

したがって今回、対応の一環として、〈大会の録画収録と収録 DVD の有料配布〉を試験的に行うことになりました。大会会場には、多くの交通費を使って、あるいは苦労して時間を作り、わざわざご来場くださった皆様もいらっしゃると存じます。こうした皆様に感謝しつつ、「次回大会への来場意欲」「学会活動への興味増進」につながることを願って、この試みを行いたく存じます。

実施にあたり、収録 DVD の申込者に対しては、以下を必ず守っていただくようにします——「個人(および限られた仲間内、勤務先の院内セミナー内)での学習用視聴だけに限ること」「収録内容についての勝手な内容転載は絶対にしないこと」。

本日来場者の皆様のご理解をいただければ幸いです。
何卒よろしくお願い申し上げます。

基本的に、会場の皆様にカメラを向けることはいたしません。ただし、質問者の方は撮らせていただく場合があります。このとき、質問者の近くにお座りの方も映ることがございます。どうかご承知ください。なお、もし“撮らないでほしい”質問者の方がおいででしたら、発言時の最初にその旨お話しください(このとき、病院名や個人名も述べなくて結構です)。

収録 DVD の申込方法は、本学会員（および本学会の認定動物看護師）の皆様に限定して、今後郵便でご連絡します。価格は調整中です。申込によって本学会の認定動物看護師が取得できる学習ポイント数は 2 ポイントとなります（大会当日の来場者が、収録 DVD の購入により、重ねて学習ポイントを申請することはできません）。

プログラム

敬称略

12:30～13:00 第13回 定時総会 06年度報告・07年度活動予定を審議します。本会会員はご出席ください。

総合司会／小松千江（本学会理事、東京都・新ゆりがおか動物病院 動物看護師）

13:10～13:20 開会のことば 今道友則（本学会会長、日本獣医生命科学大学 名誉教授、元 同大学学長）

13:20～14:50 第1部／講演と公開ミーティング

人医療の看護に学ぶ

—その進展経緯と職業観に学ぶ・家族看護学と動物看護学の接点を考える—

箕浦とき子（岐阜大学医学部看護学科 成人・老年看護学講座 教授） p8

人医看護と動物看護を一概に比較・同一視できませんが、今回は「動物看護が人医看護から学べること」というアプローチにより、人医療の看護学分野からお招きした箕浦先生にご講演いただきます。動物看護師が触発されるお話も含まれると思われます。また近年、人医療領域でクローズアップされている「家族看護学(患者の背後の家族までも看護対象としてとらえる考え方)」と「動物看護学(動物病院では、患者である動物の飼主とのよいかかわり方が問われる)」との接点についてもお話しいただきます。これらが、今後のわが国の社会で果たす役割とはいったい何でしょうか。

お話の後は、会場の皆さんを交えた意見交換の場を設けます。「動物看護師とは、獣医師の優秀な補助職であれば、それで足りるのでしょうか…」「わが国の動物医療の今後の充実を考えるとき、私たちが主張できる動物看護とはいったい何でしょうか…」「わが国に動物看護学という領域は果たして根づくのでしょうか…」——当日、皆さんと一緒に多角的に考えてみたいと思います。わが国の今後の動物看護職と動物看護学のあり方に興味を持つ皆さん、ぜひお集まりください。

進行／西谷孝子（本学会理事、広島県・西谷獣医科病院 動物看護師）

指定討論者／長田久雄（本学会常任理事・桜美林大学大学院教授-老年心理学-）

15:00～18:00 動物看護に関する発表

以下発表順・1題につき＜発表7分＋質疑応答5分＞

A. 「動物看護師のあり方」と「人とペットとの関係が持つ意味」を考える

解説／安藤孝敏（本学会評議員、横浜国立大学 教育人間科学部 准教授）

進行／中俣由紀子（本学会理事、茨城県・かしま動物病院、動物看護師）

①動物看護師が考える動物病院における対応

甲田菜穂子（東京農工大学 比較心理学研究室 准教授）・三家詩織（同研究室） p14

②動物看護師と利用者が考える医療における対応

甲田菜穂子（東京農工大学 比較心理学研究室 准教授）・三家詩織（同研究室） p18

③愛着の観点からみたペットの安楽死に関する大学生の意識－オーストラリア人大学生との比較を含めて－

杉田陽出（大阪商業大学経済学部 准教授－社会心理学－） p22

B. 動物看護の現場から

解説／石岡克己（日本獣医生命科学大学 獣医学部 獣医保健看護学科 講師）

進行／中俣由紀子（本学会理事、茨城県・かしま動物病院、動物看護師）

①歯科処置における準備と注意点 三浦紫陽子（埼玉県・フジタ動物病院 動物看護師） p26

②当院におけるトリミング時の疾患別注意事項 平田佳代子（埼玉県・フジタ動物病院 動物看護師） p30

③術中の看護過程の展開—手術における動物看護師の役割を考える—

永尾秀一（広島県・西谷獣医科病院 動物看護師） p35

以下は「テキストB（クリーム色の表紙）」に掲載しています

④下半身麻痺の犬の看護とりハビリ 長嶺孝太（沖縄ペットワールド専門学校）

⑤外来看護記録用紙の作成—臨床動物看護研究会におけるグループワーク—

遊座晶子（つくば国際ペット専門学校・教諭 動物看護師）

⑥当院での外来看護記録の作成 斎藤みちる（神奈川県・七里ガ浜ペットクリニック 動物看護師）

⑦動物眼科二次診療施設における外来看護 中井江梨子（東京都・どうぶつ眼科 Eye Vet 動物看護師）

C. 二次診療施設（大学病院）における取り組み

解説／桜井富士朗（本学会副会長、東京都・桜井動物病院院長、帝京科学大学アニマルサイエンス学科 客員教授）

進行／中井江梨子（本学会評議員、東京都・どうぶつ眼科 EyeVet、動物看護師）

①大学病院における動物看護師の役割 田村浩美（北海道・帯広畜産大学附属家畜病院 動物看護師）

②血液ドナー犬の管理—麻布大学附属動物病院の方法—

和田優子（神奈川県・麻布大学附属動物病院 動物看護師）

D. 動物看護師がひらく新たな方向性 解説と進行はCと同じ

①山梨動物看護師勉強会「PRIDE & CONFIDENCE」3年間の報告

高橋真由（山梨県・赤池ペットクリニック 動物看護師）

②当院におけるインシデント・アクシデントの低減案—ヒヤリ・ハット帳を利用しての評価と課題—

瀬戸晴代（広島県・西谷獣医科病院 動物看護師）

③避妊手術後に見られる犬の痛み行動について—動物のいたみ研究会ペインスケールを利用して—

斎藤みちる（神奈川県・七里ガ浜ペットクリニック 動物看護師）

18:00～19:30 交流会

受付前の会議室にて行います。飲物と軽食をご用意しています。出入り自由な“打ち上げ”ですので、気楽にご参加ください！

別途費用はかかりません。お一人でも大丈夫です！

第1部／講演と公開ミーティング

人医療の看護に学ぶ

—その進展経緯と職業観に学ぶ・家族看護学と動物看護学の接点を考える—

箕浦とき子（岐阜大学医学部看護学科 成人・老年看護学講座 教授）

1. 看護の発展過程

1) 看護とは何なのだろうか

2) 看護のあゆみ

(1) 看護の発生と発展過程

(2) 専門職としての位置づけと看護の確立

①専門職とは ②看護教育制度

2. 看護の対象と看護実践

1) 発達課題から見た対象と看護実践

2) 健康レベルと看護実践

3) 家族看護学と看護実践

(1) 家族看護学とは

(2) 家族看護学誕生の背景と発展過程

(3) 家族看護学における看護者の役割

①看護者の役割 ②家族支援時の看護者としての姿勢

続く

ノート欄

3. 動物看護学と人看護学との接点

- 1) 人にとって動物の存在は?
- 2) 動物にとって人の存在は?
- 3) 人看護学と動物看護学との接点は?

4. 動物看護学の必要性

- 1) 最近の傾向
 - (1) 動物も家族の一員
 - (2) 動物も高齢化
 - (3) 習慣病の発生
- 2) 動物看護の役割
 - (1) 治療への参加
 - (2) 飼い主への対応
 - ① 予防
 - ② 回復
 - ③ 健康維持
 - ④ 終末期への対応
 - (3) 記録の充実

続く

ノート欄

5. 動物看護学への期待

1) 教育の充実

(1) 看護は実践の科学→実践を通しての教育の必要性

(2) 教育体制の拡充

①カリキュラムの充実

②どのような人が教育に携わるのか

2) 制度化への努力

(1) 動物看護師としての役割の積極的遂行

(2) 自らの役割の主張

①日々の信頼される看護実践→評価

②外部へ向かっての主張

(3) 教育の制度化

以上

ノート欄

A-①

動物看護師が考える動物病院における対応

東京農工大学 甲田菜穂子
東京農工大学 三家 詩織

＜目的＞ 医療関係者の患者に対する対応は、医療の質に大きな影響を及ぼす。獣医療においても、動物病院のスタッフによる、飼い主やその動物に対する対応の仕方は重要である。とりわけ、動物病院において飼い主や動物に直接関わることの多い動物看護師の対応は、獣医療の質に大きな影響を及ぼすと想定される。本研究では、動物看護師を対象に質問紙調査を行い、動物病院における飼い主にとっての良い対応と悪い対応について、動物看護師はどのように捉えているか、その認識は、業務の経験年数で違いはあるか、良いと思われる対応と悪いと思われる対応に違いはあるかを調べた。

＜方法＞ 調査は、2004年に実施した。日本動物看護学会に動物看護師へ質問紙の郵送を依頼し、動物看護師には無記名の回答を返送するよう依頼した。調査対象者は、日本動物看護学会員の動物看護師149名(男性2名、女性147名、 29.99 ± 6.29 歳；平均士標準偏差)であった。回答者の動物看護経験年数は、 7.12 ± 4.05 年であった。経験年数が5年未満の45名を経験年数が短いグループ、10年以上の37名を経験年数が長いグループとし、経験年数の長短による結果の比較を行った。

質問紙では、症状の重さや治療内容とは関係なく、「獣医療関係者の対応で飼い主を嬉しい気持ちにさせると思うもの」、逆に「獣医療関係者の対応で飼い主に嫌な思いをさせると思うもの」を自由記述で回答を求め、内容分析を行った。さらに、選択式で経験業務の種類を尋ねた。

＜結果＞ 動物看護師の経験業務は、診療助手、受付、入院管理、手術助手、臨床検査、事務で89%以上の回答者に経験があった。トリミング、しつけ・カウンセリングの経験は、5割程度であった。このうちしつけ・カウンセリングは、動物看護5年未満の人より10年以上の方方が、経験割合が高かった($\chi^2(1)=6.79$, $p<0.01$)。

自由記述は、内容が意味を持つ最小の単位に分けた。1名当たりの平均記入数は、良い対応で 3.59 ± 2.33 、悪い対応で 3.18 ± 2.29 であり、有意差が認められた($t(148)=2.58$, $p<0.05$)。経験年数では、有意差は認められなかった。

自由記述の内容は、以下の5つに分類した。利便性・快適性(待ち時間が短い、時間外対応がある、病院が清潔、料金が安い、ドアの開閉・荷物の運搬介助がある、など)、包括性(他種診療、主訴以外の診療、飼育指導、動物の扱い補助、ペットロス対応、など)、対話性(丁寧に説明、相談しやすい、親しみやすい、飼い主が治療の選択ができる、など)、継続性(継続的に対応してくれる、個体(飼い主)を熟知している、など)、専門性(専門性を持っている、個体を第1に考えて熱心に治療する、優れた技術がある、など)。この対応内容別に記述割合を算出した。良い対応、悪い対応ともに、対話性について86%以上の人々に記述が見られ、5分類中、最多であった。良い対応の方が悪い対応より記述が多かったのは、包括性、継続性であり、良い対応の方が悪い対応より記述が少なかったのは、利便性・快適性、対話性であった。各記述の量は、経験年数では有意差は認められなかった。

対話性の中のインフォームド・コンセントまたは飼い主による治療の選択に関しては、あまり記述されなかつたが、悪い対応では良い対応より指摘が多かった($\chi^2(1)=15.88$, $p<0.001$)。インフォームド・コンセントまで至らなくても、飼い主への説明の重要性は比較的多く記述があった。中でも、今後の治療・看護・見通し、飼い主からの質問・相談への回答は、重要と認識されることが比較的多かつた。質問・相談への回答は、良い対応の方が悪い対応よりも記述が多かつた($\chi^2(1)=4.93$, $p<0.05$)。

＜考察＞ 動物看護師の経験年数と経験業務の関係から、しつけ・カウンセリングという飼い主や動物との対話性がかなり重要視される業務を除き、動物看護師は比較的短期間で多様な業務を経験し、一人前になっていることが分かった。また、経験年数と回答傾向との間の関連が薄かつたことから、経験年数の長い動物看護師を対象とした、対応に関するスキルアップの機会が不足している可能性が考えられる。

動物看護師は、飼い主と関係する業務の中で対話性を最重視していた。今後、動物看護における実現可能性の高いより良い対応サービスの改善は、動物看護師に付加価値とみなされがちであった包括性、継続性に関する対応の充実であろう。また、インフォームド・コンセント(質問・相談回答)の徹底も必要と思われる。

＜謝辞＞ 本研究の実施にあたり、日本動物看護学会と会員の皆様にご支援とご協力をいただきましたことを感謝します。

動物看護師が考える動物病院における対応

甲田菜穂子・三家詩織
(東京農工大学)

目的

- ・動物病院における対応について、動物看護師はどのように捉えているか。
- ・その認識は、業務の経験年数で違いはあるか。
- ・良いと思われる対応と悪いと思われる対応に違いはあるか。

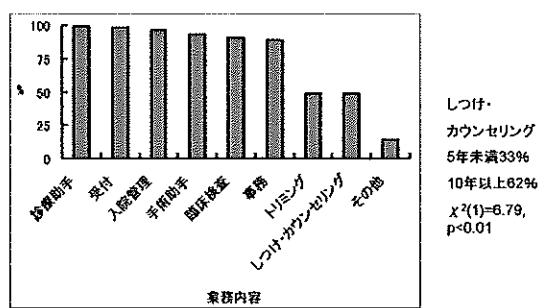
方法

- ・対象:動物看護師(日本動物看護学会員)
149名
- ・調査法:郵送による無記名質問紙調査
- ・時期:2004年

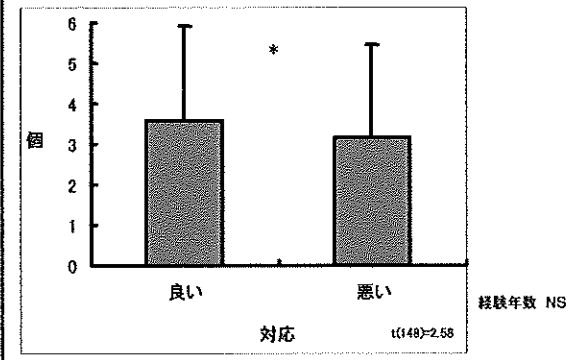
質問内容

- ・性別(男性2名、女性147名)
- ・年齢(29.99 ± 6.29 歳)
- ・動物看護経験(7.12 ± 4.05 年)
5年未満45名(30%)、10年以上37名(25%)
- ・経験業務の種類(選択式)
自由記述
 - ・獣医療関係者の対応で飼い主を嬉しい気持ちにさせると思うもの
 - ・獣医療関係者の対応で飼い主に嫌な思いをさせると思うもの

経験業務(複数回答)



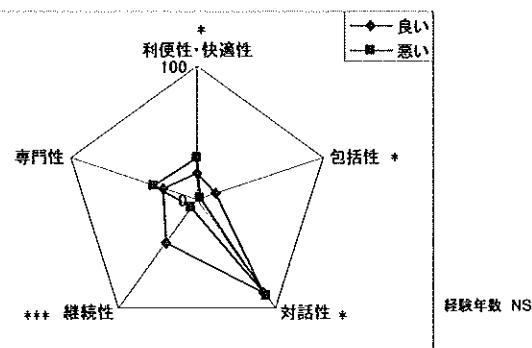
記入した事柄数



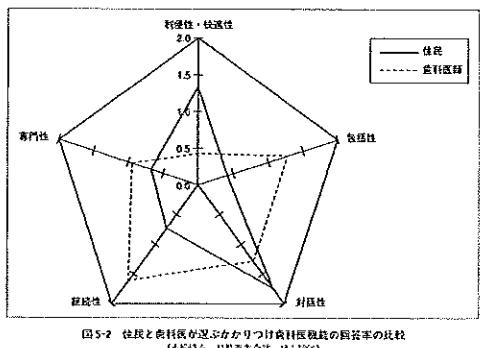
対応内容の5分類

- 利便性・快適性
待ち時間が短い、時間外対応、病院が清潔、安い、ドアの開閉・運搬介助
- 包括性
他種診療、主訴以外の診療、飼育指導、手入れ、往診、動物の扱い補助、ペットロス対応
- 対話性
丁寧に説明、相談しやすい、親しみやすい(動物にも)、治療の選択
- 継続性
継続的に対応、個体(飼い主)を熟知
- 専門性
専門性を持っている、個体を第1に考えて熱心に治療、優れた技術

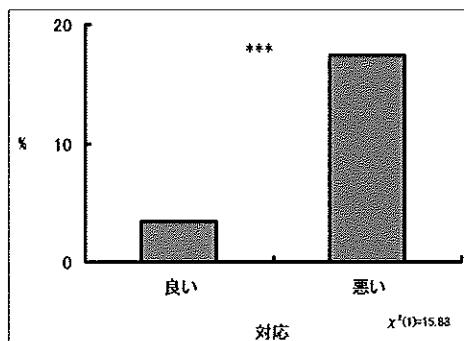
対応内容別割合



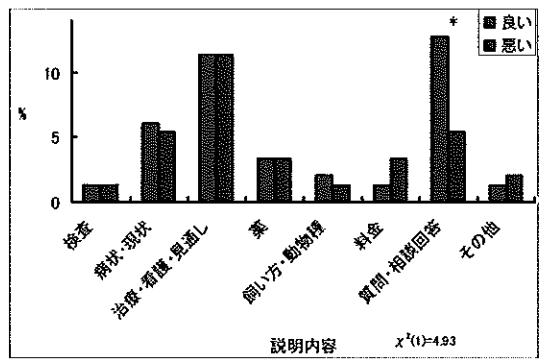
住民と歯科医師のかかりつけ歯科医機能の比較



インフォームド・コンセント、治療選択



説明内容別割合(複数回答)



考察

- 動物看護師は、比較的短期間で多様な業務を経験し、一人前になる
→熟練者のスキルアップの機会の必要性
- 対話性を最重視
- 実現可能性の高いより良いサービス
包括性、継続性の充実
インフォームド・コンセント(質問・相談回答)の徹底
- 当学会の実績を踏まえ、定期的に実態調査を行う必要性

謝辞

- ・本研究の実施にあたり、日本動物看護学会にご支援とご協力をいただきましたことを感謝します。
- ・質問紙にご回答いただきました本学会員の動物看護師の方々に感謝します。

A-②

動物看護師と利用者が考える医療における対応

東京農工大学 甲田菜穂子
東京農工大学 三家 詩織

＜目的＞ 医療サービスの中で、医療関係者の対応は、医療の質に大きな影響を及ぼす。人の医療が患者への対応が主であるのとは異なり、獣医療では飼い主と動物の双方に対する対応への配慮が求められる。本研究では、病院と動物病院における良い対応と悪い対応について、利用者はどのように捉えているか、質問紙調査を行った。さらに、動物病院における良い対応と悪い対応について、利用者(飼い主)と動物看護師ではどのような認識の違いがあるか調べた。

＜方法＞ 病院と動物病院の利用者として、2002年に専門学校の動物学科生 172名(平均 18.65歳)を対象として、授業中に無記名の質問紙調査を実施した。動物看護師に対しては、2004年に日本動物看護学会に質問紙の郵送を依頼し、動物看護師に無記名の回答を返送するよう依頼した。調査対象者は、日本動物看護学会員の動物看護師 149名(男性 2名、女性 147名、平均 29.99歳)であった。

学生には、病院(99名回答)利用時の医療関係者の対応と、動物病院(84名回答)利用時の獣医療関係者の対応で、「嬉しかったこと」、「嫌な思いをしたこと」について自由記述を求めた。動物看護師には獣医療関係者の対応で、「飼い主を嬉しい気持ちにさせると思うもの」、「飼い主に嫌な思いをさせると思うもの」について自由記述を求めた。いずれも症状の重さや治療内容とは関係なく回答を求め、内容分析を行った。

＜結果＞ 動物病院では、学生($t(83)=5.47$, $p<0.001$)、動物看護師($t(148)=2.58$, $p<0.05$)ともに良い対応は悪い対応より記述されやすかったが、病院に関して有意差は認められなかった。学生は、病院、動物病院ともに対応の対話性を最重視していた。学生は、病院に関しては利便性・快適性、専門性について良い対応より悪い対応の記述が多く、動物病院に関しては包括性について良い対応の方が悪い対応より記述が多かった。動物病院においては、学生は動物看護師の回答傾向と比較して、利便性・快適性、継続性はそれ程、求めていなかったが、包括性は比較的求めていた。

対話性の中のインフォームド・コンセントまたは利用者による治療の選択は、学生の記述は病院に関してわずかに見られたのみであった。動物看護師では、これらの事柄について、悪い対応では良い対応より記述が多かった。対話性の中の説明の内容では、学生は病院、動物病院ともに薬について重要視していた。病院より動物病院に求められたものは、病状・現状、予防(飼い方・動物種)の説明、質問・相談への回答であった。動物看護師は、動物病院における利用者の説明に関するニーズを比較的よく理解していた。ただし、治療・看護・見通しについての説明は、動物看護師が考えるほど学生は記述しなかった。一方、飼い方・動物種・予防についての説明は、動物看護師が考えるより学生は記述していた。

＜考察＞ 対象が動物、人に関わらず、医療では利用者、専門家ともに対話性が何よりも重要と考えていた。利用者による病院と動物病院の対応の比較から、動物病院では包括性、説明(病状・現状、飼い方・動物種・予防、質問・相談回答)をより求めていた。それは、動物病院の利用者は、自分のためではなく動物のために利用しており、他者としての動物の状態をより詳しく知りたいこと、飼育動物に関する情報源・支援源が限られており、そういうニーズを満たす場として動物病院を捉えていること、獣医療の専門医は少ないことが理由として考えられる。動物病院における対応について、学生と動物看護師の比較から、動物看護師は、利用者のニーズを比較的よく理解していたことが分かった。利用者のニーズをより満たすためには、対応の中の包括性の充実が挙げられる。すなわち動物病院において、人と動物の生活全般に渡る幅広い支援を行っていくことが望まれる。そして、インフォームド・コンセントができる医療関係者と利用者の関係を築くために、クライエント教育の必要性も示唆できる。

＜謝辞＞ 本研究の実施にあたり、日本動物看護学会と会員の皆様にご支援とご協力をいただきましたことを感謝します。

動物看護師と利用者が考える 医療における対応

甲田菜穂子・三家詩織
(東京農工大学)

目的

- 病院と動物病院における対応について、利用者はどのように捉えているか。
- 動物病院における対応について、利用者と動物看護師ではどのような認識の違いがあるか。

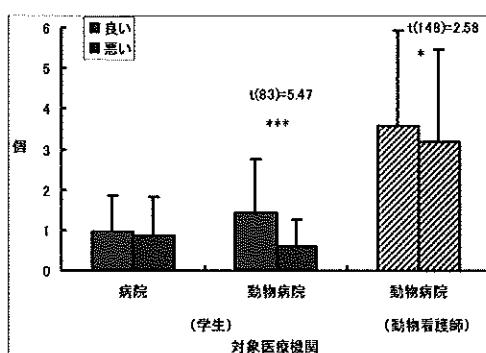
方法

- 対象: 専門学校の動物学科生172名
(18.65歳)
動物看護師(日本動物看護学会員)
149名
- 無記名質問紙調査
学生: 授業中に配布、回答、回収
動物看護師: 郵送法
- 時期
学生: 2002年
動物看護師: 2004年

質問内容(自由記述)

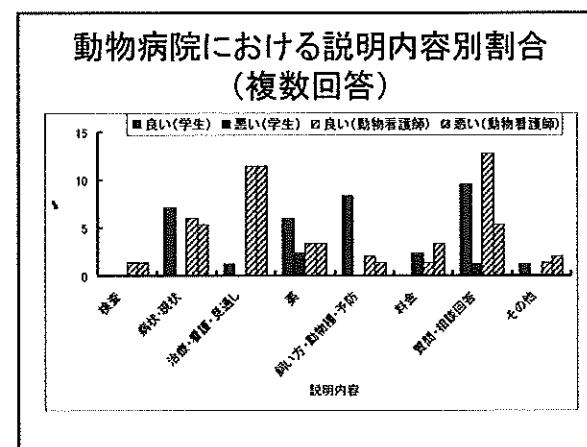
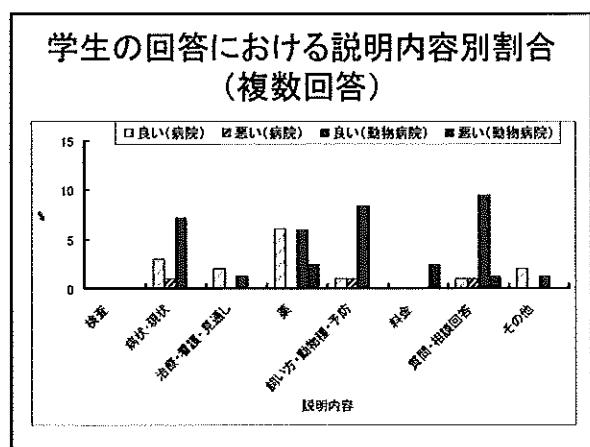
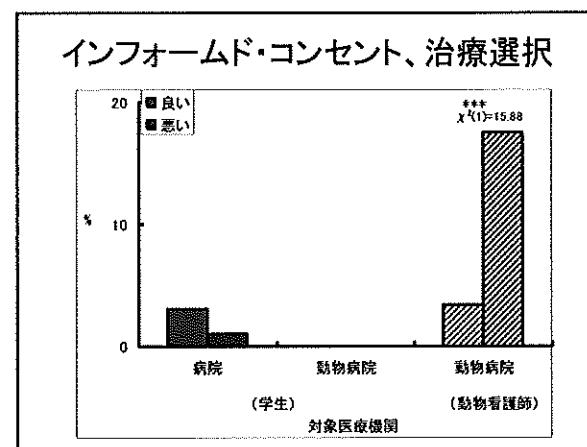
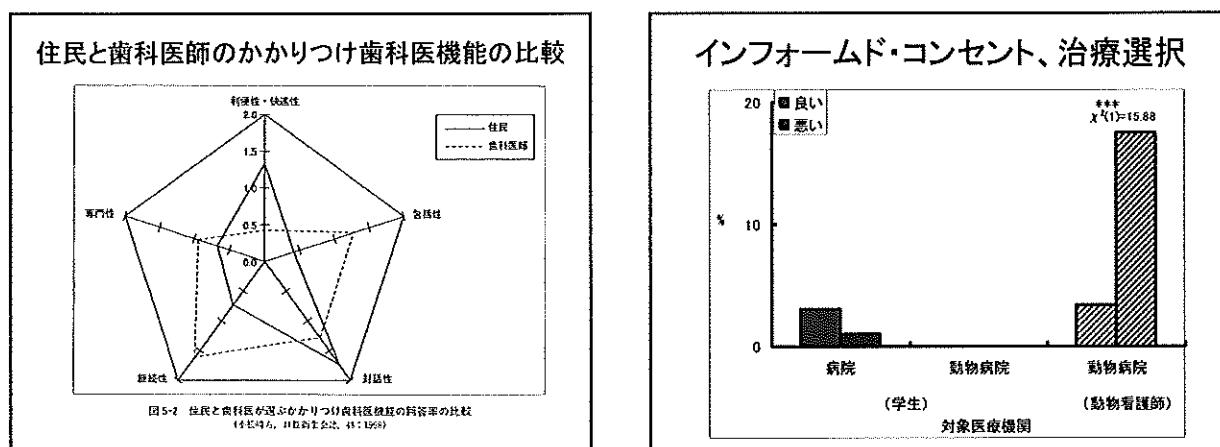
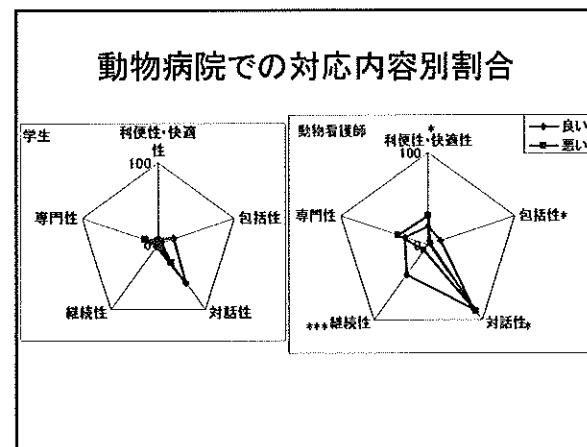
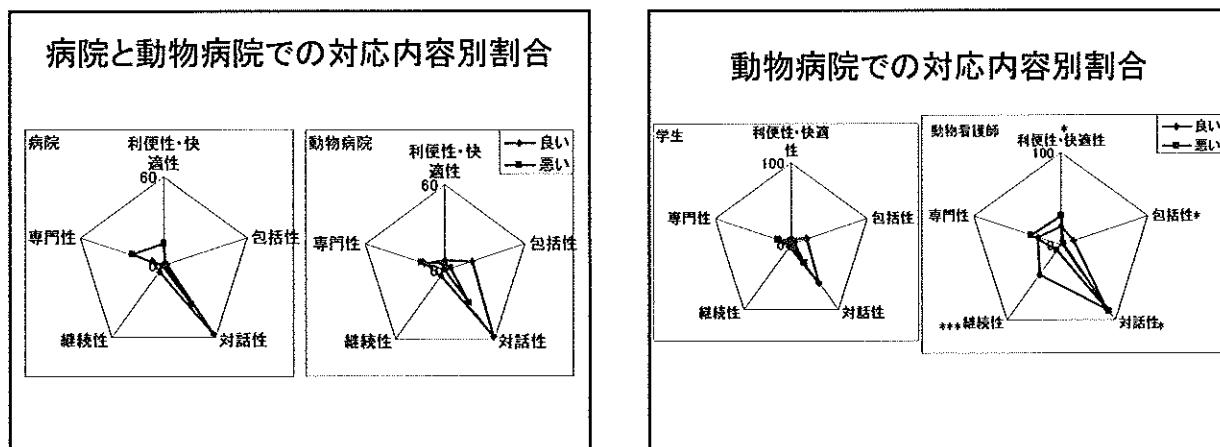
- 学生
病院(99名)…利用時の医療関係者の対応で
・嬉しかったこと
・嫌な思いをしたこと
動物病院(84名)…利用時の獣医療関係者の対応で
・嬉しかったこと
・嫌な思いをしたこと
- 動物看護師
獣医療関係者の対応で
・飼い主を嬉しい気持ちにさせると思うもの
・飼い主に嫌な思いをさせると思うもの

記入した事柄数



対応内容の5分類

- 利便性・快適性
待ち時間が短い、時間外対応、病院が清潔、安い、ドアの開閉・運搬介助
- 包括性
他種診療、主訴以外の診療、飼育指導、手入れ、往診、動物の扱い補助、ペットロス対応
- 対話性
丁寧に説明、相談しやすい、親しみやすい(動物にも)、治療の選択
- 継続性
継続的に対応、患者・個体(飼い主)を熟知
- 専門性
専門性を持っている、患者・個体を第1に考えて熱心に治療、優れた技術



考察1

- 良い対応と悪い対応は、必ずしも並行の関係ではなかった。
 - 対象が動物、人に関わらず、医療では利用者、専門家ともに対話性が何より重要
- インフォームド・コンセントができる関係
＝クライエント教育の必要性

考察2

- 病院と動物病院
動物病院では、利用者は包括性、説明(病状・現状、飼い方・動物種・予防、質問・相談回答)をより求めている。
…他者である動物のことだから
情報源・支援源が限られているから
専門医ではないから…
- 動物病院について学生と動物看護師
動物看護師は、利用者のニーズを比較的よく理解
利用者のニーズをより満たすためには
包括性の充実＝人と動物の生活全般に渡る幅広い支援

謝辞

- 本研究の実施にあたり、日本動物看護学会にご支援とご協力をいただきましたことを感謝します。
- 質問紙にご回答いただきました本学会員の動物看護師の方々に感謝します。

A-③

愛着の観点からみたペットの安楽死に関する大学生の意識 オーストラリア人大学生との比較を含めて

大阪商業大学経済学部 杉田陽出

欧米人に比べて、日本人はペットの安楽死に対して消極的なことが指摘されている。安楽死に関する日本と欧米の意識の差については、両文化の宗教や思想に基づく動物観の違いの観点から論じられることが多い。しかし、人間の場合とは異なり、飼い主がその決定を行うという点で、ペットを安楽死させるかどうかの判断には、日本、欧米の別を問わず、飼い主とペットの関係が少なからず影響するのではないかだろうか。本研究では、飼い主とペットの関係を表す概念として飼い主のペットへの愛着を取り上げ、日豪の大学生を対象に実施したアンケート調査で得られたデータを用いて、両国における飼い主のペットへの愛着とペットの安楽死賛否の関係について調査する。

本研究で用いたアンケート調査は、2005 年の夏、日本では関西地域の 5 大学、豪州ではクイーンズランド州ブリスベン市近郊の 4 大学において実施された。アンケートの内容は、性別や年齢、家族構成、ペット飼育経験、ペットの種類などの基本的属性を問う設間に加えて、ペットへの愛着スケール、ペットから得られる癒しスケール、ペット飼育に関する意見の賛否を問う設問から成り立つ。留学生及び 30 代以上の学生を除いた回答者数は、日本人大学生 384 人（男性 224 人、女性 160 人）、豪州人大学生 233 人（男性 46 人、女性 187 人）である。本研究では、この内、現在ペットを飼っていると回答した日本人大学生 188 人（男性 114 人、女性 74 人）と豪州人大学生 170 人（男性 26 人、女性 144 人）を対象に、ペットへの愛着を測る LAPS スケール（Johnson, et al., 1992）とペットの安楽死の賛否を問う設問項目を用いて以下の分析を行った。

まず、現在飼育しているペットの中で最も親しみを感じているペットについて回答した LAPS スケール 23 項目中、肯定的な内容である 21 項目の選択肢の値を反転したうえで因子分析を行ったところ、日本人大学生では 3 つ、豪州人大学生では 2 つの因子が抽出された。Johnson, et al. (1992) の調査を参考に、豪州人大学生について第 1 因子を一般的愛着、第 2 因子を人の代替とした。また、2 項目からなる第 2 因子を除き、日本人大学生について第 1 因子を人の代替、第 3 因子をペットの特性とし、これら 4 つの因子をそれぞれ日豪大学生のペットへの愛着変数とした。

次に、各愛着変数に含まれる設問項目の選択肢の合計値をペットへの愛着度、ペットの安楽死に関する設問項目の選択肢の値をペットの安楽死賛否度とし、日豪大学生のペットへの愛着とペットの安楽死賛否との相関関係を調べた。その結果、豪州人大学生では、2 つの愛着変数と安楽死賛否との間に統計的に有意な相関関係はみられなかった。一方、日本人大学生では、人の代替変数と安楽死賛否には正の相関関係がみられ、愛着が強いほど安楽死に反対する傾向がみられた ($p < .01$)。反対に、ペットの特性変数については負の相関関係がみられ、愛着が強いほど安楽死に賛成する傾向がみられた ($p < .10$)。

以上の結果から次のことが示唆される。まず、日本人大学生と豪州人大学生ではペットへの愛

着のタイプが異なる。次に、日本人大学生は豪州人大学生に比べてペットの安楽死に対して否定的であるものの ($p < .001$)、ペットへの愛着のタイプによって安楽死に対する意見が異なる。飼い主にとってペットが人の代替役割を持つ場合には安楽死に否定的であるが、飼い主が人とは異なるペットの特性を認めている場合には安楽死に肯定的である。一方、豪州人大学生については、ペットへの愛着はペットの安楽死賛否に影響せず、愛着のタイプや程度に関わらず安楽死を容認する傾向がある。ペットを不必要に苦しませることを虐待ととらえる文化においては (Veterinary Practitioners Registration Board of Victoria, 2006)、安楽死を判断する際にはペットへの愛着よりもペットが現在置かれている状況が優先されるのかもしれない。

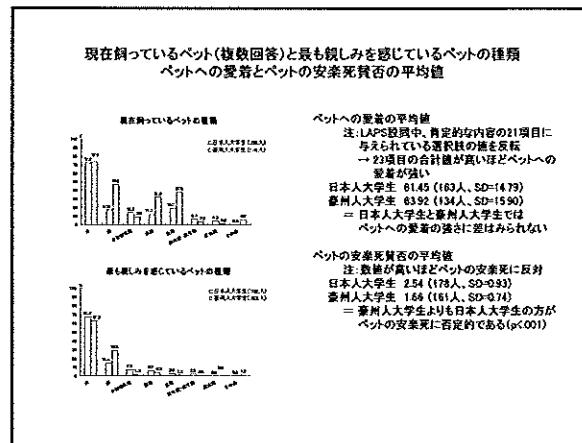
今回の調査結果から、日本人大学生のペットの安楽死の判断にはペットへの愛着が影響することが判明した。また、ペットの安楽死を考える上で日豪両国の文化的相違を無視できないことも示された。宗教や思想、さらには対人関係のあり方などを含めた文化的要因が飼い主のペット観に与える影響を考慮しつつ、今回の補足調査を行いたいと考える。

参考文献

- Johnson, T. P., Garrity, T. F., & Stallones, L. (1992). Psychometric evaluation of the Lexington Attachment to Pets Scale (LAPS). *Anthrozoös*, 5, 160-175.
- Veterinary Practitioners Registration Board of Victoria. (2006). Guideline 10 euthanasia of animals. In Guidelines [On-line]. Available: <http://www.vetboard.vic.gov.au/guidvet.html>.

<p align="center">愛着の観点からみたペットの安楽死に関する大学生の意識 オーストラリア人大学生との比較を含めて</p> <p align="center">大阪商業大学 経済学部 杉田陽出</p>	<p align="center">アンケート調査と回答者</p> <table border="0" style="width: 100%;"> <tr> <td>性別</td><td>日本人大学生 394人 (男性224人、女性160人) 豪州人大学生 230人 (男性115人、女性107人)</td></tr> <tr> <td>平均年齢</td><td>日本人大学生 19.25歳 (382人, SD=1.17) 豪州人大学生 19.79歳 (233人, SD=2.41)</td></tr> <tr> <td>対象者</td><td>日本 国立地域5大学の学生 豪州 クイーンズランド州ブリスベン近郊 4大学の学生</td></tr> <tr> <td>現在のペット飼育率</td><td>日本人大学生 49.5% (188人:男性114人、女性74人) 豪州人大学生 73.0% (170人:男性28人、女性144人)</td></tr> <tr> <td>収集方法</td><td>日本 大学での授業中にアンケート用紙を配布・ 自収 豪州 大学での授業中及び授業時間以外に アンケート用紙を配布・自収</td></tr> <tr> <td>収集期間</td><td>日本 2005年8~9月 豪州 2005年8~9月</td></tr> </table>	性別	日本人大学生 394人 (男性224人、女性160人) 豪州人大学生 230人 (男性115人、女性107人)	平均年齢	日本人大学生 19.25歳 (382人, SD=1.17) 豪州人大学生 19.79歳 (233人, SD=2.41)	対象者	日本 国立地域5大学の学生 豪州 クイーンズランド州ブリスベン近郊 4大学の学生	現在のペット飼育率	日本人大学生 49.5% (188人:男性114人、女性74人) 豪州人大学生 73.0% (170人:男性28人、女性144人)	収集方法	日本 大学での授業中にアンケート用紙を配布・ 自収 豪州 大学での授業中及び授業時間以外に アンケート用紙を配布・自収	収集期間	日本 2005年8~9月 豪州 2005年8~9月
性別	日本人大学生 394人 (男性224人、女性160人) 豪州人大学生 230人 (男性115人、女性107人)												
平均年齢	日本人大学生 19.25歳 (382人, SD=1.17) 豪州人大学生 19.79歳 (233人, SD=2.41)												
対象者	日本 国立地域5大学の学生 豪州 クイーンズランド州ブリスベン近郊 4大学の学生												
現在のペット飼育率	日本人大学生 49.5% (188人:男性114人、女性74人) 豪州人大学生 73.0% (170人:男性28人、女性144人)												
収集方法	日本 大学での授業中にアンケート用紙を配布・ 自収 豪州 大学での授業中及び授業時間以外に アンケート用紙を配布・自収												
収集期間	日本 2005年8~9月 豪州 2005年8~9月												

調査方法		
調査対象者		
現在ペットを飼っている 日本人大学生 188人 (男性114人、女性74人) 豪州人大学生 170人 (男性28人、女性144人)		
ペットへの愛着スケール		
The Lexington Attachment to Pets Scale (LAPS) (Johnson, et al., 1992) 現在飼育しているペットの中で最も親しみを感じているペットについて回答		
ペットの安楽死に関する設問		
「獣医師から不治のケガや病気でかかっているペットの安楽死を提案された場合、飼い主はそれに従ったほうがいい」 「そう思う」=1、「どちらかというとそう思う」=2、「どちらかといふとそう思わない」=3、「そう思わない」=4の選択肢が与えられている		
各分析においては、有意水準を10%に設定		



豪州人大学生(134人)のLAPSの因子分析結果 (主因子法、パリマックス回転)		
第1因子:一般的愛着	第2因子:人の代替	共通度
ペットは愛するものに見える ペットは手を貸す ペットは温ぬるい ペットは家事の一員 ペットとくま ペットは誰かに忠実 ペットは誰かに忠実 ペットのことを人に教える ペットの心のうつ伏せ ペットは優しくする 愛する 人の代替	信頼性(クロンバッックのα係数) 一般的愛着因子 0.93 人の代替因子 0.84 → 2つの愛着変数として使用	
各変数の平均値 一般的愛着実数 31.62 (SD=6.89) 人の代替実数 8.13 (SD=3.27)		
注:我中の各項目について、Johnson, et al. (1992) の調査では、赤は一般的愛着、青は人の代替、緑は動物の権利・特徴の各因子に含まれる		
因子得点 因子得点率	1.622 34.8%	X 0.862 26.8%

日本人大学生(163人)のLAPSの因子分析結果 (主因子法、パリマックス回転)		
第1因子:人の代替 第3因子:ペットの特性	第2因子:ペットの特徴	共通度
ペットは愛する ペットは愛する ペットは温ぬるい ペットは温ぬるい ペットは家事の一員 ペットは家事の一員 ペットは忠実 ペットは忠実 ペットのことを人に教える ペットのことを人に教える 愛する 人の代替 人の代替	信頼性(クロンバッックのα係数) 人の代替因子 0.89 ペットの特性因子 0.69 → 2つの愛着変数として使用	
各変数の平均値 人の代替実数 15.58 (SD=4.73) ペットの特性実数 6.07 (SD=2.16)		
注:我中の各項目について、Johnson, et al. (1992) の調査では、赤は一般的愛着、青は人の代替、緑は動物の権利・特徴の各因子に含まれる		
因子得点 因子得点率	2.005 30.3%	1.419 11.4%

各愛着度数とペットの安楽死賛否の相関関係

臺灣人(131人)

- =一般的愛着度数 $r = .00$ (ns)
- =人の代替度数 $r = .12$ (ns)
- =向愛性共にペットの安楽死賛否との間に統計的に有意な相関関係はみられない

日本人(158人)

- =人の代替度数 $r = .21$ ($p < .01$)
- =人の代替度数とペットの安楽死賛否には正の相関関係がみられる
- =人の代替度数の値が高くなるほど安楽死に反対
- =ペットの特性度数 $r = -.14$ ($p < .10$)
- =ペットの特性度数とペットの安楽死賛否には負の相関関係がみられる
- =ペットの特性度数の値が高くなるほど安楽死に賛成

今回の調査結果から示唆されるもの

- ・日本人大学生と臺灣人大学生ではペットへの愛着のタイプが異なる
- ・日本人大学生ではペットの安楽死賛否にペットへの愛着が影響する
- 1) 人の代替度数の値が高くなるほど安楽死に反対
→ ペットが人の代替役割を持つ傾向が強いほど安楽死に否定的であるといえ、ペットを人と同一化する傾向がその安楽死を判断する際の基盤要因になるのではないか
- 2) ペットの特性度数の値が高くなるほど安楽死に賛成
→ ペットに愛着をもたらしながらも人とは異なるペットの特性を認識することで、「ペットは人とは違う」という認識が働き、安楽死を容認しやすくなるのではないか
- ・臺灣人大学生に比べて日本人大学生はペットの安楽死に否定的であるものの、ペットへの愛着のタイプによつては安楽死に肯定的な傾向がある
- ・臺灣人大学生ではペットの安楽死賛否にペットへの愛着は影響しない
- = 愛着のタイプや程度にかかわらず安楽死に肯定的
- ペットを必要に感じさせることを虐待とされる文化においては(Veterinary Practitioners Registration Board of Victoria, 2006)、安楽死を判断する際に日々ペットの愛着よりもペットが現在置かれている状況、すなわちペットがケガや病気で苦しんでおり、日夜の見込みのないことが優先されるのではないか
- ・飼い主のペットの安楽死に対する意識やペット観を考えるうえで、文化的要因の影響を考慮する必要がある

問題点と今後の課題

ペットの安楽死に関する倫理的問題

- =獣医師から不治のケガや病気につかっているペットの安楽死を提案された場合、飼い主はそれに従つたほうがいい
- =飼い主個人の決定というよりは、獣医師の提案に従うかどうかを尋ねている
- =実際には、眞理質の対応や説明あるいは獣医師との信頼関係も飼い主の判断に影響するのではないか

調査対象者数の問題

- =調査対象者数が少ないので、現在ペットを飼っていると回答した者全員を対象に分析を行った
- =最も親しみを感じているペットの種類や飼い主の性別によって結果に違いが出るのではないか

参考文献

- Johnson, T. P., Garry, T. F., & Staffones, L. (1992). Psychometric evaluation of the Lexington Attachment to Pets Scale (LAPS). *Acknowledg. 5*, 160-173.
- Veterinary Practitioners Registration Board of Victoria. (2006). Guideline 10 euthanasia of animals. In *Guidelines* [On-line]. Available: <http://www.vetboard.vic.gov.au/puidvet/html>

B-①

歯科処置における準備と注意点

三浦 紫陽子¹⁾ 藤田 理恵子¹⁾ 大谷 美紀¹⁾ 佐藤 垣也子¹⁾ 山田 幸子¹⁾ 森 みゆき¹⁾ 渡辺 真由美¹⁾
平田 佳代子¹⁾ 小林 由布子¹⁾ 桐生 優¹⁾ 赤間 愛子¹⁾ 佐藤 千春¹⁾ 吉田 雅代¹⁾ 関 依子¹⁾
比地屋 有香¹⁾ 真下 奈緒¹⁾ 引橋 絵里香¹⁾ 宮川 則子¹⁾
藤田 桂一²⁾

1) フジタ動物病院 動物看護師 2) フジタ動物病院 獣医師

〒362-0074 埼玉県上尾市春日1-2-53

1. はじめに

近年、歯科処置を希望される患者数が増加してきている。人と異なり診察段階で口腔内を正確にみることは難しいため、実際に麻酔下でなければ適切な歯科処置の方法が決定しない場合が少なくない。歯科処置においては、術者の指示に従い速やかに必要な器具を揃えることと処置を速やかに進めるために獣医科学の知識を身につけることが看護師にも必要となる。そこで、当院での歯科処置における準備とそれに伴う注意点について報告する。

2. 歯科室の準備

処置台・麻酔・歯科用X線撮影・ユニット（電動器具）等の準備を行い、ただちに処置ができるよう事前に作動の確認を行い、電源は「ON」の状態にしておく。

3. 歯科処置の準備

歯科処置は大別すると「スケーリング・ルートプレーニング及びポリッシング」「歯内療法」「歯周外科・口腔外科」の処置に分類される。それぞれの処置に必要な器具等を速やかに用意出来るようにしておく。器具は処置前にあらかじめ滅菌もしくは消毒しておく。

4. 歯科室の清掃と器具・機器の洗浄

器具は洗浄し、滅菌あるいは紫外線消毒庫に保管する。機器はアルコールを用いて拭き、細かい所まで清掃する。また、室内は細菌が飛沫している状態なので空気清浄器を処置前から作動させ常に室内空気をクリーンな状態に保つ。

5. 考察

動物における一般手術は全身麻酔下で行う。いかに麻酔時間を短くし、適切な処置を行うかが重要である。しかし、歯科処置の場合、事前に歯垢歯石除去のみ行う予定の症例が抜歯や歯内治療が必要になることが少くない。したがって、早急に、それぞれの処置に必要な器具機材を準備出来なければならない。

当院では複数のスタッフが歯科処置前準備や歯科処置助手を行うので必要最小限の器具とその名前などを書き込んだ写真を使用して準備チェックを行っている。薬品や備品等の管理は担当制を用いており器具の不具合や不足品等が生じた場合には早急に対処するようにしている。適切に準備されていれば円滑に処置を行うことができ、このことにより動物の負担を最小限にし、術者は処置に集中することが出来ると考えられる。

今回の報告を行うことで、歯科処置の準備品は多いために改めて多くの確認や見直すべき点のあることを実感している。今後は再度チェックリストを見なおして自らも学ぶべく、さらにスタッフ間での準備における不均等をなくすように努めていきたいと思っている。

<参考文献>

●日本小動物獣医師会・動物看護師委員会監修 動物看護師のための小動物歯科学

○○○ 歯科処置における準備と注意点

○三浦 紫陽子¹⁾ 藤田 理恵子¹⁾ 大谷 美紀¹⁾
佐藤 亜也子¹⁾ 山田 幸子¹⁾ 森 みゆき¹⁾ 渡辺 真由美¹⁾
平田 佳代子¹⁾ 小林 由布子¹⁾ 桐生 優¹⁾ 赤間 美子¹⁾
佐藤 千春¹⁾ 吉田 雅代¹⁾ 関 依子¹⁾ 比地屋 有香¹⁾
眞下 奈緒¹⁾ 引樋 絵理香¹⁾ 宮川則子¹⁾
藤田 桂一²⁾

1)フジタ動物病院 動物看護師 2)フジタ動物病院 兽医師
〒362-0074 埼玉県上尾市春日1-2-53

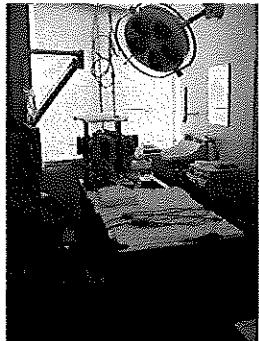
○○○ はじめに

- ◆ 歯科処置希望の患者数の増加
- ◆ 診察段階で口腔内を詳しく診ることは難しい
- ◆ 歯科処置は麻酔をかけた後でなければ詳細な処置内容がわからない
- ◆ 歯科処置では処置中に術者の指示に従い、速やかに器具を揃える必要がある



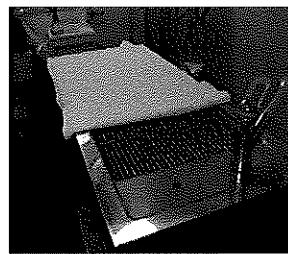
○○○ 歯科室の準備

- ◆ 処置台
- ◆ 麻酔
- ◆ X線撮影
- ◆ 歯科用ユニット
- ◆ シャーカス滕
- ◆ 無影灯
- ◆ 術者、助手
- ◆ その他



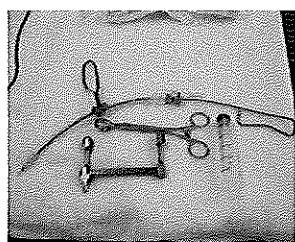
○○○ 処置台

- ◆ 保温マット
- ◆ タオル
- [交換用・枕用]



○○○ 麻酔の準備

- ◆ 気管チューブ
- ◆ スタイレット
- ◆ 開口器
- ◆ ポンプ
- ◆ 輪ゴム
- ◆ キシロカインスプレー
- ◆ 舌钳子
- ◆ 喉頭鏡
- ◆ 麻酔器
- ◆ 人工呼吸器
- ◆ 輸液ポンプ
- ◆ 心電計
- ◆ 呼吸マスク
- ◆ アルコールスプレー



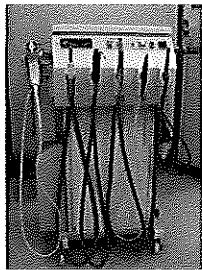
○○○ X線撮影準備

- ◆ 歯科用レントゲン装置
- ◆ 歯科用レントゲンフィルム [増感紙なし]
- ◆ 一液式現像器
- ◆ フィルム設置板
- ◆ フレキシブルフィルムホルダー
- ◆ 鉛手袋

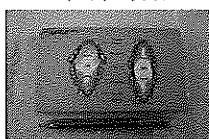
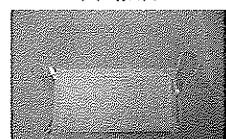
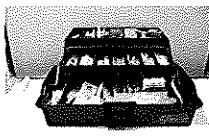
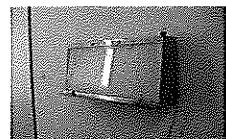


○○○ ユニット準備

- ◆ バキューム
- ◆ スリーウェイシリング
- ◆ 高速タービン
- ◆ 超音波スケーラー
- ◆ マイクロモーター
- ◆ 光重合器

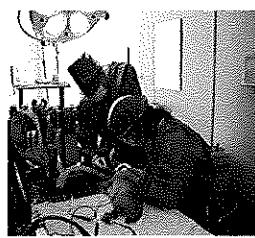


○○○ シャーカステン・無影灯・ 術者/助手 他



○○○ 歯科処置の準備

- ◆ スケーリング・
ルートプレーニング
及びポリッッシング
- ◆ 歯内治療
- ◆ 歯周外科・口腔外科



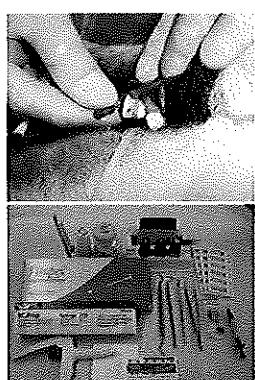
○○○ スケーリング・ルートプレーニング及 びポリッッシング

- ◆ 歯科用ミラー
- ◆ 歯科用ブローブ
- ◆ エキスプローラー
- ◆ ピンセット
- ◆ キュレット【数種類】
- ◆ ポリッッシングブラシ・
ラバーカップ
- ◆ 研磨剤
【荒研磨用・仕上げ用】
- ◆ ガーゼ
- ◆ ペリオクリン



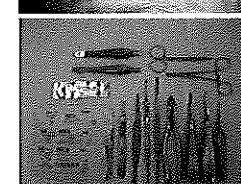
○○○ 歯内治療

- ◆ スケーリング・ルートプレーニング
及びポリッッシング用器具
- ◆ ラウンドバー *リーマー
- ◆ ファイル *ガタバーチャ
- ◆ エンドゲージ *紙蝶板
- ◆ ベーパーポイント *フジカーボ
- ◆ スパチュラ *ブローチ
- ◆ マイクロブラシ *エッキング糊
- ◆ レンツエロ *その他
- ◆ スプレッダー
- ◆ 植骨充填用セメント
- ◆ CR充填器
- ◆ ベースセメント
- ◆ 光重合器
- ◆ ボンディング剤
- ◆ コンポジットレジン



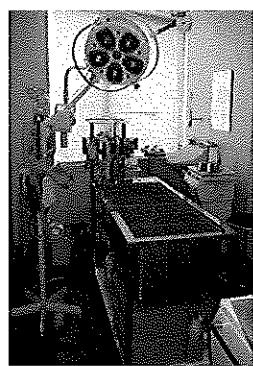
○○○ 歯周外科・口腔外科

- ◆ スケーリング・ルートプレーニング及びポリッッシング用器具
- ◆ 高速タービン
- ◆ エレベーター
- ◆ 抜歯钳子
- ◆ メス刃・メス柄
- ◆ 糸付き縫合糸
- ◆ 脊膜剥離子・粘膜剥離子
- ◆ 把針器
- ◆ ピンセット
- ◆ 錐

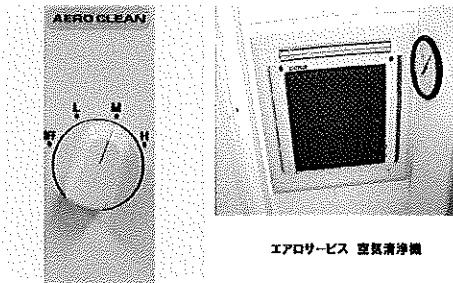


○○○ 歯科室の清掃

- ◆ 歯科室の清掃
- ◆ 機器
- ◆ 器具
- ◆ 術者・助手



○○○ 歯科室室内



エアロサービス 空気清浄機

○○○ 機器の消毒



○○○ 器具の消毒

- ◆ 器具に付いた血液や歯肉片をブラシで落とす
- ◆ 超音波洗浄器
- ◆ 紫外線消毒庫



紫外線消毒庫

○○○ 考察

- ◆ 適切な準備がなされていれば円滑に処置を行うことができ、動物の負担を最小限にすることが出来る
- ◆ 改めて多くの確認や見直しの必要性を実感した
- ◆ チェックリストの見直しや処置に必要な器具の印付け等を行う
- ◆ 自らも学ぶべく、更にスタッフの知識の向上に努めていきたい

B-②

当院におけるトリミング時の疾患別注意事項

○平田佳代子¹⁾藤田理恵子¹⁾大谷美紀¹⁾佐藤亜也子¹⁾山田幸子¹⁾松沢ふみ¹⁾森みゆき¹⁾渡辺真由美¹⁾三浦紫陽子¹⁾

小林由布子¹⁾小林優¹⁾赤間愛子¹⁾佐藤千春¹⁾吉田雅代¹⁾藤田桂一²⁾

1)フジタ動物病院 動物看護師 2) フジタ動物病院 院長・獣医師

はじめに

動物病院では高齢犬や何らかの疾患を持つ犬や猫に対してもトリミングを行うことがある。しかし、疾患を持つ犬や猫にトリミングを行うことはストレスを与え、状態を悪化させることも考えられる。そこで、各疾患のある動物をトリミングする際の当院での対応について報告する。

トリミングの流れ

当院では患者を対象としてトリミングを行っている。疾患があることや高齢であることが事前に明確である時には、トリミング前に診察を行い、飼い主には状態が悪化するおそれや時に急変して命に関わる可能性もあることを伝える。実際状態が悪化した場合、トリミングの作業を中止し、状況に応じて諸検査や処置を行うことに同意をしてもらう。さらに、お迎え時に帰宅後は安静にさせることや異変があった場合にはすぐに連絡していただくように指示をする。

トリミング時における注意事項 当院でのトリミング時に、特に多く見られる疾患の対処法を報告する。

1、心疾患の場合

状態が悪化したときに備え救急救命の準備をしておく。常に呼吸状態や、舌や可視粘膜の色調を意識し、室温を高くしないように注意して作業は手早く行う。シャンプー・ドライングの際は室温と同様に水温や風温に注意する。

2、高齢の場合

心疾患の時と同様に高齢動物の場合も救急救命の準備をしておき、トリミング台からの転落には十分に気を付ける。入浴時間となるべく短くし、カットする際に時間がかかるないように短めのスタイルをお勧めする。

3、膝蓋骨脱臼、椎間板疾患などの場合

トリミングテーブルに滑り止めのマットを敷き、患部には負担をかけないようにする。椎間板疾患などで完全な後駆麻痺の場合は排泄部位が汚染されているので校門周囲の被毛を短めに刈ることをお勧めする。

4、皮膚疾患の場合

多くの薬用シャンプーを用途により使い分ける。シャンプー時には皮膚にシャンプーを泡立てた状態で10分～15分置き、すすぎ、乾かす。

5、目に慢性的疾患がある場合

抗生素質入りの眼軟膏を塗布し、シャンプーが眼中に入らないようにし、ドライングの際にも風が直接当たらないようにする。また、目元（眼瞼の被毛や睫毛）をこまめに短くするように指示をする。

6、鎮静をかける猫の場合

当院では猫のトリミングを行う際には必要に応じて鎮静をかけることがある。預かり前の診察で健康状態であることを確認した上でトリミングに入る。鎮静下でトリミングを行うことの同意書に記入してもらい、呼吸停止などの場合に備え、気管挿管などができる準備もしておく。トリミング中は呼吸状態や可視粘膜の色調に注意をし、手早く行うよう心がける。

考察

近年、獣医療が発達し動物たちの寿命が延び、それに伴い各種の疾患を持つ動物も増えている。日常の健康管理の一環として動物病院でトリミングを希望する飼い主も増加傾向にある。動物病院でのトリミングは一般的のトリミングショップとは違い、病院が併設されていることにより各種疾患のある犬や猫を持つ飼い主にとって不安の中にも比較的安心してトリミングに預けているのではないかと考えられる。そのため、看護の知識や経験、および飼い主との十分なコミュニケーション能力が動物病院におけるトリマーには求められていると痛感している。また、動物の容態を観察できる力を付けることによって病気の早期発見・早期治療にも繋がり、その結果、動物達にとって毎日が気持ちよく過ごせるのではないかと考えている。

当院におけるトリミング時の 疾患別注意事項

○平田佳代子 藤田理恵子 大谷美紀 佐藤亜也子 山田幸子
松沢みみ 鹿嶋ゆき 速波真由美
三浦紫南子 小林由布子 小林 優 赤間愛子
佐藤千春 吉田雅代 藤田桂一

フジタ動物病院・埼玉県上尾市

はじめに

- トリミングに来るのは状態の良い犬だけではない
- 長毛種においてトリミングは重要なものである
- その他の犬種にとっても皮膚を清潔に保つ上でトリミングは欠かせないものである
- 疾患を持つ犬にトリミングを行うことは少なからずストレスを与え、悪化させる事もある

<トリミングの流れ>

- 患者を対象としてトリミングを行っている
- 事前にその犬に疾患があることや高齢であることが明確である
- 疾患の可能性がある場合トリミング前に診察を行う



お預かり前の診察

●トリミング承諾書



お迎え時



●獣医師からのお返し



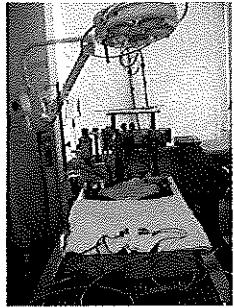
●トリマーからのお返し

<トリミング時における注意事項>

- 当院でのトリミング時に特に多く見られる疾患の対処方法を報告する



心疾患の場合



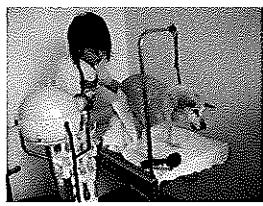
- 状態悪化に備え、救急救命の準備をしておく

心疾患患者のトリミングにあたって



- 呼吸の状態や可視粘膜の色調に注意をする
- 温度に注意をする
- もつれや毛玉はバリカンで剃毛し、負担を軽くする
- 作業は手早く行う

高齢の場合



- アームを使ってのトリミング

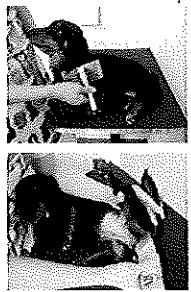
高齢の場合

- トリミング台からの転落に気を付ける
- 入浴時間は短くする
- 時間のかからない短めのスタイルをすすめる



腰蓋骨脱臼・椎間板疾患などの場合

- 滑り止めのマットを使用する
- 患部に負担のかからない様に行う
- 排泄時を考えお尻周りの毛は短くするように勤める



皮膚疾患の場合

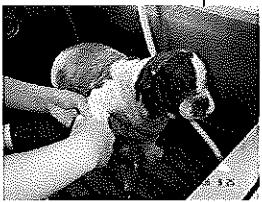


- 当院で取扱うシャンプー

皮膚疾患の際のシャンプー



- トリミング前に獣医師が診察を行い
使用するシャンプーを決定する



- 薬用シャンプーを泡立てた状態で
10~15分置き、よくすすぎ、乾かす

お迎え時

- お迎えの際には被毛を
清潔に保つためのシャンプーの仕方やお手入れ方法を指導する



目に慢性的疾患がある場合



- 慢性的な瞼内障をもつシーズー



- 抗生素入りの眼軟膏



- シャンプーの際眼軟膏を塗布する

シャンプー・ドライング時の注意点

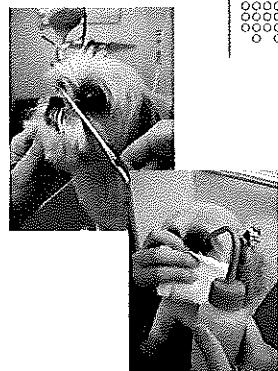


- シャンプー、ドライング
の際は直接目に当たらな
いようにする



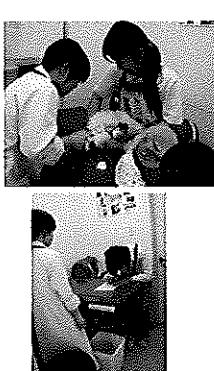
目元を清潔にするために

- 短めにカットをする
- トリミング後には目に
入った毛を生理食塩水
で洗い流す
- 目元を清潔に保つよう
に指示を出す



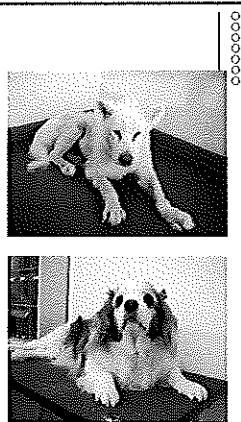
鎮静をかけるネコの場合

- 健康状態を確認の上行う
- 承諾書を頂く
- 気管挿管の出来る準備を
する
- 呼吸状態や可視粘膜の色
調に注意をする
- 作業は手早く行う



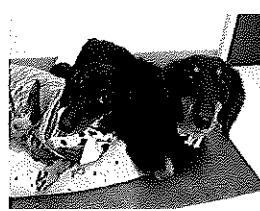
考察1

- ・獣医療の発達により動物の高齢化や各種の疾患が増えてきている
- ・日常の健康管理の一環として動物病院でトリミングを希望する飼い主が増えている



考察2

- ・動物病院のトリミング
容態をよく知る獣医師がいるため高齢犬や疾患をもつ犬が来院してもすぐに対応が出来る
- ・一般のトリミングサロン
心疾患や高齢などの場合に断られるケースがある



飼い主により安心していただくために

- ・トリマーとしてのトリミング技術
- ・正常、異常を見分ける鑑識眼
- ・看護の知識、経験
- ・飼い主とのコミュニケーション



- ・病気の早期発見、早期治療に繋がる
- ・飼い主だけではなく犬にとって毎日が気持ちよく過ごせる

B-③

術中の看護過程の展開

～手術における動物看護師の役割を考える～

西谷獣医科病院 動物看護師アシスタント 永尾秀一

動物看護師 瀬戸晴代 小川千加美 西谷孝子

獣医師 西谷利文

はじめに

手術室での動物看護師の役割として、手術が安全に行えるように動物の管理をしなければならないことがあげられる。その為には無菌的作業の徹底が重要であり、手術侵襲に対する生体の反応を十分に理解していかなければならない。そして何より、観察—判断—実行という一連の流れにおける時間が短時間で、安全に、確実にそしてスムーズに手術が終了するように援助することが最大のポイントである。

当院では、入院動物の看護に対しては、記録用紙を用いて動物看護過程を展開し実践している。ウイーデンバック¹⁾は、「看護婦が看護しているときに何を感じ、何を考えているかということは重要である。- 中略 - 看護婦の考えたり、感じたりすることは、ほとんど目に見えてこないものであるにもかかわらず、看護実践の中で最も重要な意味をもつ部分である。」と述べている。看護師が考えていることが看護過程ならばあらゆる場面を文章に表していこうと考えた。そこで、様々な器械に囲まれた緊張感のみなぎる特殊な場であり、生命に対するリスクの高い症例の看護を、記録用紙を用いて展開し実践した。

今症例は、老齢なジャイアント・シヌワザーで、右後肢端にできた腫瘍の治療をして断脚手術を実施することになった。手術の前日に、術中に考えられる看護上の問題点を明らかにし、看護計画を立案した。当院では、各業務をプロセスとして考えて文章化し、それぞれのプロセスを獣医師および看護師が協力し合い過不足なく遂行することで、飼い主の満足や動物の安全管理につなげる事ができると考えている。術前に手術の受け入れから手術が終了し麻酔から覚醒するまでの看護計画を立案し、実践した結果、今後の示唆を得たのでここに報告する。

1 研究目的

術前に、手術の受け入れから手術が終了し麻酔から覚醒するまでの看護計画を立案し、実践した結果、手術看護についての今後の示唆を得る。

2 研究方法

1) 症例研究

引用文献

1) アーネスティン・ウイーデンバック (1984)『臨床看護の本質- 患者援助の技術-』
p21~22, 現代社

術中の看護過程の展開

～手術における動物看護師の役割を考える～

西谷獣医科病院
動物看護師アシスタント
永尾秀一
動物看護師 濑戸晴代 小川千加美 西谷孝子
獣医師 西谷利文

I はじめに

手術室での動物看護師の役割は、観察－判断－実行という一連の流れにおける時間が短時間で、安全に、確実にそしてスムーズに手術が終了するように援助することが最大のポイントである。

今回、ジャイアント・シュナウザーの老齢犬が、右後肢断脚手術をすることになった。

術中の看護計画を立案し、実践した結果、今後の示唆を得たのでここに報告する。

II 研究目的

術中の看護計画を立案し、実践した結果、手術看護についての今後の示唆を得る。

III 研究方法

症例研究

症例紹介

動物 犬(ジャイアント・シュナウザー) メス 12歳

診断名 右後肢端に発生した扁平上皮癌

現病歴

平成19年5月29日 右後肢第4指の腫れを一部切除し病理検査を実施した結果、扁平上皮癌と診断され、6月14日右後肢断脚手術を実施した。

IV 看護上の問題点と看護計画

1) 看護上の問題点

- 高齢犬の手術である為、予備能力の低下につながり、手術や麻酔による侵襲を受けやすい
- 麻酔、手術の影響により循環血液量が減少し、血圧の変動を生じる恐れがある
- 高齢犬の手術である為、飼い主の手術に対する不安がある

2) 看護目標

- 急変することなく手術が無事に終了する
- 手術中、安定した循環動態が保たれる
- 手術の前に飼い主が手術に対する不安を表現できる

3)看護計画

- 手術、入院の受け入れを個室で15分～30分かけて行い、手術における気持ちを聴く
- 術前の血液検査、胸部のレントゲン検査を行い手術可能と判断した後、鎮痛剤として麻薬(塩酸モルヒネ)を使用することについて飼い主に承諾を得る
- 手術前に急変に備えてエマージェンシーポックスの点検をしておく
- 直接介助と間接介助のスタッフを1名ずつとする

- 各種モニター(ECG、血圧、脈拍、体温、SpO₂、麻酔ガス濃度、酸素、二酸化炭素、MAC)の観察
- 輸液、麻酔の管理
- 出血量のチェック
- 検査データの把握
- 術前後に酸素吸入を行う
- 確実に覚醒後ケージに移動する
- 覚醒後手術の様子を飼い主に報告する
- 出来るだけ当日に獣医師から詳しい説明を受けてもらう

V 当院における手術での流れと看護の実際

1)手術の承諾と予約

- 症状
右後肢の指が腫れて時々肢を引きずる
- 診断 扁平上皮癌
根治を目的とした治療として獣医師が断脚という手段を飼い主に薦めた。飼い主は「断脚した方がその子のためなら、お願いします」と手術をすることを決断され、手術の日程を決定した。

2)手術当日 入院の受け入れ

- 手術当日 ご夫婦一緒に来院され、手術の受け入れを個室で約30分時間かけて行った
- 受け入れ用紙に沿って話を聞き入院となつた飼い主より「早く楽にしてあげたい」「日々、ひどくなるのを見ているのが辛い」「肺転移があり、手術をしてもらえなかつたらどうしよう」「転移があつても痛がつて足をとつてほしい」と不安な気持ちも話されていた

3)術前検査及び入院ケージ等の準備

- 2頭分の広めのケージを使用した
- 肺転移の有無をレントゲン検査によって確認した
- 看護師よりレントゲン検査の結果、肺転移はなかつたので手術をすることを電話で伝えたところ、飼い主より「それでは、宜しくお願ひします」と安心した様子が伺えた

4)手術直前の準備

- 術前の処置の終了直後より酸素化を始めた
- 手術室に連れていった
- 看護師により左側臥位に固定し、各種モニターの装着、毛刈り、アルコールで清拭、ポピドンヨード液をスプレーし術野を消毒し、執刀開始の準備をした

5)手術中の看護

- 執刀獣医師1名、直接介助看護師1名で、間接介助の動物看護師1名で手術を開始した
- 今回の手術は、電動手術器具、凝固切開装置を用い、筋肉や神経を切断しながら、血管を止めていく方法をとったことにより、出血はほとんどなかった
- 術中は、BP107/62,P188回/分,SpO296%と共に安定していた

6)手術直後(覚醒時)の看護

- 5分間の酸素化
- 動物看護師2名で手術台より下ろし、タオルを敷いた上に寝かせ、体温の喪失を防いだ。希望事項であった爪切りをする
- 覚醒確認後、動物看護師2名で移動させた
- 手術の終了と、面会時間を電話で伝えたところ「わかりました。ありがとうございました。」と安心した様子が伺えた

VI 考察

- コンピューター制御電気メス凝固切開装置を導入していることにより、従来の手術時間より短縮することができ、出血もほとんどなく手術を終了することができた
- 直接介助の看護師を配置し、スムーズに手術が行えるように配慮した
- 間接介助の看護師が、3分おきのモニターによる血圧や心拍・脈拍数、SpO2の管理をし、獣医師の指示のもと麻酔の管理などに注意し、万全を期した

- 急変することもなく、手術終了まで血圧、心拍・脈拍、SpO2ともに安定する
- 術前に約30分かけて手術と入院の受け入れを行い、飼い主の気持ちを聞くことができた
- 術前検査の結果、術後の覚醒後の電話と経過を飼い主に報告することができ、その都度飼い主の気持ちを確認できた

最後に

- 看護目標は「急変することなく手術が無事終了する」となり、どんな手術の場合でも考えられる目標となった
- 術前の情報を収集し、解釈判断し個別のある看護上の問題点をあげることで、その患者に対する看護の視点や方向性が明らかになった
- 術中の看護計画を評価することで、その後の看護に必要な問題点が明らかにできる

VII まとめ

事前にリスクの高い手術が把握できている場合には、術前に術中の看護計画を立案した方が有効であると考えられる。

引用文献

1)アーネスティン・ウェーデンバッカ(1984)『臨床看護の本質—患者援助の技術—』p21~22、現代社

カルテ	12345	名前	姓: [] 名: []	性別	男	年齢	56歳	性別	男	年齢	32歳	性別	女	年齢	45歳
病室	4	病棟	4	部屋	4	ベッド番号	4	性別	男	年齢	32歳	性別	女	年齢	45歳
TRONA	12345	APGAR	10	体温	36.5	脈拍	60	呼吸	20	血圧	120/80	尿量	1000ml	瞳孔	正等大
主訴															
現病歴															
既往歴															
家族歴															
社会歴															
生活歴															
精神歴															
薬歴															
アレルギー歴															
検査結果															
処置															
予後															
備考															

入院の受け入れ記録(看護情報記録)	
【】	
項目	内容
入院時	○入院時 ○退院時 ○入院時と退院時
について	○他の入院歴なし ○他の入院歴あり
主訴	○主訴なし ○主訴あり
既往歴	○既往歴なし ○既往歴あり
家族歴	○家族歴なし ○家族歴あり
社会歴	○社会歴なし ○社会歴あり
生活歴	○生活歴なし ○生活歴あり
精神歴	○精神歴なし ○精神歴あり
薬歴	○薬歴なし ○薬歴あり
アレルギー歴	○アレルギー歴なし ○アレルギー歴あり
検査結果	○検査結果なし ○検査結果あり
処置	○処置なし ○処置あり
予後	○予後なし ○予後あり
備考	○備考なし ○備考あり

入院の受け入れ記録(看護情報記録)	
【】	
項目	内容
入院時	○入院時 ○退院時 ○入院時と退院時
について	○他の入院歴なし ○他の入院歴あり
主訴	○主訴なし ○主訴あり
既往歴	○既往歴なし ○既往歴あり
家族歴	○家族歴なし ○家族歴あり
社会歴	○社会歴なし ○社会歴あり
生活歴	○生活歴なし ○生活歴あり
精神歴	○精神歴なし ○精神歴あり
薬歴	○薬歴なし ○薬歴あり
アレルギー歴	○アレルギー歴なし ○アレルギー歴あり
検査結果	○検査結果なし ○検査結果あり
処置	○処置なし ○処置あり
予後	○予後なし ○予後あり
備考	○備考なし ○備考あり

手術・入院	
ABD	No. [] 様
誕生日	[]
退院予定日	[]
月 日	
電話番号	() -
その他	○ 婦・その他 () 哺乳 () 1ヶ月 () 3ヶ月
性別	女性
状態	○ 既往歴なし ○ 既往歴あり
既往歴	○ 既往歴なし ○ 既往歴あり
治療方針	○ 既往歴なし ○ 既往歴あり
皮膚・注射	○ 既往歴なし ○ 既往歴あり
投薬	
食事	
食制	○ 食事・液体食 () G・M・S カップ食
退院	
記載すること	
注意事項	○ 注意事項 () カード・タグ・キット ○ 病院の規定があった場合は、日付を入れて、各自署名して下さい

手術受け入れ用紙	
Cast・Spay・歯石・腫瘍・骨折、()	
ライフチャップ有・無日付()記載者()	
カルテNO. [] 会員登録()	
一般状態	元気 () 気 () 疲労 () 無
バイタル	T 37.5 P 114 R 23 F BW 20
BCS	1 2 3 4 5
皮膚	乾燥 () 潤滑 () 手・足
爪	長い () 短い () 切り欠き有
耳	清潔 () 汚れ () 耳管狭窄有
口腔状態	清潔 () 汚れ () もつれ () 口渉症
★手術部位有 () ない () あり () なし ()	
直達部位 () 有 () なし () ECO () CEC () 超音波・挿経	
★大筋筋膜有 () 有 () なし () ★マイクロチップ有 () 有 ()	
★ミクニーシガポート有 () 有 () なし ()	
★手術内容についての理解 () 有 () なし ()	
★手術の流れについて理解 () 有 () なし ()	
★手術の説明有 () 有 () なし ()	
その他の記入 ()	
★手術部位 () ワラチン有 () 血栓有 () フィラリア有 ()	
★下肢有 ()	

— これからの動物看護を共につくりあげましょう！ —

日本動物看護学会 第16回 大会

● テキストB ●

第2部 B ④～⑦ C D



2007（平成19）年 7月8日（日）
東京 港区 慶應義塾大学・三田キャンパス 北館ホール

この冊子はコピー機により制作しておりますので、印刷の不鮮明により、ご覧いただきづらい箇所も一部ございます。

申し訳ございませんがご了承ください。

これ以前の発表分は「テキストA（ブルー色の表紙）」に掲載しています

B. 動物看護の現場から

解説／石岡克己（日本獣医生命科学大学 獣医学部 獣医保健看護学科 講師）

進行／中俣由紀子（本学会理事、茨城県・かしま動物病院、動物看護師）

④下半身麻痺の犬の看護とりハッピリ 長嶺孝太（沖縄ペットワールド専門学校） p2

⑤外来看護記録用紙の作成—臨床動物看護研究会におけるグループワーク一 遊座晶子（つくば国際ペット専門学校・教諭 動物看護師） p7

⑥当院での外来看護記録の作成 斎藤みちる（神奈川県・七里ガ浜ペットクリニック 動物看護師） p15

⑦動物眼科二次診療施設における外来看護

一点眼指導の関わりを外来看護記録用紙の作成にて振り返る一

中井江梨子（東京都・どうぶつ眼科 Eye Vet 動物看護師） p23

C. 二次診療施設（大学病院）における取り組み

解説／桜井富士朗（本学会副会長、東京都・桜井動物病院院長、帝京科学大学アニマルサイエンス学科 客員教授）

進行／中井江梨子（本学会評議員、東京都・どうぶつ眼科 EyeVet、動物看護師）

①大学病院における動物看護師の役割 田村浩美（北海道・帯広畜産大学附属家畜病院 動物看護師） p30

②血液ドナー犬の管理—麻布大学附属動物病院の方法一 和田優子（神奈川県・麻布大学附属動物病院 動物看護師） p33

D. 動物看護師がひらく新たな方向性 解説と進行はCと同じ

①山梨動物看護師勉強会「PRIDE & CONFIDENCE」3年間の報告

高橋真由（山梨県・赤池ペットクリニック 動物看護師） p37

②当院におけるインシデント・アクシデントの低減案—ヒヤリ・ハット帳を利用しての評価と課題一 濑戸晴代（広島県・西谷獣医科病院 動物看護師） p41

③避妊手術後に見られる犬の痛み行動について—動物のいたみ研究会ペインスケールを利用して—

斎藤みちる（神奈川県・七里ガ浜ペットクリニック 動物看護師） p47

18:00～19:30 交流会

受付前の会議室にて行います。飲物と軽食をご用意しています。出入り自由な“打ち上げ”ですので、気楽にご参加ください！

別途費用はかかりません。お一人でも大丈夫です！

B-④

下半身麻痺の犬の看護とリハビリ

沖縄ペットワールド専門学校 長嶺孝太

はじめに

私がこの下半身麻痺の犬の看護とリハビリについて学ぼうと思ったのは、たまたま保護した犬が下半身麻痺になってしまったことです。最近脊椎に関する疾患が多くなっていると聞き、保護した犬を通して、今後同じ境遇の犬とクライアントに役立てられないかと考え、家庭でできる下半身麻痺の犬の看護とリハビリを勉強し、実践したことの経緯をまとめました。

保護から手術・術後の状態

平成18年4月20日22時半頃、交通事故に遭った犬を保護した。正面から車に衝突した様で、口腔に出血があり、事故のショックで前肢を突っ張った状態だった。

4月21日、レントゲン検査の結果、第11胸椎と第12胸椎を骨折し、脊髄神経を圧迫していることがわかった。この日は上半身だけも起き上がることができず、排尿も出来なかつた。

4月22日、手術をする。脊椎を圧迫している骨を除去しピンニング後レジンで固定した。

脊髄神経の損傷が激しいため、下半身麻痺の改善は困難と思われた。

一週間入院し、4月29日に退院した。排尿障害があり、尿道カテーテルを装着していたが、退院4日目に抜去してしまっていた。その日からは、一日3~4回、圧迫で排尿をする。月に一度通院し、膀胱洗浄と神経の検査を行う。

痛覚も全く無いようで、後肢や尾を全く動かさなかつた。手術後急激に下半身の筋力が落ちてきた。

リハビリと経過・現状態

退院日（術後約1週間目）から後肢の屈伸運動など簡単なリハビリを始める。術後約1週間半後に、屈筋反応が強くなる。術後一ヶ月頃から反射で足が動くように（抱き上げた時に空を蹴る様に）なるが、立位姿勢は維持できない。足を自転車こぎのように動かし、併せてマッサージも行い、刺激を与え始める。

術後約半年から1~2分立位姿勢を保持できるようになり、ナックリングが少なくなる。この頃はまだバランスをとれずに歩こうとすると倒れてしまう。

術後約8ヶ月から稀に自力で立ち上がる動作を見せるようになり、毎回ではないが、後肢も使い十数歩、歩けるようになる。術後1年から、勢いをつけると10mくらい歩けるようになる。

術後1年1ヶ月からは水泳療法を取り入れる。タオルと発砲スチロールで補助着を作り、海や浴槽で運動を週1回のペースで行う。足がつく深さでは四肢で体を支えて歩き回ることが出来る。

左右の足の太さに差が出てきていて、左足が少し細く、踏ん張れる力が弱い。

現状態は筋力がついてきていて、立位姿勢のみなら2~3分程維持できるようになり、足をわずかに動かしたりするが、痛覚（皮筋反応）やバランス感覚は無い。

合併症として膀胱炎、血尿、尿結石（ストラバイト結石）になる。圧迫排尿で尿を出し切れないことが主な原因と考えられるが、下半身が地面をこすって歩く事から、雑菌が尿道に入りやすいとも考えられ、担当医の提案でオムツを着用してみたところ、血尿が改善した（膀胱炎は下半身麻痺の犬でよく併発する症状と聞きます）。

学んだことと今後

今回約1年間、下半身麻痺の犬の看護とリハビリをしてきて、リハビリ開始時期や、下半身麻痺になるとどのような機能制限・運動障害がおこり、それに合わせてどういった看護やリハビリを行うか、また回復にしたがってどのようにリハビリの計画を考え実行するか等、犬に合わせての計画を立てることの難しさを学びました。また、今後リハビリを続けていく事により出てくると思われる問題などを試行錯誤しながら、看護とリハビリを続けたいと思います。

下半身麻痺の犬の看護とりハビリ



沖縄ペットワールド専門学校
動物看護師学科
長嶺孝太

保護の経緯

平成18年4月20日22時半頃、交通事故に遭った犬を偶然保護した。

プロフィール
 ▶推定年齢 3~5歳
 ▶性 別 メス
 ▶体 重 5.1kg
 ▶命 名 ラフ

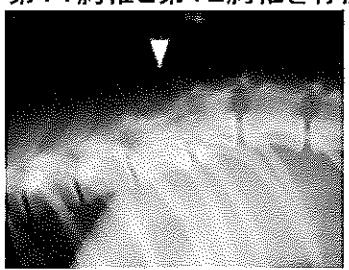


保護の経緯

- この日すぐ夜間緊急指定病院に連れて行き、1日様子を見る。
- 4月21日、事故から約18時間後、近くの動物病院で診察を受ける。

レントゲン検査

第11胸椎と第12胸椎を骨折



神経学的検査

検査	結果
プロブリオセプション	0
膝蓋腱反射	1
屈筋反射	1
立ち直り反応(後肢)	0
皮筋反射	T13 or L1以降 0

NE=検査せず
0=消失
1=低下
2=正常
3=亢進
4=クローススを伴う亢進

手術について

- 日時
4月22日、事故後約47時間後に手術をする。
(指定された動物病院にて)
- 手術方法
胸骨がずれて脊髄神経を圧迫していたので、その骨を除去。
神経に傷がついていなかったため、ピンニング後レジンで固定。

術後の状態

- 術後、下半身麻痺になっていることが判明。
- 排尿障害が起こっていたため、退院時は尿道カテーテルを装着したいたが、退院4日後にラブが自分で引き抜いてしまった。
- 退院直後、後肢や尾を全く動かさず、痛感覚も無い。



リハビリと経過

リハビリ方法 退院後(術後約1週間後)～

屈伸運動

後肢の曲げ伸ばし運動を毎日20回片方ずつ行う。

足裏マッサージ

パッドを揉んだり、つねったり(皮筋反射)して刺激を与える。



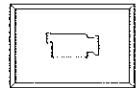
リハビリと経過

経過

術後約1週間半後～

屈筋反射が強くなる。

立ち直り反応(後肢)は見られない。



術後1ヶ月頃～

反射で肢が動くようになる(抱き上げた時に空を蹴る様に)になる。

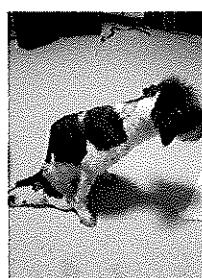
まだ介助しても立位姿勢は維持できない。

立位姿勢を取ろうとしても足底をつけることができずにナックリングしてしまう。

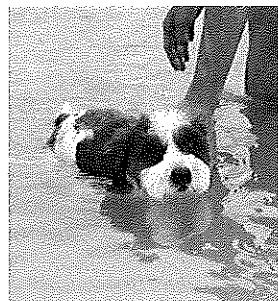


術後約半年～

立位姿勢の様子

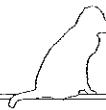


水泳療法(海での場合)



現状態

- 立位姿勢のみなら2～3分程維持できるが、バランス感覚はない。
- 足を引っ込める仕草を見せたり、足をわずかに動かしたりする。
- 左右の筋肉量に差が出てきていて、左足の方が細く、踏ん張る力が弱い。
- 未だ痛覚(皮筋反応・屈筋反射による)はない。



神経学的検査

検査	手術前の結果	現在の結果
プロブリオセプション	0	0
膝蓋腱反射	1	2
屈筋反射	1	2
立ち直り反応(後肢)	0	1
皮筋反射	T13orL1以降 0	同左 1

NE=検査せず
0=消失
1=低下
2=正常
3=亢進
4=クローヌスを伴う亢進




合併症

膀胱炎

→圧迫排尿開始後、徐々に臭いが強くなり、色が濃くなる。

尿結石(ストラバイト結石)

→毎月病院にて確認。

血尿

→H19年4月(保護から約1年後)に一時期(2週間)血尿が出る。→オムツ着用で対応。

原因と対処法

原因

- 圧迫排尿で尿を出し切れずに、古い尿が残り、膀胱に細菌が増える。
- 下半身が地面をこすって歩くことで、雑菌が尿道に入りやすいことも考えられる(膀胱炎は下半身麻痺の犬によく併発すると聞く)。



原因と対処法

対処法

- このことから、担当医の提案でラブにオムツを着用してみたところ、膀胱炎が少しだが回復してきた。
- 月に1度通院し、膀胱洗浄と、神経検査を行う。



まとめ

1. 手術のタイミングが遅かったのではないか?
2. 運動量が少なかったのではないか?
3. リハビリのレパートリーがすくなかつたのではないか?
4. 膀胱炎において、衛生面でもっと早くから気をつけることはなかつたか?



参考図書

インターペー
サンダース ベテリナリークリニクスシリ
ズ 1-6
『リハビリテーションと理学療法』



最後に

ラブの手術をしてください。
今回の発表において
助言をしてください。
池原秀吉先生に
深く感謝申しあげます。

B-⑤

外来看護記録用紙の作成

— 臨床動物看護研究会におけるグループワーク —

遊座 晶子（つくば国際ペット専門学校）

西谷 孝子（西谷獣医科病院）

はじめに

動物達はペットから伴侶動物へとその扱いも変化し、人間の生活にはより身近なものとなっていました。それに伴い、飼主の関心も動物に対する様々なサービスへと向けられるようになり、動物医療もその中のひとつと捉えられています。近年、動物病院を訪れる動物は、その数も種類も増え、通院や在宅でのケアが必要になる場面が多く見られます。

そのような中で、私達は動物医療チームとして、どのような場合であっても、安定した、信頼のにおける動物医療を提供することが大切になります。診療記録としてカルテがあるように、看護についてもその過程を記録に残すことが必要になってきていると考えられます。

平成18年7月より5回にわたり、臨床動物看護研究会では、入院看護記録の概念から記録方法までを学び、看護記録の重要性について学んできました。その中で、研究会参加者それぞれが、外来看護についての記録を残す必要性を感じました。そこで、グループワークを導入し、外来看護記録用紙の作成を試みることにしました。

その結果、今回は外来看護記録用紙の作成には至りませんでしたが、グループワークを振り返ることで、今後の外来看護記録作成に向けての示唆が得られたので、ここに報告します。

研究目的

臨床動物看護研究会でのグループワークの内容を振り返り、今後、所属病院における外来看護記録用紙を作成、導入について示唆を得る

研究方法

グループワークを導入し、外来看護記録用紙の作成に向けて検討した内容を考察する

参加者：「第2期 臨床動物看護研究会」参加者 11名

実施期間：平成18年12月3日（日）、平成19年1月7日（日） 計2回

臨床動物看護研究会開催後、1時間30分程度

結果

臨床動物看護研究会での入院看護記録の概念を基に、各個人の意見が十分反映できるように無作為に4名ずつまづ、2グループに分け、検討事項5項目を明らかにするところから始めました。

①外来看護の役割とは何か？

外来看護の役割を考える中で、その特殊性、専門性について気付くまでに至らなかった

②外来看護の対象は何か？

外来看護の役割を把握していないため、「外来」という言葉から漠然とイメージしている

③どのような業務をどのくらいの時間で行っているのか？

外来看護記録導入に向けてという目的意識が薄くなつたため、検討事項の問い合わせを目的意識を持った内容にするほうが効果的であった

④外来看護記録を導入する目的や利点は何か？

導入の目的や利点を十分に理解し、看護記録がよりよい看護につながることを理解した

⑤どのような内容を外来看護記録用紙に記載するべきか？

全ての意見をカバーしようとしたため、対象が絞りきれず、記録項目を具体的に挙げることができなかつた

考察

今回の目標である「外来看護記録用紙の作成」については、内容面、時間的制限、病院全体での協力体制、獣医師や飼主の理解など問題点も多く、グループワーク内では作成までに至りませんでした。しかし、看護記録を実践で活かすには、共通のフォーマットではなく、個々の病院に見合つた記録用紙が必要であるということが理解できました。今後は、統一した考えを持つそれぞれの動物病院内でフォーマット化し、実際の導入に向けての研究を続けていきたいと考えます。

外来看護記録用紙の作成 ～臨床動物看護研究会におけるグループワーク～

つくば国際ペット専門学校
動物看護師 斎藤晶子
西谷獣医クリニック
動物看護師 西谷孝子

はじめに

- 動物の扱いの変化
ペットから伴侶動物へと変化
↓
人間の生活に、より身近な存在
- 飼主の関心
動物に対する様々なサービスへと向けられる
↓
動物医療もその中のひとつと捉えられている

- 動物病院を訪れる動物
通院や在宅でのケアが必要になる場面が多く見られる
- 動物医療チームの責務
どのような場合であっても、安定した、信頼のにおける動物医療の提供が求められる
↓
診療記録としてカルテがあるように、看護についても、その過程を記録に残すことが必要になってきていると考えられる

- 臨床動物看護研究会
平成18年7月より5回にわたり実施
↓
入院看護記録の概念から記録方法までを学ぶ
↓
外来看護についての記録を残す必要性を感じる
↓
グループワークを導入し、外来看護記録用紙の作成を試みる

研究目的

- 臨床動物看護研究会でのグループワークの内容を振り返り、今後、所属病院における外来看護記録用紙を作成、導入について示唆を得る

研究方法

- グループワークを導入し、外来看護記録用紙の作成に向けて検討した内容を考察する

グループワーク紹介

- 参加者：「第2期 臨床動物看護研究会」参加者
動物病院勤務 動物看護師8名
大学病院勤務 動物看護師1名
専門学校勤務 動物看護師1名
動物看護を学習している学生1名
※但し、1回のみ参加の方もいた

■ 実施期間 平成18年12月3日(日)
平成19年 1月7日(日) 計2回

臨床動物看護研究会開催後 1時間30分程度

実践

1) 検討事項

- ① 外来看護の役割とは何か(何を目的として行っているのか)
- ② 外来看護の対象は何か(誰を対象としているのか)
- ③ どのような業務をどのくらいの時間で行っているのか(業務の内容とかかる時間)
- ④ 外来看護記録を導入する目的や利点は何か
- ⑤ どのような内容を外来看護記録用紙に記載するべきか

2) 検討結果

① 外来看護の役割とは何か(何を目的として行っているのか)

- ・ 動物、飼主、地域の人々が安心し、理解してもらえるよう持続的に援助する
- ・ 飼主と獣医師の橋渡し
- ・ 受付、電話の対応での病院の印象をいかに良くするか
- ・ 動物が、安楽な状態でスムーズに治療や検査を受けられる環境を提供する
- ・ 飼主の主体的な参加を促す

② 外来看護の対象は何か(誰を対象としているのか)

- ・ 動物、飼主、地域の人々(病院周辺、問題行動の子をかかえている人)
- ・ 外来に訪れた動物と飼主、地域

③ どのような業務をどのくらいの時間で行っているのか (業務の内容とかかる時間)

- ・ 個々によくても、病院によくても違う
- ・ 問診1~2分、5~7分
- ・ 治療5~10分
- ・ 診察から保定、検査、治療行為によりその都度違うが5分、10分、20分くらい
- ・ 診断、手術以外のすべての業務
- ・ 告白をとりカルテに記入、TRP、保定、注射、皮下点滴、内服薬の準備、臨床検査、証明書発行、会計
- ・ 必要に応じてしつけ、栄養、介護、美容などの相談
- ・ 動物と飼主とのコミュニケーションに対する支援
- ・ 時間は、病院の地域や形態によって異なるが、1時間以内が多い

④ 外来看護記録を導入する目的や利点は何か

- ・ 看護をするという目的意識が深まる
- ・ 自らの看護行為を見直すことができ、知識、技術力の向上が得られ、看護の振り返りができる、問題点、改善点が明らかになる
- ・ いろいろな意見が出て看護のアイデアが増える
- ・ 医療行為以外のマネジメントを、スタッフの誰が見てても分かるように記録することで共通認識が持て、飼主への支援、指導などを統一して行う事が出来る
- ・ 外来看護記録をとることで、次回の目標、看護計画を立てることができる
- ・ ポイントを絞って飼主への支援、指導が出来るため、診療時間の短縮ができる

⑤どのような内容を外来看護記録用紙に記載するべきか

- 家族構成
- 生活スタイル、居住環境
- 動物の性格、クセ
- 食べ物(好み、回数、フード量)
- 看護ケア(計画)
- しつけの問題、直し方、経過
- 問題だと思うこと(現状での問題点)
- 飼主の要望(どうしたいか)
- 飼主に出来ること(飼主が自宅で出来るケアのレベル)
- 目標(中間と達成目標)
- 実際に行った看護

参加者の感想

①外来看護記録について

- 看護記録をとることは、とても大切なことである
- カルテと同等の記録である
- 記録をとることで、振り返りができ、何をしたのか確認することができる
- 記録するにあたっては、簡便に記録が出来るよう、チェック型の部分と記述型の部分の両方が必要になる
- 日々行った看護を、動物病院内でスタッフが統一して認識することは、次に来院されたときにスムーズに診察に入れ飼主に不安を与えないために大切なことだと思う
- パンクグラウンドが異なると、看護の視点も異なる
- 引き続き、外来看護記録を実際に導入できるかどうか、研究を行っていきたい

②外来看護記録の問題点

- 記入項目が多くなると大変だという気持ちが先立ってしまう
- 現実的に行うためには、動物看護師の努力のみならず、病院全体での協力体制、獣医師や飼主の理解が必要である
- ③グループワークについて
- 多くの意見が出て、とても参考になる
- グループごとの意見をまとめるとなると、とても難しかった
- 自分の伝えたいことがなかなか伝わらず、他の方の意見に感動ばかりしていた
- グループワークは、他の人の意見交換だけではなく、自分の意見をまとめることの大変さも学べる

- 言葉で伝えるトレーニングにもなるため、動物看護師にとって大切で必要なことだと思った
- 自身だけで外来看護記録について考えていた時は、単純に動物を中心としたQOLの向上ばかりに気を取られていて、そこに潜む問題点に気付くまでに至らなかつたが、グループワークを通して、問題点を見出すことが出来た
- たくさんの人の意見を聞くことで、自分ひとりでの偏った考えに気付かれ、大変有意義な時間が持てた
- 病院の枠を越え、このような場や機会が持てたことで、動物看護の向上や自分自身のスキルアップにもつながる
- 病院ごとに求められることも必要なことも異なり、どこまでが共通していて、どこからが個人のことなのかがわからなかつた

考察

- 各個人の意見が十分反映できるよう、無作為に4名ずつ、2グループに分ける
- 検討結果は、グループによる偏った傾向はないと考え、意見はまとめて考察する

▪ 検討事項①「外来看護の役割とは何か」

▪ 期待される結果

外来看護の役割を考える

↓

看護の専門性があり、外来看護の特殊性があることに気付く

- 検討結果より

「飼主の主体的な参加を促す」

「動物が、安楽な状態でスムーズに治療や検査を受けられる環境を提供する」

「飼主と獣医師の橋渡し」



【結果】

現在行っている外来看護の場面を振り返っており、外来看護の特殊性、専門性について気付くまでは至らなかつた

外来看護とは？

動物の療養の場合は、病院ではなく自宅であり、それを支える飼い主家族の負担が大きいという特徴がある



動物や飼い主の不安を軽減し、安心して自宅で療養生活を送ることができるよう援助していくことが、外来看護の大きな役割

看護という職務について

井下ら1)は、「看護という職務を考えるうえでは、患者との関係を第一義的に考えなければなりません。なぜなら、看護の主たる対象は疾病そのものではなく、患者が主体的に疾病を取り組めるよう、心身両面から患者を支援することだからです。そこでは疾病の克服という共通目標に向かって患者との関係が円滑に進むべく、看護師にはさまざまな配慮が期待されているのです。」と述べている

- 検討事項②「外来看護の対象は何か」

- 期待される結果

常に看護の対象を意識する



飼主の訴えから始まる外来看護の対象の特殊性に気付く

また、飼主の訴えと動物の状態は、必ずしも一致しないことに気付く

- 「動物・飼主」以外の、周辺地域の人々までも対象として捉える



対象が絞りきれていない ⇒ 外来看護の役割を把握していない

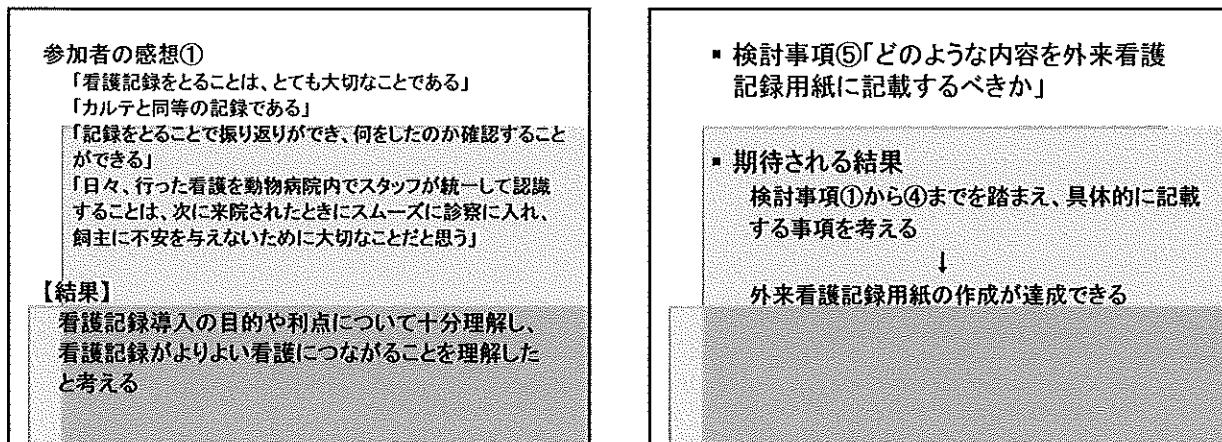
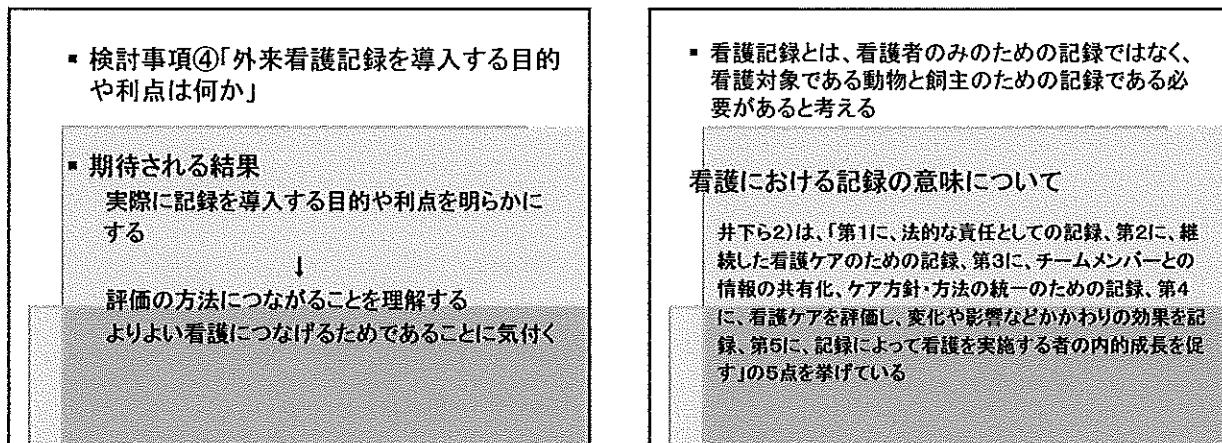
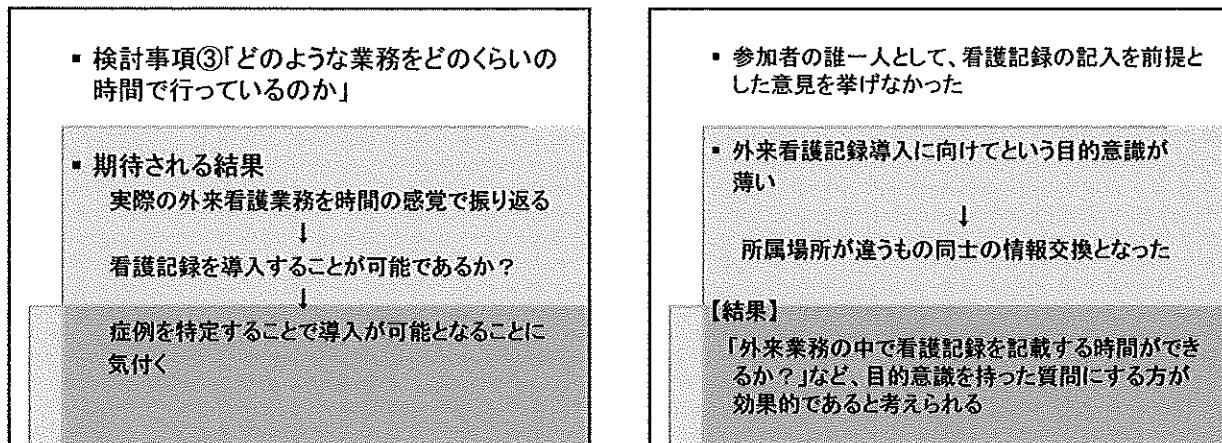
「外来」という言葉から漠然とイメージしている

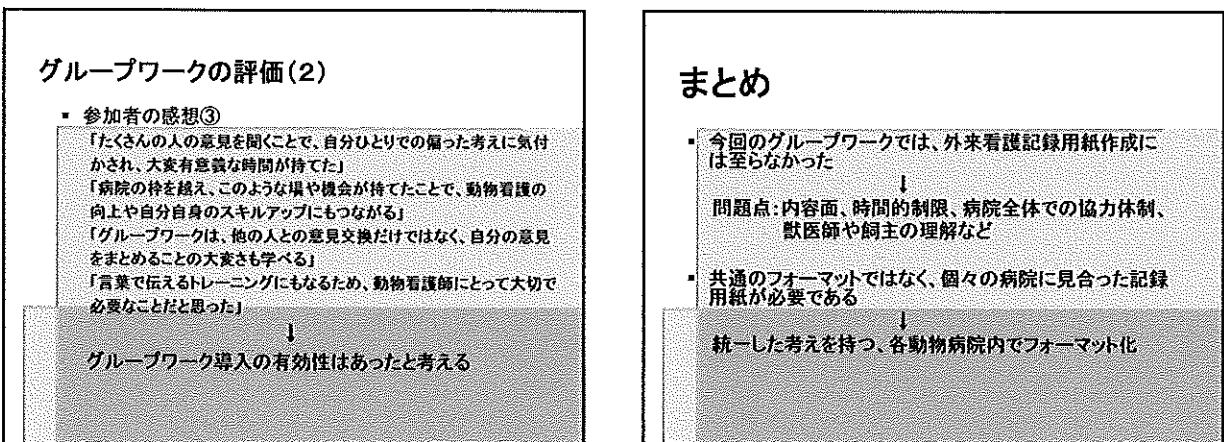
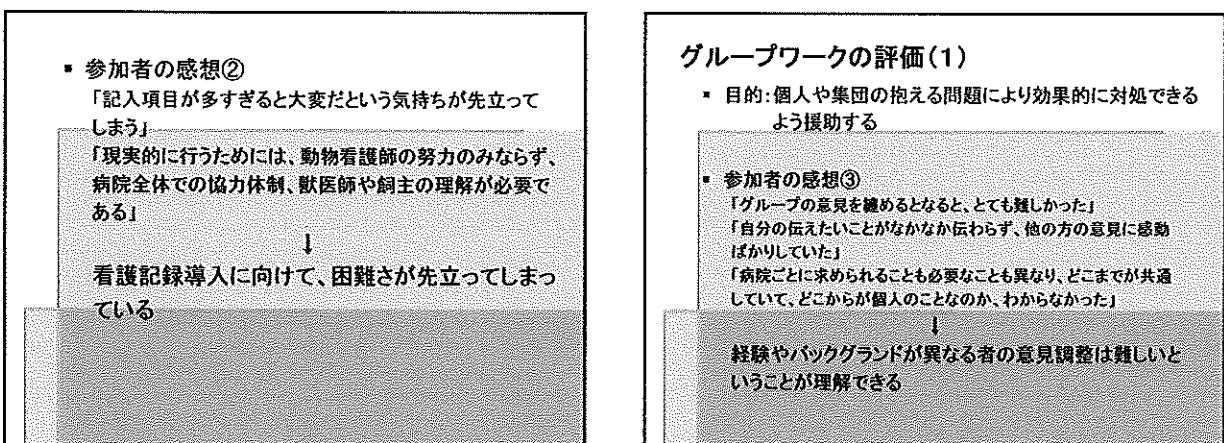
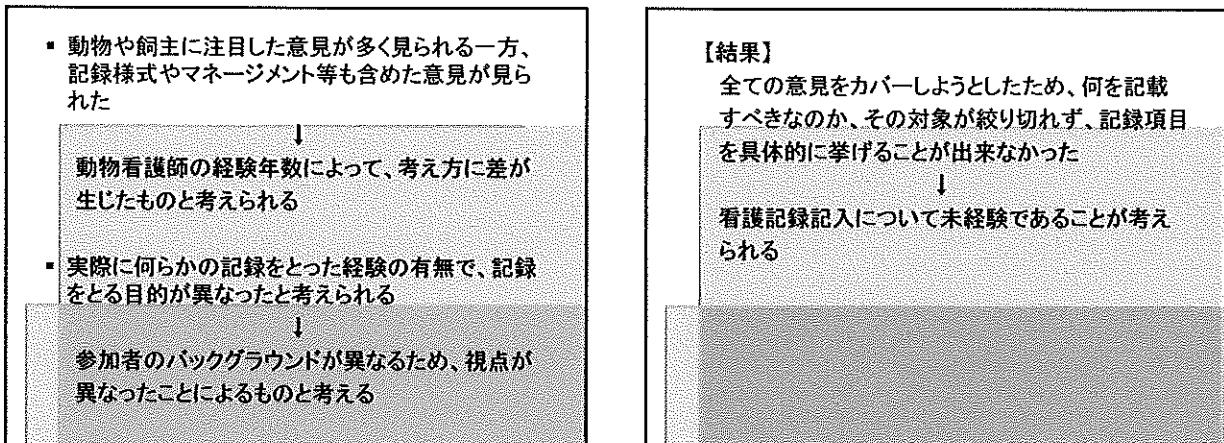
安心して自宅で療養生活が送れるよう援助するには？

外来において、単に動物の病気を見るだけではない



動物・飼主の生活全体を支援するものとしての関わりが必要





おわりに

- ・動物医療現場では、医療と看護、その両方向からの視点で対象を見ることが必要
- ・私達、動物看護師は「動物看護とは何か？」を常に考え、日々の看護を振り返り、記録に残すことが今後ますます必要になるだろうと考える
- ・今回のグループワークでは、病院の枠を越え「外来看護記録のフォーマット化」を目指す仲間と共に、互いの疑問をぶつけ合い、率直な意見交換をしながら、共通認識を持つことや実践することの難しさに至るまで、多くのことを学んだ
- ・今後も、より良い動物医療とチーム医療を目指し、自己研鑽を重ね動物看護の専門性を追求していきたい

引用・参考文献

- ・1)井下千以子他(2004):『思考を育てる看護記録教育 グループ・インクビューの分析をもとに』, p24, 日本看護協会出版会
- ・2)井下千以子他(2004):『思考を育てる看護記録教育 グループ・インクビューの分析をもとに』, p200~201, 日本看護協会出版会
- ・3)浅井和江(2007):「今なぜ外来看護記録なのか」,『外来看護最前線 季刊誌2006』Vol.12 No.3, p52~62, 日研出版
- ・4)堀月順子他(2006):「実践的外来看護計画&外来看護記録記載事例集」,『外来看護最前線 季刊誌2006』別冊, 日研出版

ご清聴ありがとうございました



B-⑥

当院での外来看護記録の作成

○ 斎藤みちる(動物看護師), 斎藤隆(獣医師), 成田直樹(獣医師)

七里ガ浜ペットクリニック

【はじめに】

外来では短時間で患者動物の健康状態、飼主の要求を把握し、さらに看護の必要性を判断し、援助することが要求される。その中で動物看護師は快適な外来環境を提供し、動物の負担軽減と継続看護を実践させる役割を担う。また第2期臨床動物看護研究会の動物外来看護グループワークに参加し、その結果、個々の病院の体制に合った外来看護記録の作成について必要性を感じた。

【目的】

当院では通院治療を積極的に実施している。そのために慢性疾患の通院が多く、入院が少数であることから、外来での看護の必要性は高いと感じられる。しかし症例ごとに動物の状態、飼主の考えをすべて把握することは難しく、当院の現状、診療方針にあった外来看護記録がその手助けになると考え、作成することとした。

【方法・結果】

実際の症例である、前立腺肥大のミニチュア・ロングヘア・ダックスフンド(8歳9ヶ月齢、未去勢オス)の症状が発現してから、去勢手術を行うまでの経過に当てはめながら、三種類の外来看護記録を作成した。第一に日常の外来で用いるための外来看護記録I(日々の記録)、第二にその動物と飼主全体を把握するための外来看護記録II(データベース)、第三に外来看護記録III(看護目標評価)である。

外来看護記録I(日々の記録)は外来看護記録の必要性ありと判断した場合に記入し、以後は毎回外来時に記入する。また外来看護記録II(データベース)を作成、追加記入する際の基礎となる。その中には患者動物情報の確認と以前に当院で行っていたトリミング時チェックカードなどを参考にした、チェック式一般身体検査所見欄がある。これらから基本情報を収集し、初期の看護上の問題点・看護目標・看護計画を設定し、記入する。

外来看護記録II(データベース)は初日の外来看護記録I(日々の記録)で得られた情報から作成する。その中の基本的情報により 看護上の問題点・看護目標・看護計画をそれぞれ動物と飼主、別々に設定することで動物と飼主全体を把握できる。またその後の変更、追加を日付とともに書き足す。そのことにより動物と飼主の現在の状態、考えが判る。

外来看護記録III(看護目標評価)は外来看護記録II(データベース)で設定した看護目標に対しての達成度を記号で書くことで、分かりやすく整理している。また看護目標の進行程度が一目で把握でき、目標の再確認、再検討が容易にできる。

【考察】

作成した外来看護記録は問題志向型システム(POS)を一部採用、参考にしている点と動物と飼主主体に分けて看護上の問題点等を整理している点を特徴としている。また作成した看護記録は動物の健康状態の把握が容易にでき、同時に飼主の心理的・精神的なケアも可能になる。さらに院内スタッフ間の情報共有がスムーズになる利点がある。しかし問題点としてカルテとの重複がある。これは時間の無駄であるという考え方、問題の再認識につながるという両極端な考え方もあり、今後の検討を要する。また全ての症例で行うのが難しい点や記録をとるために時間がかかる点についての問題も検討を要する。

今後の課題としてSOAP方式やプロセスレコードの導入・検討を考えている。このことは飼主の希望や気持ちをくみ取る看護につながり、飼主と動物の日常生活を理解するのに役立つと思われる。

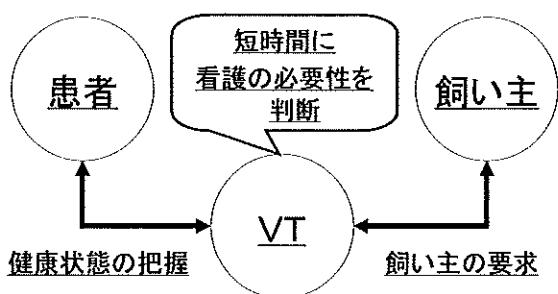
動物外来看護を実施して外来看護とはVTが飼主を指導するというよりも、むしろ飼主が家庭で行う看護を補助することだと強く印象付けられた。

当院での外来看護記録の作成

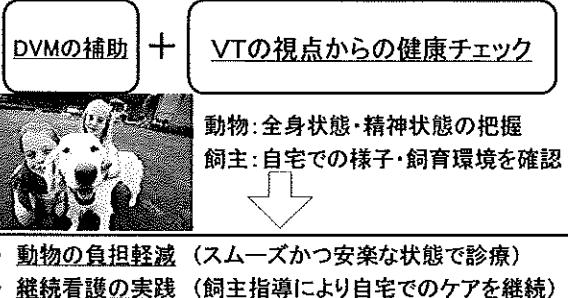
○齋藤みちる、齋藤隆、成田直樹
七里ガ浜ペットクリニック



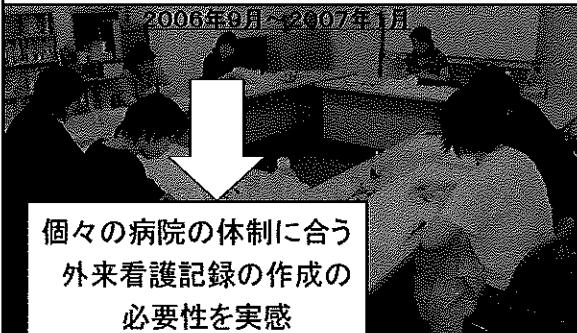
動物外来看護とは



動物外来看護の役割



第2期 臨床動物看護研究会 グループワークに参加



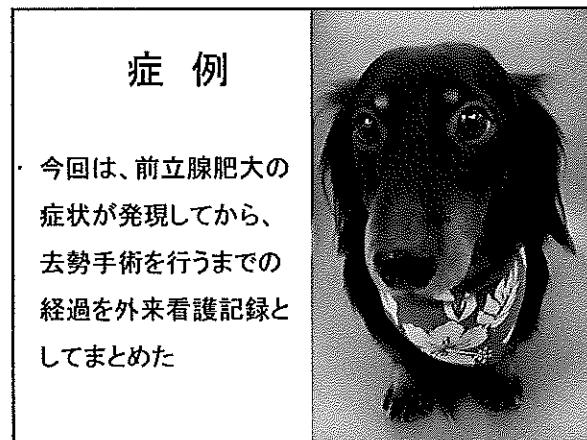
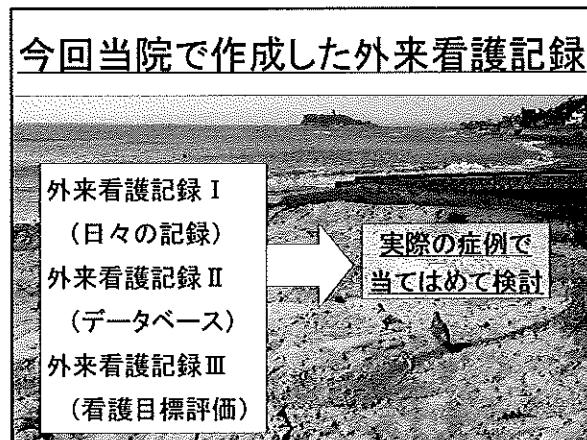
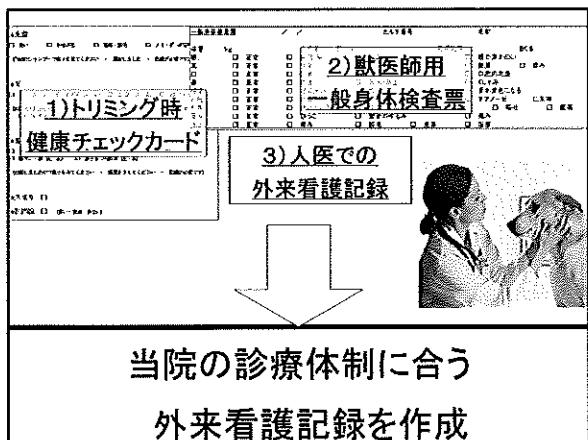
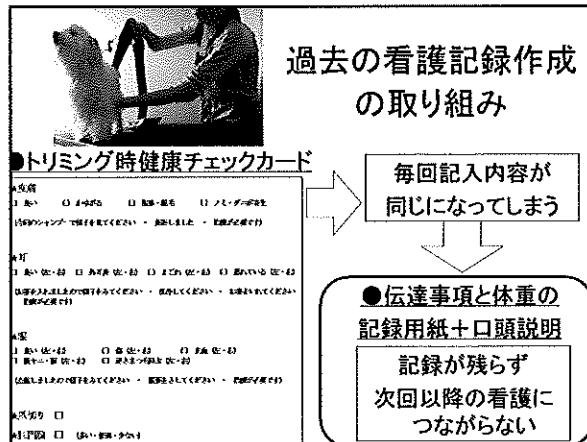
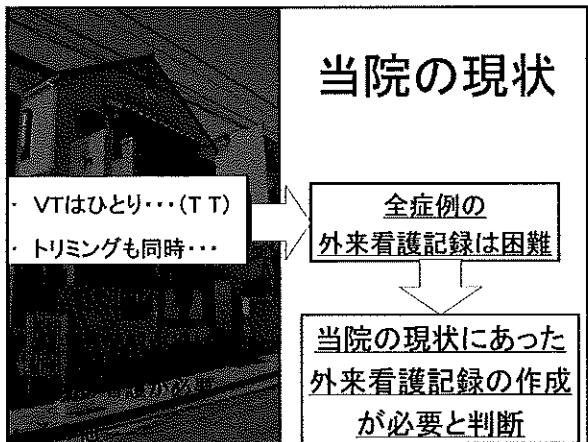
外来看護記録とは

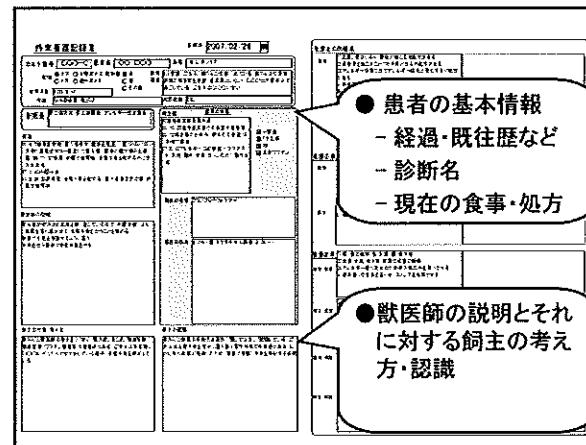
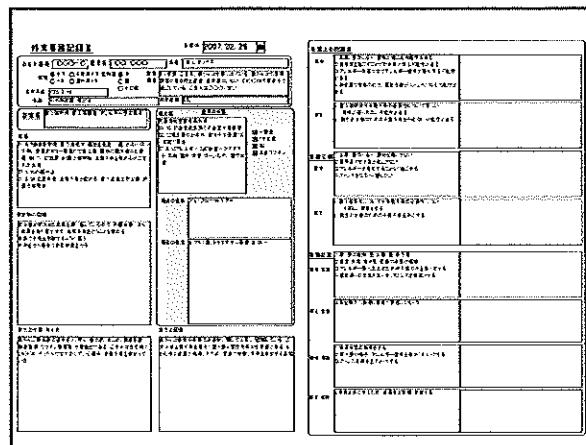
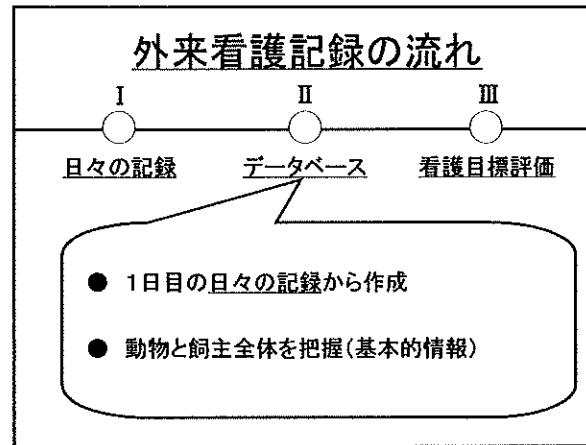
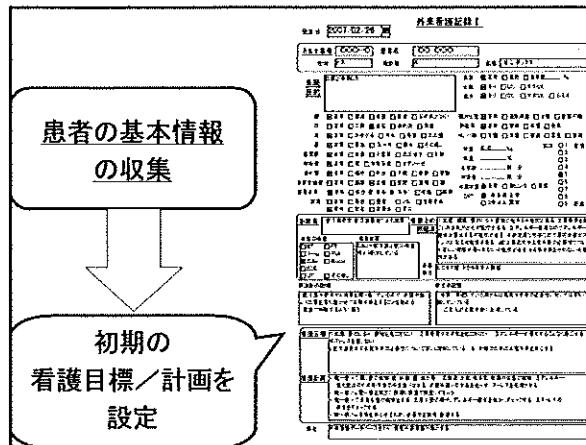
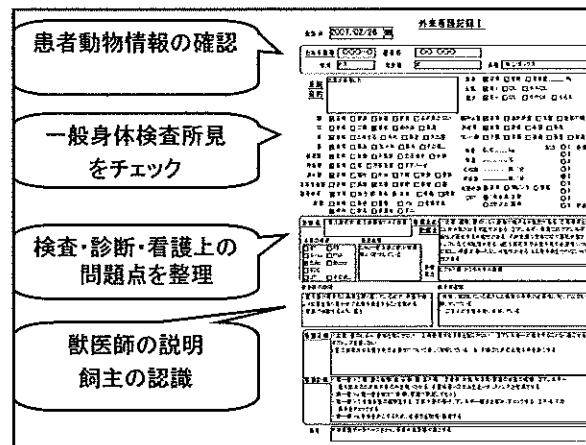
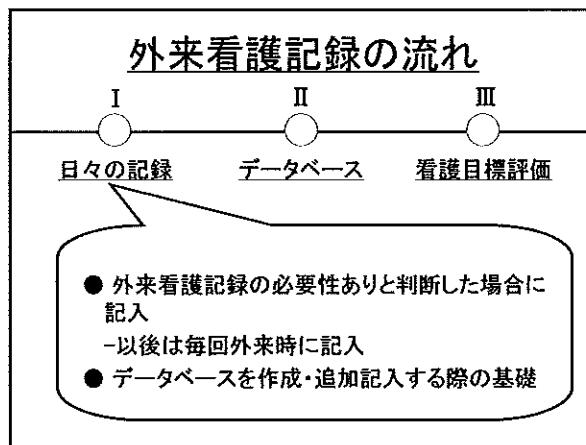
看護のための記録にとどめるのではなく
患者動物に役立てるための
記録である

当院の現状



- 通院治療を積極的に実施
 - 慢性疾患が多い
 - 入院が少ない





<p>経歴</p> <p>4/4 佐藤彰介 某販賣大、販賣本業者。直系のトランジスタで実験的コマ撮影にて成功。褐色の透明白色の音響録音機。06-11-27 在宅 内部全面検査。去勢手術を約1年ごとに入院する。</p> <p>27/11/25 手術中止</p> <p>27/12/25 無事再び去勢手術を終める 底下を産毛を剃る。内因性アリス</p>	<p>既往歴</p> <p>10/12 15歳性器異常その他の虚症候群 23/12/25 症状の詫び、最もその原因は1月前である。</p> <p>27/2/17 レンゲーによるハムストラクタ・ト・エ・開腹大糞・コーンなどに罹患歴有り</p>	<p>薬剤の経験</p> <p>アミノプロテクトナー</p>
<p>薬剤の追加がすぐに分かる</p> <p>既往歴</p> <p>10/12 15歳性器異常その他の虚症候群 23/12/25 症状の詫び、最もその原因は1月前である。</p> <p>27/2/17 レンゲーによるハムストラクタ・ト・エ・開腹大糞・コーンなどに罹患歴有り</p> <p>アミノプロテクトナー</p>		

飼主の認識をチェックでき
また高い満足を得ることができた

飼主の性格・考え方	飼主の記録
<p>大きな人材開拓の務めをよく守り、能力的、また少し、優柔軟で、 済み首肯(イグジ-ツ)も積極的である。ご主人はお宅時に 〇〇〇にべったりでせらうしている様子。主導性を嫌がっている 心</p>	<p>奥さんはヨリヨリ内向的で、決して外見で目立つことはない。 しかし夫君とお手本的に、重きを置く男性特徴の影響を受け、 少し元気な印象が得られたため、家計で手を貸す機会が多い。 3/20 前立腺が小さくなってきたので本当に去勢手術をして良 かったと思っていた様子</p>

記録作成時の工夫

壁紙上の問題点	
実物	<p>1.上界、壁のしぐれ、壁紙が起こる可能性がある 2.両端を貼ることで起きる日向性がある 3.フレンジィ剥離によってフレンジィ状状が生ずる可能性がある 4.特殊な属性なので、透かし含みがストレスになる可能性もある</p>
斜材	<p>a.自立性の問題、壁紙のひび割れによる 壁紙が剥がれない可能性がある b.壁紙が剥がされたため去来の角を行かない可能性がある c.床紙を壁に張り付けてから手間に貼るため、手間までの時間がかかる。その型に気が変わる可能性がある</p>

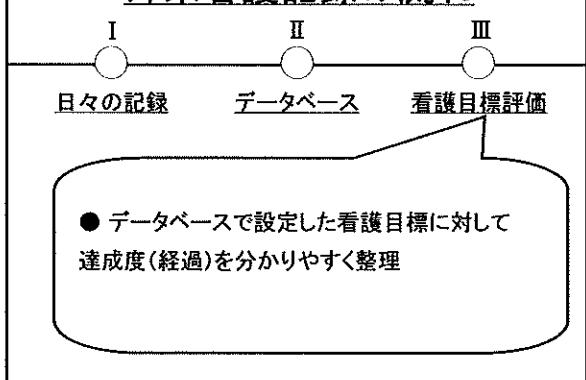
記入の省力化

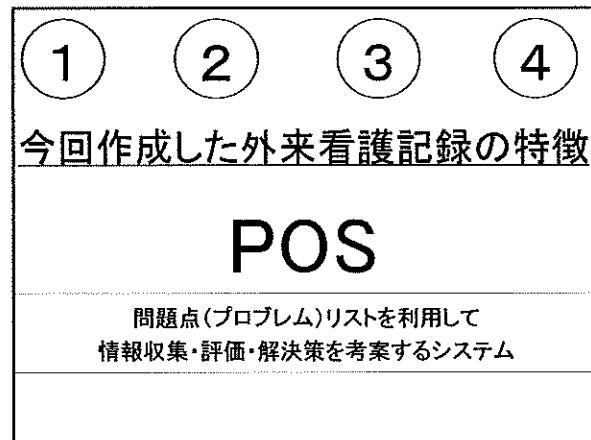
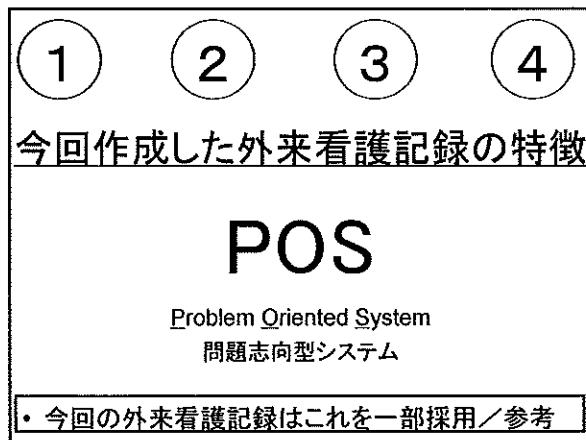
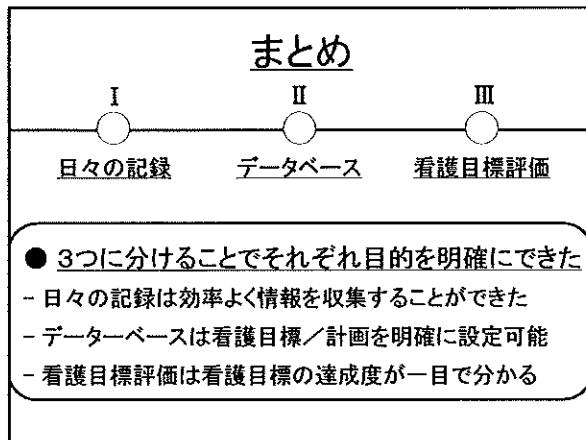
<p>摺挫計画</p> <p>1. お、ほの朝食(色・反応・量・化等) 2. 飲水・気分・対人等、食後の状況の観察 3. フレームー色彩・防止したくあれば貴のみを食べさせること 4. 離婚酒との会話を遠らせ、ストレスを軽減させる</p>	<p>2. お食事以下で買えないなど、他の方法が見られない か鑑定、吉田様の隠れり、出直、既消化前がない か経理、(色)を記録しないよう手を抜かる 6. 組織内をまわし隠さない、握手手洗い食事している ので便器状を見なからず少しつかの目をそむけ 7. 通勤時、運営せないより少しきつける</p>
<p>上記を順序に踏まし頭で実践してもらう</p>	

番号およびアルファベットは
3つの外来看護記録すべてで対応するように工夫

2/20 送別会の結果	
課題: 我が 心を決心するため、必要性を説明・指導する	<p>2/25 b 日常の算数や手帳に際しての不安や分からぬことと相づりやすい苦否感が特に現れ、家庭を離れてはぐくらんとしている。また、職場の不安や分からぬことに対する聞きやすい口に声かけをする</p>

外来看護記録の流れ





1 2 3 4

今回作成した外来看護記録の特徴

看護上の特徴点	<ul style="list-style-type: none"> 動物と飼主に分けて問題点を整理
獣医	<ul style="list-style-type: none"> 1. 会話、観察のしりとり、便益が起こる可能性がある 2. 言葉を起こすことによってかかる時間がある 3. プレジールー様式などのマニアルキーで状況をもとめる可能性がある 4. 犬は興奮する性質なので、直接会話を入り込む可能な可能性がある
飼主	<ul style="list-style-type: none"> 1. 自由な発表や行動手術の必要性について話し 2. 問題点をもとめられない可能性がある 3. 飼主が治療のための医療手術を行わない可能性がある

1 2 3 4

今回作成した外来看護記録の利点

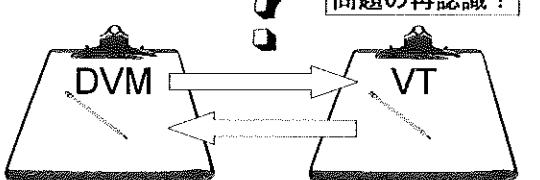


- 動物の健康状態の把握が容易
- 同時に飼主の心理的・精神的なケアも可能
- 院内スタッフ間の情報共有がスムーズになる

1 2 3 4

外来看護記録の問題点

1) カルテとの重複



時間の無駄?
問題の再認識?

1 2 3 4

外来看護記録の問題点

2) 全症例に行うのが難しく症例数が限られる



1 2 3 4

外来看護記録の問題点

3) とにかく時間がかかる



特にデータベース・日々の記録の記入

飼主が同じことを聞かれたり
問診に時間を取られるのを嫌がることも

1 2 3 4

今後の課題

**日々の看護記録に
SOAP方式を導入**

S:主観的情報
O:客観的情報
A:評価
P:プラン

飼主とのコミュニケーションの向上

- 飼主をより理解する
- コミュニケーション向上
- 看護場面を振り返る

↓

**プロセスレコードの導入
を検討**

飼主とのコミュニケーションの向上
= プロセスレコードの導入 =

プロセスレコード

- 飼主の反応・言動
- 看護師の感じたこと
- 看護師の言動
- 考察

↓

飼主の希望や気持ちをくみ取る看護
飼主と動物の日常生活を理解する

今回 動物外来看護を実施して

外来看護とは…

↓ VTが飼主を指導する

むしろ ↓ **飼主が家庭で行う看護を補助**

- 今後、より良い外来看護のために用紙の改良および症例を重ねていきたい

B-⑦

動物眼科二次診療施設における外来看護

～点眼指導の関わりを外来看護記録用紙の作成にて振り返る～

どうぶつ眼科 アイベット

中井江梨子

はじめに

眼科看護の役割の一つとして、「苦痛の軽減」や「治療継続への援助」があり、動物看護においてはその一端を、ご家族に委ねなければならないという特徴がある。そしてご家族への援助には、「疾患への理解を深める援助」「介助方法の援助」があり、獣医療においては、ご家族の理解とご協力なくして予防や管理は成り立たないため、その重要性はより高いと言える。

当院は、動物眼科専門の二次診療施設であり、飼い主はホームドクターである主治医の先生よりご紹介で来院されるという特徴をもっている。そのため、遠方からのご来院や、事態の複雑化ということもあり、専門医への治療に対するご家族の期待はより高いと考えられる。それに対し看護師は、限られた時間や状況の中で情報を収集、飼い主のニーズを把握し、今後の援助に向けた外来看護を行わなければならない。

今回、車で6時間という遠方から来院された点眼困難との訴えのある症例に対し、初めて外来看護記録を作成し、動物看護過程を展開した結果、外来看護における動物眼科看護の役割についての示唆を得たのでここに報告する。

研究目的

両側の前ぶどう膜炎をもつトイプードルとそのご家族への点眼指導を振り返り、動物眼科看護の今後の関わり方の示唆を得る。

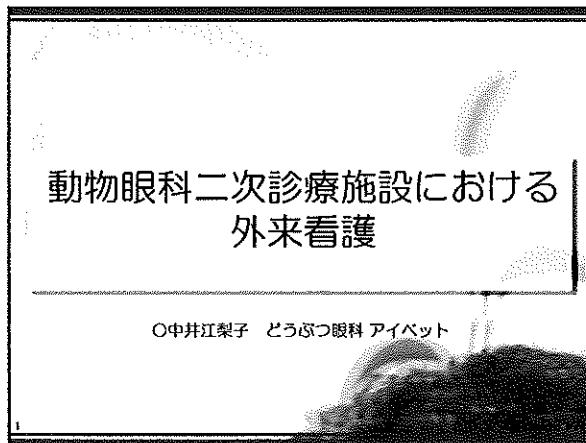
看護の実践と結果

依頼書の内容より、点眼指導の可能性があったことと、治療選択肢に大きな変化がないことが予め伺えたため、問診前からお帰りになるまで、看護師が積極的に関わりをもち、診察後に別室にてご家族との話し合いや、点眼指導などの時間をとった。

当日のご家族の発言にはあらわれなかつたものの、後の行動変化をもたらし、結果点眼治療管理と、続発性疾患予防に繋がった。

おわりに

今回、外来看護記録を詳細に残すこと自体が当院では試みであったため、戸惑いばかりが多かったが、記録に残すことで何度も振り返ることができ、その重要性を身をもって感じることができた。改良を加えながら記録症例を増やし、他病院との外来看護サマリーのやりとりへと繋げていきたい。



はじめに

- ・ 眼科看護の役割
 - 「苦痛の軽減」
 - 「治療経緯への援助」
 - 動物看護においてはその一端をご家族に委ねなければならない
- ・ ご家族への援助
 - 「疾患への理解を深める援助」
 - 「介助方法の指導」
 - 兽医療ではご家族の理解とご協力なくして治療管理や予防は成り立たない

どうぶつ眼科 Eye Vet

はじめに

- ・ 動物眼科専門の二次診療施設
- ・ 飼い主は、ホームドクターである主治医の先生よりご紹介で来院
- ・ 遠方からの来院、事態の複雑化
- ・ 患者やご家族との関わりはホームドクターに比べ限局
- ・ 外来看護
 - 限られた状況と時間の中で情報収集
 - 飼い主のニーズを把握
 - 今後の援助に向けて外来看護を展開

どうぶつ眼科 Eye Vet

研究方法

- ・ 外来看護記録と看護の実践を振り返り、考察する

どうぶつ眼科 Eye Vet

研究目的

- ・ 両側の前ぶどう膜炎をもつトイプードルとそのご家族への点眼指導を振り返り、動物眼科看護の今後の関わり方の示唆を得る。

どうぶつ眼科 Eye Vet

症例紹介

- ・ 3歳4ヶ月齢のトイプードル、アプリコット、未去勢オス、次郎ちゃん
- ・ 目をショボショボさせて開けにくそう
- ・ 1ヶ月前から富山県の主治医受診
- ・ 両側前ぶどう膜炎と診断を受ける
- ・ 非ステロイド系消炎剤点眼液処方される
- ・ 自宅での点眼困難のため、2.3度点眼通院した
- ・ 状態が改善しないことと、今後の予後のために眼科紹介

どうぶつ眼科 Eye Vet

症例紹介	問題点
<ul style="list-style-type: none"> 来院者①30代男性（患者のご家族） 来院者②60代女性（①のお母様と思われる） 来院者①が運転される車で6時間かけて来院 患者動物次郎ちゃん（以下患者と称する）のケアを中心的に行うのは来院者①のこと 	<ol style="list-style-type: none"> ぶどう膜炎に対する点眼治療が受けられないため、眼痛がとれない 重度のぶどう膜炎のため視覚を喪失する疾患に発展する可能性がある ご家族が治療を自宅で行えない

看護目標	看護計画
<ol style="list-style-type: none"> 点眼治療が受けられ、眼痛が軽減する 次回診察時までに続発性疾患を発症していない ご家族が自宅で治療を行える 	<ol style="list-style-type: none"> 診療後に看護師が別室にて、ご家族の現状の受け止め方や今後のお考えを伺うために、来院者①②とお話をし、整理する。 点眼指導と、保定法指導を行い、ご家族に成功の経験を持つ頂く 看護師は、終始ご家族の頑張りを労う声かけと、説明や指導の後は「いかがですか?」「どう思われますか?」と伺い、ご家族が意見や感想をお話になれるように心がける。 診療日後に主治医もしくはご自宅にご連絡をし、点眼の具合、眼の様子を伺う

看護計画	看護計画
<p>看護計画2の点眼指導の内容（A～F）</p> <p>A) お話の後、引き継ぎ看護師が点眼不可能な原因を探るため、来院者①②の承諾を得て、ご自宅での点眼時の状況を次郎ちゃんと共に再現して頂き、犬の様子、保定の様子を観察する。同時にご家族に状況の解説とお考えを伺う。</p> <p>B) 看護師による観察と聽取の結果から、点眼不能な原因と思われる点を来院者①②に提示した後、一般的な点眼ポイントのプリントをお見せしながらお話しする。</p> <p>C) ご自宅の台の有無を伺い、そのどちらかに合った保定（ダッコ）の仕方を看護師が解説しながらデモンストレーションする。</p>	<p>点眼指導過程Bのプリント</p>

看護計画

過程Cのデモンストレーションと解説内容

- a. ゆっくりと行動し、ダッコなど犬の落ち着く体勢から始める
- b. 犬の背面、側面を保定者にピッタリと付け、ゆっくりと撫でて褒め、犬が落ち着くまで待つ
- c. 犬が落ち着く体勢を組めたら、残った片手をゆっくりと犬の胸から下顎へ移動させ、首を絞めないように頸を包み持ち、斜め上45度程を向かせて止まる
- d. 2秒止まればやっくり開放しながら褒める

13
どうぶつ眼科 Eye Vet

看護計画

看護計画2の点眼指導の内容（A～F）

- D) ひと通りの過程にて、犬が累れる等がなければ、再度看護師による保定のもと、点眼役のご家族に点眼を行って頂く。
- E) 犬に追剤な反応がなければ、保定者役のご家族に保定を実践頂ながら、再度ポイントを確認
- F) 点眼ポジションを取れたら、点眼役のご家族に点眼して頂く

14
どうぶつ眼科 Eye Vet

補足

当院受診の流れ：

- 主治医からの電話にて、予約をとる
- ご家族に必要書類をお渡し頂く
- 予約日時までに主治医より紹介状がFaxされる
- ご予約当日、ご家族が来院され、問診表にご記入頂く
- 紹介状と問診表から、看護師が問診を行う
- 獣医師による診察、ご説明、必要な処置等
- 次回の診察予約をとる
- 主治医に電話と書面にてご報告

15
どうぶつ眼科 Eye Vet

外来看護記録紹介

- ・ 一般的記入事項：
 - 日時、予約時間、認入者
- ・ 患者動物についての記入事項：
 - 名前、品種、毛色、性別、年齢、来院経緯、経過（主治医からの情報による）
- ・ 主治医病院についての記入事項：
 - 病院名、住所、担当獣医師
- ・ 来院者についての記入事項：
 - 氏名、性別、職業、患者動物との関係、複数来院があるときはその關係
 - 総科来院時の主訴及び問題点
- ・ 来院中の記入事項：
 - 併合室、問診中の患者動物や来院者の様子、やり取り、看護師との会話
 - 検査中、診療中の患者動物や来院者の様子、獣医師からの説明内容
 - 専題点
 - 外来中に看護師が行ったこと、それに対する様子、会話内容
 - 考察、今後について

16
どうぶつ眼科 Eye Vet

外来看護記録紹介

17
どうぶつ眼科 Eye Vet

実践と結果

ご来院から問診までの様子：

- 予約10時半の10分前に病院前にてお待ちになっていた。10時ごろに受付をし、問診表にご記入。問診表は来院者①が書き、横で来院者②も話しながら見ている。患者は困りの状況に少し興奮気味にうろうろするが、来院者①の足元にいる。ご予約が緊急枠であったため、11時ごろまで待合でお待ちになり、11時過ぎ看護師が問診のため、お話を伺う。
- （来院者のお足もとへ肩い）看護師「遠方からのご来院ありがとうございます。お疲れいらっしゃいますよね」
- 来院者①②「イエイエイ」（笑顔を見せられる）
- 看護師「本日緊急枠でのご予約のため、お待たせしておりますが、なるべく早くにお通し致しますので、まずはお話を聞かせ頂けますか」
- 来院経過をお話になり、終了まで2時間前後要することにご了解下さる

18
どうぶつ眼科 Eye Vet

実践と結果

・問診中の様子：

- 来院者①はいすにおかけになり、②はその横に立っている。患者は①の足に挟まれるように座り、周りの状況を見ている。他人、他動物に過剰な反応はみられない。看護師が近付くと目をそらし、少しソワソワするがすぐに落ち着く。
- 来院者①(患者に)「こわいか」「大丈夫か」と声かけ
- 来院者②(患者に)「次郎、ちゃんとしなさい」と話し、①に任せている。
- 今までの経過は①が積極的にお話になり、点眼が自宅でできることについては、①②共にすこし笑いつつお話になる。

19

どうぶつ眼科 Eye Vet

実践と結果

・診察中、ご説明中の様子：

- 患者は体を強張らせつつも全ての検査に協力的
- 養えはみられず
- 看護師「緊張しているんですかね?とてもおりこうですね」
- 来院者①②笑顔で見守り、患者が大人しいことに驚く様子はなし
- 数回家族の方を振り返るが、鳴く、暴れる等の行動なし
- 説明中は向き合う獣医師と家族の中間で、看護師が患者を保持。
- 10分過ぎあたりから落ち着かなくなり、家族の方へ行きたがるが、鳴く、暴れる等の行動はみられず。
- 20分前後の説明中、来院者①②ともに一度も患者を振り向かず、説明を受ける。

20

どうぶつ眼科 Eye Vet

実践と結果

・看護計画1の実践：

- 来院者①②とともに診察や診断はよく分かったとおっしゃる。
- 来院者①「だから点眼はしてやらにゃない」と困った様子
- 来院者①「こいつがやらせないんだよね」と話す。

21

どうぶつ眼科 Eye Vet

実践と結果

・看護計画2の実践：

- 検査中の点眼は、全く問題がないことから、点眼不能な原因は患者以外にあると思われるこれを伝え、普段の状況を実調頑く
- 自宅に丁度いい高さの台はなく、床で、2人で行っている。
- 犬が自由になる体制で顔だけ触ろうとする。
- 患者は少し後ずさりしたが、慣れたり怒る様子はない。
- 来院者①「これ以上やると嫌もうとするんですね」と話しこれを自由にする。
- 来院者②「やってみなさい」「今日覚えて帰りなさい」と①に話す。
- 看護師がグッコ(保定)し、来院者①に点眼をしてもらうと、足を少しバタバタしながら、怒る様子はなかった。
- 看護師「できましたね！」
- 来院者②は喜ばれた。
- 来院者①は喜ぶ様子はなし。

22

どうぶつ眼科 Eye Vet

実践と結果

・看護計画2の実践(続き)：

- 同様にご家族に実調頑く。後づさる患者に来院者①「嫌か?」「こわいか?」と話し、再び患者を自由にさせる。
- 看護師「かわいそうなことしている気になっちゃいますね」
- 来院者①「こいつ甘やかされてるから」と笑顔で普段の生活や、おやつのことなどお話を聞く。
- 看護師「次郎ちゃんはそんなに大事にされて幸せですね」「おやつも嬉しいけど、娘もこのままじゃ辛いでしうね、なぜならこの眼の状態はとても痛いんですよ」「このままで寝ただけでなく、自分が見えなくなる可能性があって、それはかわいそうですよね」「本人は痛くても自分でどうしようもできないですからね」
- 来院者①「そうなの」
- 来院者②「やっぱりやってやらねばなあ」
- タッコの仕方、点眼の仕方、表め方やタイミングを指導した。

23

どうぶつ眼科 Eye Vet

実践と結果

・計画2の実践結果：

- 20分に渡り数回行った間、患者は怒る、怯えるといった行動はみられず
- 看護師「できそうですね、とてもおりこうだから。いかがですか?」
- 来院者②「やらなきゃね」
- 来院者①「慣れなくなったらやるってことで」

24

どうぶつ眼科 Eye Vet

結果

- 眼科受診より2週間後
 - 主治医での再診検査結果の報告
 - 以上より眼痛は軽減し、続発性疾患は起きていない
 - 目標1.2の達成
- 眼科受診より1ヶ月後
 - 主治医にお会いした際の情報
 - 「自宅で点眼を続けて下さっています。当院でも『できない』としか聞いていなかったが、どうやら点眼をする気がなかったようです。」
 - 以上より目標3の達成

25

どうぶつ眼科 Eye Vet

考察

- ご来院時の関わり
 - 主治医からの依頼書内容より
 - 点眼指導の可能性
 - 治療選択肢に大きな変化がない可能性
 - 来院にお疲れの可能性
 - 更に院内でも長時間をする見通し
- ↓
- 問診前からお帰りになるまでの関わりを積極的にもつ
 - 同一の看護師が対応
- ↓
- 院内にて長時間かかることへのご了承を得られた

26

どうぶつ眼科 Eye Vet

考察

- 問題点1に対し現在ある苦痛として眼痛に対する対応
 - 眼痛の原因は検査結果より重度の前ぶどう膜炎（両眼側）
 - この痛みの程度は人間では開眼困難などもあり、犬猫では症状が分かりにくいものの、来院時にも差異があり、1ヶ月も経過していることから、本人の苦痛は強いと考えた。
 - 処方通りの点眼で眼痛は軽減されると考えられた。

27

どうぶつ眼科 Eye Vet

考察

- 問題点2に対し
近い将来予想される視覚障害への予防対応
 - 他の眼疾患がなく両側に重度のぶどう膜炎がみられたこと、犬種、年齢より、免疫介在性や全身性疾患が疑われた。（主治医にての全身検査が指示された）
 - 炎症コントロールの難航が予想され、続発的に緑内障や網膜剥離を起こし視覚を脅かす可能性があった。

28

どうぶつ眼科 Eye Vet

考察

- 問題点3に対しご家族が自宅点眼を行えることへの対応
 - 点眼が1日3回処方に對し、これまで通り1日1回でも毎日の点眼通院は困難との訴え。
 - 点眼困難の原因が患者以外にある可能性
- 飼い主の役割を認識頂く働きかけ
 - ご家族度々の発言より、来院者①が治療に対し嫌悪感を強く持っている可能性
 - 犬の好きにさせるだけでなく、必要な管理をすることの重要性
 - 患者自身では痛みをどうにもできない

29

どうぶつ眼科 Eye Vet

考察

- 来院者①からは最後まで積極的な発言は伺えなかっただが、実際はご自宅で行って下さっていた。
- やはり遠方からいらっしゃる時点でそもそも意識の高い飼い主と考えられる
- 当日の発言からだけでは結果は予測できない
- 平井は「いかに治療を中断させないかは、疾患への理解、自己管理能力の有無にかかってくる。（中略）看護師は患者の社会的背景や疾患への理解度を把握し、信頼関係を確立し、個別性のある患者指導を行っていく。」と述べている。
- 今回の外來看護の展開は、点眼治療意識への働きかけの一端になった

30

どうぶつ眼科 Eye Vet

考察

- 最終的に治療への葛藤のなどの本心は伺えなかったが、後の行動変化がみられた
- 家族への介助方法の指導に関して平井は、「家族は、患者の障害を受け入れられず、罪悪感や困惑のなかで介助をしてしまう」ということがおこりやすい。患者のできること、できないことを説明し、患者が自分でできたという体験がもてるような援助の仕方を指導する必要がある。」とも述べている。

31

どうぶつ眼科 Eye Vet

結論

- 今回、診察後に実践を含めた点眼指導や、別室でのご家族とのお話しは、当日の言動に表れなかったものの、ご家族の動機付けや点眼治療管理と続発性疾患予防に繋がった。
- 治療の継続が困難な場合、診察とは画した状況での関わりをもつことで、飼い主の思いがどこにあるのか受け止める糸口になるという示唆が得られた。

32

どうぶつ眼科 Eye Vet

おわりに

- 今回、外来看護記録を詳細に残すこと自体が当院では試みだったため、戸惑いばかりが多かった。外来中の看護師が行ったことや判断、ご家族や患者の反応は他業務に換えられない重要な情報であり、それを体験した本人にしか記録に残すことのできないものである。記録に残することで、何度も振り返ることができ、記録することの重要性を身をもって感じることができた。改良を加えながら、記録症例を増やしていきたい。
- 主治医病院への、看護サマリーを作成できなかった。次郎ちゃんの結果は良好だったものの、地元で継続的看護を受けるためにも、看護サマリーの必要性を感じた。地域に密接し長い経過や関わりをもつホームドクターに対し、限られた一辺の関わりしか持たない二次診療施設では、疾患の治療経過と同様に看護記録情報も非常に重要な情報であり、今後は各病院の看護師間に於いて、看護サマリーのやり取りを行い、よりよい看護に活かしたい。

33

どうぶつ眼科 Eye Vet

引用文献

- 系統看護学講座 専門17 眼 成人看護学 [13]
- 標準眼科学 第6版
- Veterinary Ophthalmology Third Edition

34

どうぶつ眼科 Eye Vet

謝辞

西谷孝子様
(西谷獣医科病院看護師マネージャー)

35

どうぶつ眼科 Eye Vet

C-①

大学病院における動物看護師の役割

帯広畜産大学附属家畜病院

動物看護師 田村 浩美

私が勤務している帯広畜産大学附属家畜病院は、十勝のみならず道内の各地からの紹介症例、その他一般外来も行っている。今回はそのような紹介症例を多く含む高度獣医療施設において、動物看護師として何に重点をおいてその役割を果たすべきか考察した。

私自身、4年間一般の開業医で勤務した経歴を持ち、今現在に至る。大学病院での動物看護師の役割として、一次診療の病院と異なる点は、学部学生の指導教育が含まれること、決して数が少くない動物の死後のフォロー、より高い専門知識の習得の必要性がある、という点である。

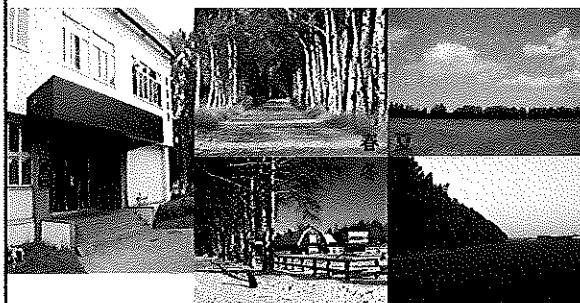
大学病院においては、より細やかで密接なオーナーとのコミュニケーション、さらには獣医師の目が届かないところにこそ私たちの力を発揮すべきだと考える。

ホスピス医療が多い今の現場において、これから一人でも多くのオーナーが救われるよう心のケアに努めていくこと、また積極的に学会やセミナーに参加し、自分の知識を広げることが近い目標に挙げられる。

大学病院における 動物看護師の役割

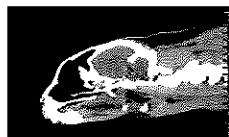
帯広畜産大学附属家畜病院
動物看護師 田村浩美

帯広畜産大学附属家畜病院



本学における小動物診療

- ・症例の8割は犬
- ・腫瘍性疾患、脊椎疾患、内分泌疾患が多い
- ・画像診断(地域で唯一のCT撮影装置)
- ・ホスピス医療



大学病院での 動物看護師の役割

- ・学生の指導・教育
- ・高度医療機器の検査補助・保守管理
- ・オーナーのフォロー
- ・獣医師とオーナーとの架け橋



↑
重要度・必要度がより求められる

大学病院での 動物看護師の役割

- ・重症例のQOLの向上
- ・オーナーとのコミュニケーション



動物看護師の実力の発揮しどころ

具体例 ~ある胰臓癌の猫のオーナー~

- ・初老の婦人
 - ・性格は繊細でどちらかというと神経質
- ↓
- ・毎日の状態は細かく報告
 - ・病状の説明 + α
 - ・話し方はゆっくりとかつ毅然とした態度



大学病院で働く 動物看護師として



- ・動物の死後のフォロー(ペットロスケア)
- ・学生の指導・教育
- ・より専門性の高い知識の獲得

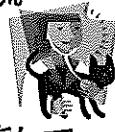


今後の目標



- ・ホスピス医療での心のケア
- ・他病院の動物看護師との交流

大学病院で働く動物看護師として
更なるステップアップを目指して



C-②

血液ドナー犬の管理　—麻布大学附属動物病院の方法—

麻布大学附属動物病院

和田優子 圓尾拓也 伊藤哲郎 土屋亮 小方宗次 信田卓男

ドナー管理基準

ドナ一年齢	1～6歳齢
体重	20～30kg
採血量	1回最大量 22ml/kg PCV値 40%以上
採血頻度	原則として 21日以上の採血間隔（最大量を採血した場合）

血液管理

輸血動物使用記録表と健康管理表双方に採血状況を記入

過剰採血防止や採血間隔管理のため、記録を残す。

スタッフ間で情報が共有できるよう輸血情報ボードを作成

ドナー管理

健康管理記録 個別のカルテを作成し、健康管理に関するることはすべて記入

毎日の健康管理表を作成し、排便、排尿、元気、食欲のチェック

定期健康診断 年1～2回実施

身体検査、血液検査（全血、血清）検便、尿検査の実施

感染症予防処置 フィラリア予防、7種混合ワクチン接種、狂犬病予防接種

食事管理 体調配慮しながら、朝・夕与え、水は常時飲めるようにする

栄養バランスに注意し、偏食させない。

引退 ドナーとしての限界年齢を8歳齢程度に設定しているが、一般家庭での
引き取りを考え、6歳齢程度で引退させる。

その他 引退後的一般家庭での生活に円滑に溶け込めるように接する。

採血がストレスにならないよう工夫して接する。

血液ドナー犬の管理

麻布大学附属動物病院の方法

和田優子 国尾拓也 伊藤哲郎 土屋亮 小方宗次 信田卓男

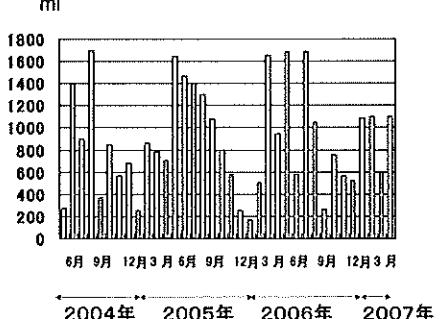
はじめに

- 獣医療の発展に伴い輸血の必要性が増加
- 安定供給が急務
- 安定供給の一つの方法
- 血液ドナーの飼育
- 動物の愛護と福祉に配慮する必要

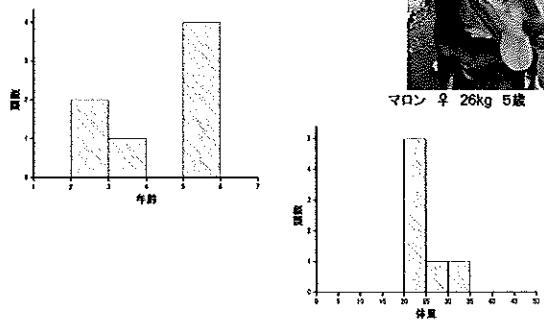
麻布大学附属動物病院での ドナー管理基準

- ドナ一年齢: 1~6歳齢
- 体重: 20~30kg
- 採血量: 1回最大量22ml/kg
PCV値40%以上
- 採血間隔: 原則として21日以上の
採血間隔

月別輸血量

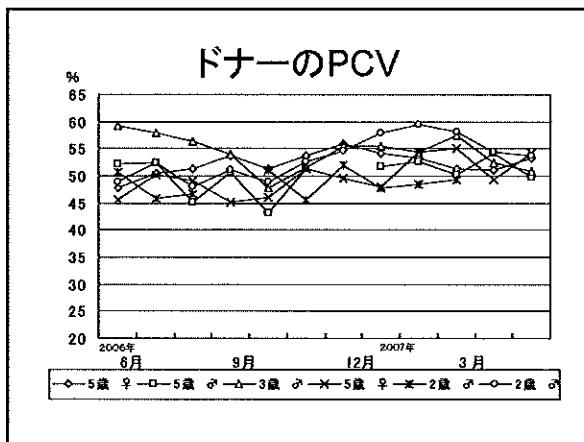


ドナーの現状

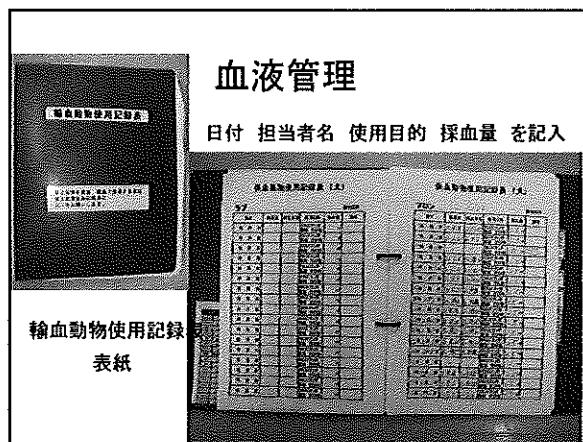
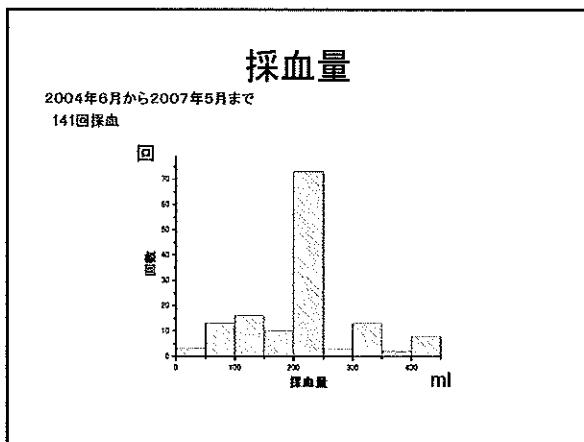


ドナーの選択の条件

- 採血間隔が2週間以上
- クロスマッチ適合
- PCV40%以上



- 輸血用採血の実施**
- クロスマッチ適合後
 - 1回の採血量 200ml～400ml
 - 採血後二週間以上休み



血液管理

担当科 担当者 検査予定日 採血目的 リンパ球比 情報を記入
クロスマッチ検査してある旨は必ず記入して下さい
次回もまた場合は結果を次の欄に記入下さい、場合がなければ空欄

担当科	担当者	検査予定日	採血目的	リンパ球比
内科	飼主	2007/01/01	輸血	1.2
外科	飼主	2007/02/01	輸血	1.3
内科	飼主	2007/03/01	輸血	1.4
外科	飼主	2007/04/01	輸血	1.5
内科	飼主	2007/05/01	輸血	1.6

- ドナーの健康管理**
- 定期健康診断: 血液、尿、便など
 - 予防: 狂犬病ワクチン
混合ワクチン接種
フィラリア予防 など
 - 毎日の健康管理

毎日の健康管理

- 管理表作成・排便、排尿のチェック
元気、食欲のチェック
- 普段との様子を比較
- シャンプー
- 食事の選択

ドナーの引退

- 6歳になると退職・引退
- 余生は家庭犬として



引退したドナー犬達

まとめ

- 現状
 - 飼育ドナーが必要
 - 飼育ドナーの管理充実
- 今後
 - 院外ドナー
 - 献血システム

ドナー紹介



D-①

山梨動物看護師勉強会「PRIDE & CONFIDENCE」3年間の報告

赤池ペットクリニック 高橋真由

《はじめに》

私達は2004年2月22日池袋サンシャインシティ文化会館で開催された第15回例会において、自分達の仕事に対し自信(CONFIDENCE)と誇り(PRIDE)がもてるよう、「地方都市における動物看護師勉強会の立ち上げと今後の方向性」の演題でこの勉強会について発表しました。勉強会は順調に開催され、現在で36回の定例勉強会と3回の記念大会を行いました。また、各病院スタッフと協力企業との親睦を深めるために納涼会と懇親会も毎年開催しています。

勉強会の3年間の開催内容と、運営方法について報告いたします。

《活動費》

年会費の徴収

協力企業からの協賛金

その他 助成金

《定期勉強会》

事前準備：MRと交渉（会場費、コーヒーブレイク、当日資料、講師のご経験確認）

当日準備：受付、司会、座長、講師・MRに御礼

《記念大会》

開会式、講演、懇親会

《親睦事業》

各病院スタッフ、講師、他院の先生、協力企業との親睦

《その他》

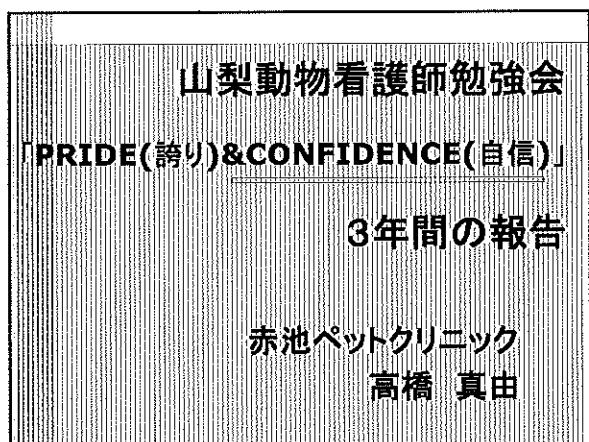
定期総会、会計報告、会報発行、各学会でブース廻り

《おわりに》

毎日の業務において、飼い主様からの疑問はよく私達にも問い合わせられます。動物看護師は、飼い主様に適切な情報提供や指導、また患畜のQOLの向上に務める大切な役目を持った仕事だと思います。

私達は、動物看護師の集まる機会の少ない中で、このような勉強会を継続的に行っていきます。

今後も動物看護師が積極的に集まり、みんなで知識や技術を高め、飼い主様に適切な情報提供をして向上心を持った看護師の集まる会にし、会の名の通り、仕事に対し誇りと自信を持っていきたいと考えています。



【私達が考える動物看護師とは】

獣医助手ではなく
獣医療での動物看護を担う職種

↓

各分野の専門家から
常に最新の情報を伝授

【活動開始後の参加病院の増加】

平成16年 3月プレセミナー ⇒ 4病院 参加

↓ 3年後

定例勉強会
CONFIDENCE ⇒ 11病院 参加
(自信)

【3年間の活動実績】

一定例勉強会 (CONFIDENCE) —

開催年	開催回数	平均参加病院数	平均参加人数
平成16年	11回	7.3病院	19.8人
平成17年	11回	8.5病院	30.8人
平成18年	11回	8.0病院	27.6人

—記念大会 (Anniversary) —

開催日	参加人数
1st Anniversary (平成17年3月1日)	52人
2nd Anniversary (平成18年3月7日)	54人
3rd Anniversary (平成19年3月6日)	67人

【活動費】

- 年会費の徴収
⇒スタッフ数 × ¥5,000/1病院
- 協力企業からの協賛金
⇒会場費 約¥20,000/1回
コーヒー代 約¥10,000/約30人分
- その他 助成金
⇒獣医大学同窓会山梨県支部
日本動物看護学会

【定例勉強会】



【記念大会】



【懇親会】



【納涼会】



【その他】

- 定期総会
- 会計報告
- 会報発行



【協力企業】

アイムスジャパン㈱
㈱オリンパスAVS
㈱微生物化学研究所
共立製薬㈱
千寿製薬㈱
大日本住友製薬㈱
日本企画工業㈱
日本ヒルズコルゲート㈱
ノバルティスアニマルヘルス㈱
バイエルメディカル㈱

ビルバックジャパン㈱
ファイザー㈱
富士フィルムメディカル㈱
フジタ製薬㈱
豊前医科㈱
マスター フーズリミテッド
明治製薬㈱
メリアルジャパン㈱
森久保薬品㈱

(五十音順)

【今後の勉強会内容】

平成19年

- 8月 免疫とワクチン
- 9月 ノミ・マダニの駆除
- 10月 動物用サプリメントの有用性
- 11月 犬の外耳炎のはなし
- 12月 猫下部尿路疾患のはなし

平成20年

- 1月 犬・猫のストレスによる問題行動について
- 2月 鎮静・鎮痛のはなし
- 3月 4周年記念大会

事務局 赤池ペットクリニック Tel.055-277-8500

【おわりに】

- 飼い主様に適切な情報提供
- 患畜のQOL向上
- 看護師の知識・技術を高める
- 向上心を持った看護師の集まる勉強会



ご満足のいく治療を心がけました

D-②

当院におけるインシデント・アクシデントの低減策

—ヒヤリ・ハット帳を利用しての評価と課題—

西谷獣医科病院 動物看護師 瀬戸晴代 西谷孝子

獣医師 西谷利文

はじめに

人間は誰しもミスを犯す可能性がある。一般的にもヒューマン・エラーはゼロにはできないと認識されている。それを低減させるためには、個人の責任とその職場での確認システムを徹底させることが大切である。しかし医療現場では、まだ安全確認対策が徹底されていないといわれており、日々大なり小なりそのような確認不足や単純ミスによる出来事や事故が起きていると推測される。そして、それは命に関わる重大な事故につながる可能性が少なくない。

当院においても、日頃より確認不足や認識不足からの業務上のミスが発生しており、飼主様に迷惑をお掛けすることも少なくない。医療従事者として、またサービス業として飼主様に今以上の信頼や安心感を提供できるようには、それらのミスを未然に防ぎ、飼主様に迷惑をお掛けしないように安全かつ確実な仕事をする必要がある。そこで、現状把握と個人の安全確認に対する意識向上、そしてスタッフ間での情報の共有化を図るため、インシデント・アクシデントの低減策の一環として『ヒヤリ・ハット帳』を作成し、院内で発生したインシデントおよびアクシデントをその都度記録することとした。

今回、ヒヤリ・ハット帳を利用し、それらのデータを集計した結果を振り返り、当院でのインシデント・アクシデントの低減策について今後の示唆が得られたので報告する。

I. 研究目的

ヒヤリ・ハット帳のデータを集計した結果を振り返り、当院でのインシデント・アクシデント低減策について今後の示唆を得る。

II. 研究方法

1) 研究対象 院内にて発生したインシデントおよびアクシデントをヒヤリ・ハット帳に記帳し、それらのデータを集計、分析

- ・インシデント (incident) 思いがけない出来事 (偶発事象)
- ・アクシデント (accident) 事故
- ・ヒヤリ・ハット帳とは、本来は起きてしまった事故やミスを記帳するものではなく、ヒヤリとした出来事や、ハッとした体験を報告するものである

2) 研究期間 平成 18 年 6 月 28 日～平成 18 年 12 月 31 日

当院における インシデント・アクシデントの低減策

—ヒヤリ・ハット帳を利用しての評価と課題—

西谷獣医科病院 動物看護師 濑戸晴代 西谷孝子
獣医師 西谷利文

はじめに

人間は誰しもミスを犯す可能性がある。それは医療現場においては、時に命に関わる重大な事故につながる可能性が少くない。

当院においても、日頃より業務上のミスが発生している。そこで、現状把握と個人の安全確認に対する意識向上、スタッフ間での情報の共有化を図るために、インシデント・アクシデントの低減策の一環として『ヒヤリ・ハット帳』を作成し、記録、集計した結果を振り返り、今後の示唆を得られたので報告する。

研究目的

ヒヤリ・ハット帳のデータを集計した結果を振り返り、当院でのインシデント・アクシデント低減策について今後の示唆を得る。

研究方法

1) 研究対象

院内にて発生したインシデントおよびアクシデントをヒヤリ・ハット帳に記帳し、それらのデータを集計、分析

- ※ インシデント(incident) 思いがけない出来事（偶発事象）
- ※ アクシデント(accident) 事故
- ※ ヒヤリ・ハット帳とは、本来は起きてしまった事故やミスを記帳するものではなく、ヒヤリとした出来事や、ハッとした体験を報告するものである

2) 研究期間

平成18年6月28日～平成18年12月31日

3) データ収集方法

・記帳項目

- | | |
|------------|------|
| ①発生日 | ②報告者 |
| ③ミスをした者 | ④役職 |
| ⑤部門 | ⑥内容 |
| ⑦発生原因・分析内容 | |
| ⑧原因 | |

4) 分析方法

1. 部門別ミス発生件数
2. 発生原因
3. 月別ミス発生件数
4. 個人の部門別ミス発生件数
5. 個人別報告件数とミスした件数
 - ・②報告者と③ミスをした者は同一の場合あり
 - ・③ミスをした者は一つの出来事に対し複数の場合あり
 - ・⑧原因は重複する場合あり

結果

1. 部門別ミス発生件数とその比率 図1

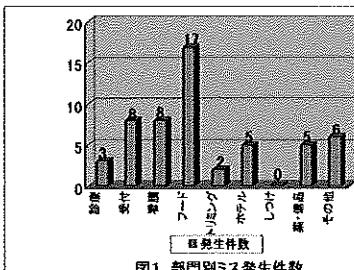


図1 部門別ミス発生件数

1. 部門別ミス発生件数とその比率 図2

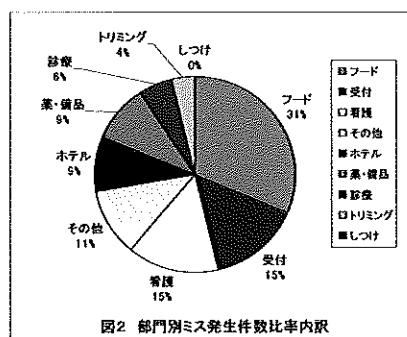


図2 部門別ミス発生件数比率内訳

2. 発生原因別比率内訳 図3

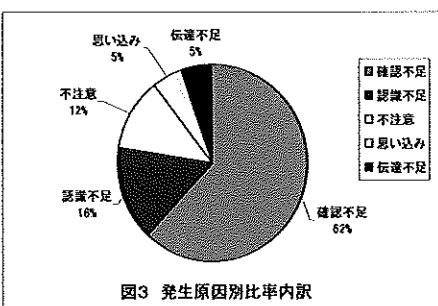


図3 発生原因別比率内訳

3. 月別ミス発生件数 図4

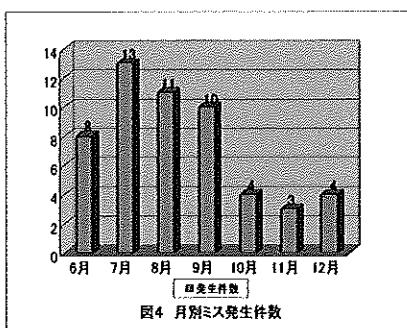


図4 月別ミス発生件数

4. 個人の部門別ミス発生件数 図5

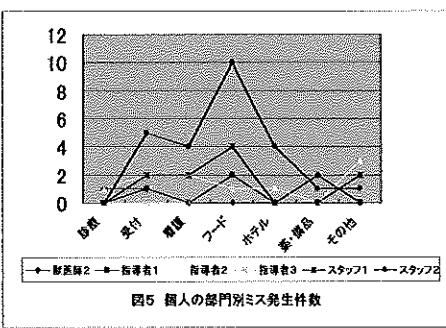


図5 個人の部門別ミス発生件数

5. 個人別報告件数とミス件数の比較 図6

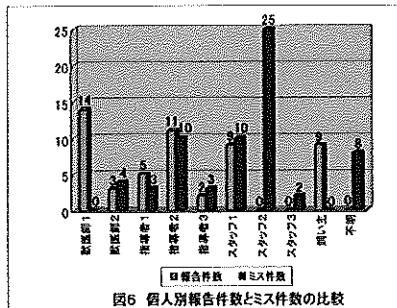


図6 個人別報告件数とミス件数の比較

KYTトレーニングのセミナー内容

『医療現場におけるKYT[危険予知トレーニング]の実際』というテーマで行われたそのセミナーは、近年、人医療において取り入れられ始めた教育方法である。

その目的は、危険に対する感受性を高め、さらに物事への集中力、問題解決能力、実践への意欲を高める訓練手法で、まだ起きていないエラーや事故の可能性を察知し、事前に防止する手立てを講じる能力を身につける、というものであった。

考察

今回、院内で起こるミスの現状を把握するため、スタッフ全員に協力を仰ぎミスがあった時点で報告、ヒヤリ・ハット帳に詳しく内容を記帳してもらった。

図2.
看護・ホテル部門
において

ミスの内容
・記録用紙の記入もれ
・記録の確認せず食事の種類を間違える

ミスの原因は…
確認不足+認識不足
というように原因が重複していることがある

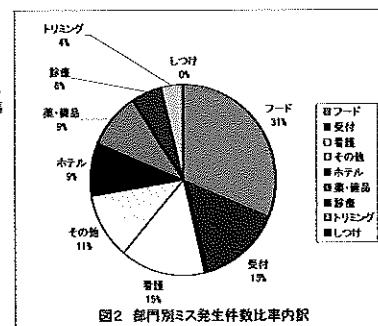


図2 部門別ミス発生件数比率内訳

図3
ミスの発生原因

確認不足 47件
認識不足 12件
不注意 9件
思い込み 4件
伝達不足 4件

やはり…
確認不足が全体の62%
と最も多いため

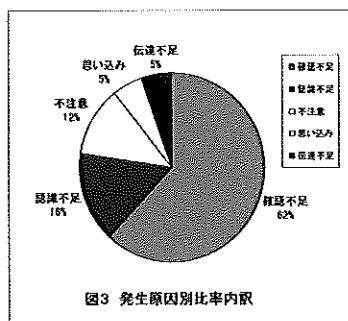


図3 発生原因別比率内訳

確認不足からミスを犯してしまう原因

- 限られたスタッフの人数でその日の診療や手術件数、入院件数が増える
- トリミングやしつけ教室もあり時間的・精神的な余裕がなくなり確認をおこたる
- 必要な行動を省く
- 指導が行きわたらない
- しなければならないことを忘れる

どんなに多忙であっても、動物の生命をも左右する獣医療に携わる者としての責任と自覚を持ち、すべてにおいて確認作業を怠ることのないように常に意識しておく必要があると考える。

- ・自分の行動を声に出しながら行う
- ・その結果を報告し、記録していく

そして、

看護師一人一人がもっと看護のプロとしての意識を持ち、自分を過信することなく日々努めることが大切である。

ミスの発生原因で次に多かったのは認識不足
内容…薬の準備間違い
投薬量の間違い
ホテルの予約ミスなどがある
→薬や業務内容についての知識、認識不足
が考えられる。
・確認不足と重複していることが多い
・勤務年数にも関係していると思われる

今後の課題…
スタッフ全員が、

- ・日頃自分たちがおこなっている仕事の意味
を考えて行動できる
- ・職業人としての意識が持てる
- ・物事の重要性や危険性を理解できる
ように、個別の指導や教育をする必要がある。

図4
月別ミス発生件数

記帳開始から5ヶ月目
より、ミス発生件数が
半数以下に減少した

考えられること
・情報の共有化が図れた
・各自の安全確認に対する
意識が向上した

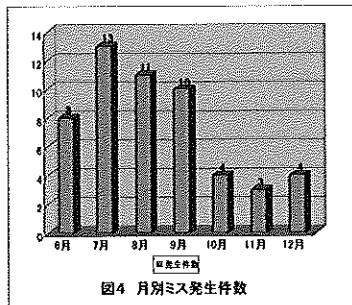
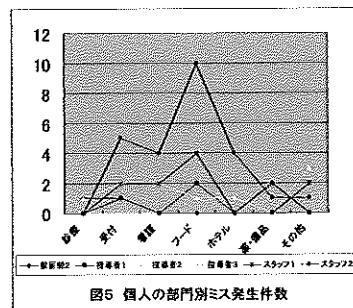


図5
個人の部門別
ミス発生件数

自分と他のスタッフのミス
しやすい部門がわかる
ということは…
・その場面において特に
意識して慎重に行動で
きる
・事前に指示や注意を促
せる
→ミスを未然に防ぐ対処
が可能である



調査結果をスタッフ全員に報告

- ・院内で発生するミスはどのような内容や場面、原因で起こるのかを知ってもらう
- ・自分や自分以外のスタッフの性格やエラー特性などを日頃より洞察し把握しておく

→ミスを低減させることにつながると考える。

図6

個人別報告件数とミス件数の比較

大きな問題点は…

①ミスによるクレーム 9件

②ミスした者が不明 8件

③で考えられること

・本人にミスをしたという自覚がない

・仕事に対する責任感の欠如

→同じミスを犯してしまう可能性が高い

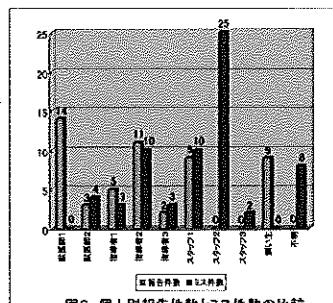


図6 個人別報告件数とミス件数の比較

スタッフ各自がその出来事を他人事と思わず、常に自分が犯したのかもしれない、自分も同じミスをするかもしれない、と親身に受け止めることが重要である。

そのためには…

- ・スタッフ同士ができる限り話し合いの場を設け情報を共有する
- ・それらについて討議していく

→ミスを減らすことにつながると考える。

これらの結果から…

- ・院内のインシデント・アクシデントの現状把握と傾向を知ることができる
- ・ある程度スタッフ間での情報の共有化も図ることができる
- ・個人の安全確認に対する意識も向上する

おわりに

今回、この研究をまとめることで、日頃より院内で起こっているさまざまなインシデント・アクシデントについて知るよい機会となった。

現場の管理者である看護師長として、自分自身がまず業務の中に潜むリスクと危険因子を認識する能力を養い、病院全体で事故防止対策に向けて取り組んでいけるようにしたい。

D-③

避妊手術後に見られる犬の痛み行動について

= 動物のいたみ研究会ペインスケールを利用して =

○齋藤みちる（動物看護師）、齋藤隆（獣医師）、成田直樹（獣医師）

七里ガ浜ペットクリニック

【はじめに】

当院では痛みをバイタルサインの1つとして重要視しており、昨年の第15回動物看護学会大会において、3つのペインスコアを臨床で用いてその有効性を紹介、それぞれの利点欠点について考察した。その際、今後の課題として「痛みの共通認識の共有」を挙げた。今回は、このテーマについて若干の知見が得られたので発表する。

【目的】

第一に、犬の避妊手術後に見られる痛み行動を、動物のいたみ研究会ペインスケールを用いて調査すること。第二に、実際によく見られた痛み行動で、評価に注意が必要であった事例について考察することとした。

【症例】

症例は、当院で去勢手術を行った犬9頭、避妊手術を行った犬9頭を用いた。全頭ASA分類は1か2で、今回が手術初の症例を用いた。鎮痛薬は、術前から、非ステロイド性消炎鎮痛薬、オピオイド系鎮痛薬を用いた。

痛みの観察（評価）は、動物のいたみ研究会ペインスケールを用い、術前、術後30分、術後3時間、術後6時間、および翌朝（術後約18時間後）に行った。なお、評価は複数のスタッフにより行われたが、今回は先入観を避けるため、鎮痛薬の投与に関わらなかった1人の動物看護師が行った。

【結果】

去勢・避妊手術とともに、30分後を頂点に時間経過に伴って観察される痛み行動は減少した。避妊手術では去勢手術よりもややチェックされる項目数が多い傾向が見られた。術後30分において、レベル3にチェックされた項目について、去勢手術と避妊手術を比較すると、最もよく見られる痛み行動には差が見られ、避妊手術は去勢手術に比べて、より強い表現の痛み行動が増加していた。

【考察】

ペインスケールを実際に実施して問題となる点として、第一に手術内容によって痛みの行動が異なること、第二にそもそも痛み行動の定義がはっきりしていないこと、第三にその行動が本当に痛がっているのか分からず、ということが挙げられた。これらの対策として、今後は、さまざまな手術内容に「特異的に見られる」痛み行動の調査を行うことや、痛み行動の詳細を記録し、スタッフ間で検討して痛み行動の定義づけを行うこと、そして観察方法の統一を図ることが必要であると考えられた。

動物看護学会2007-2

避妊手術後に見られる 犬の痛み行動について

= 動物のいたみ研究会ペインスケールを利用して =

○斎藤みちる、斎藤隆、成田直樹
七里ガ浜ペットクリニック

JULY
8

昨年の看護学会では

- 臨床例で3つのペインスコアを用い
その有効性を紹介
- 各ペインスコアの利点欠点を考察



昨年の看護学会では

- 3つのペインスコア
 - VAS(視覚アナログスケール)
 - MPS(メルボルン大学ペインスケール)
 - 日本語版ペインスコア

実は
動物のいたみ研究会ペインスケール
のパイロット版

昨年の看護学会では

- 今後の課題
 - 「痛みの共通認識の共有」

今年はこのテーマについて考察

1

目的

2

犬の避妊手術後に見られる
痛み行動を調査

- 動物のいたみ研究会ペインスケールを使用
- 特に去勢手術との比較を重視

1

目的

2

よく見られた痛み行動で
評価する際に注意が必要であった
事例について考察

症 例

- 去勢手術 犬9頭
 - 避妊手術 犬9頭
 - ASA1か2
 - 今回が手術初



鎮痛藥

術前

術後

メロキシカム
SC

ブトルファノール
Or モルヒネ
SC

ブトルファノール
SC or CRI

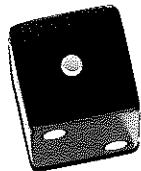
ラフレノルファイン
SC
モルヒネ
SC

痛みの観察(評価)時間

● 動物のいたみ研究会

判定レベル:0~4

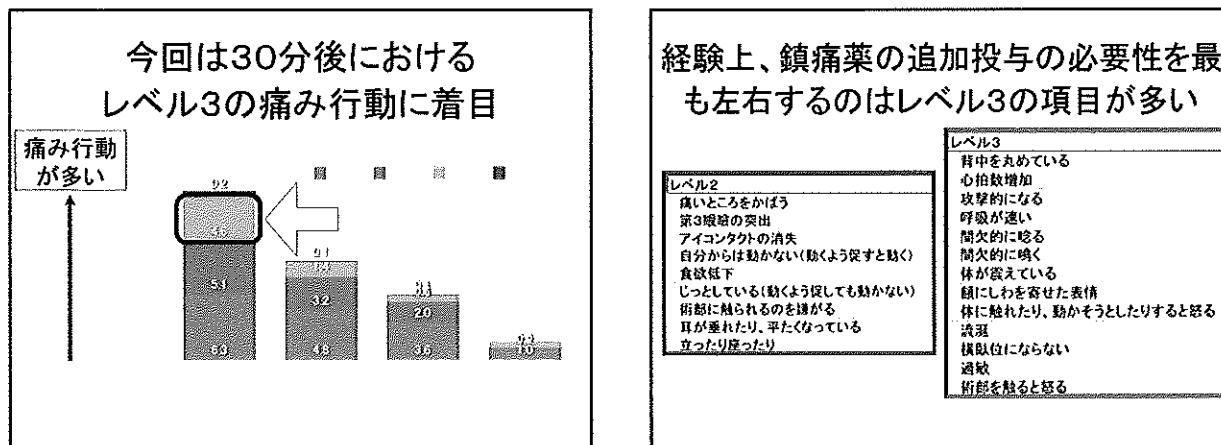
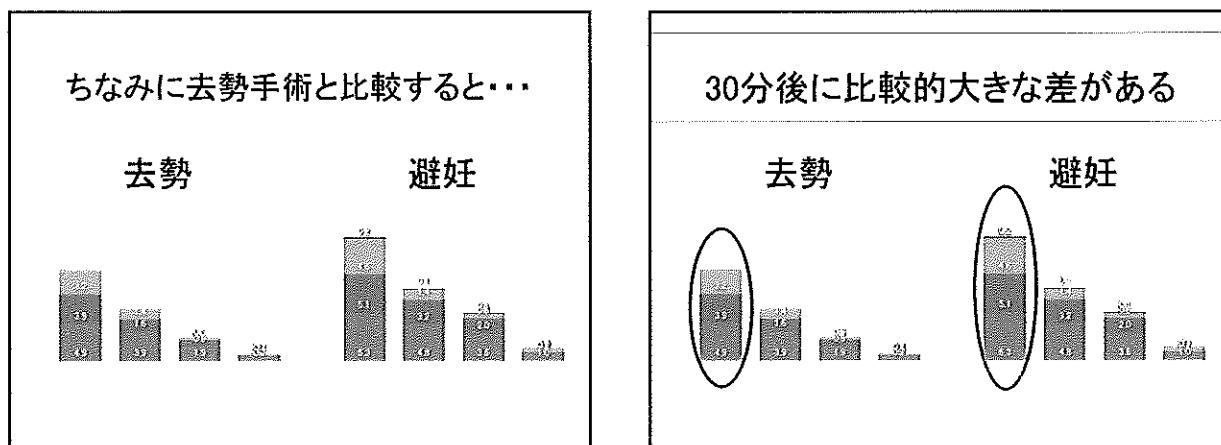
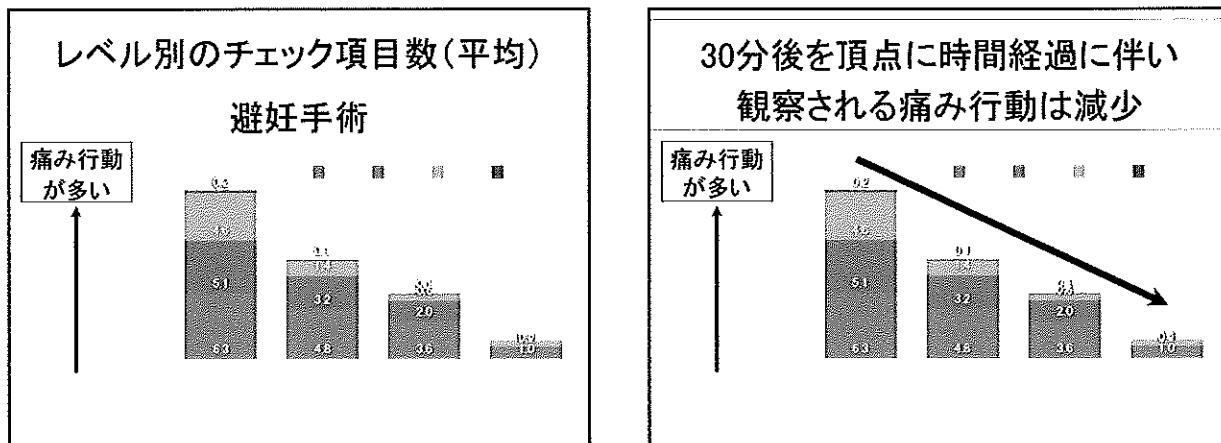
チェック項目:全44項目



結果



避妊手術後に見られた 痛み行動について



30分後の比較

去勢

避妊

順位	去勢:L3	数	順位	避妊:L3	数
1	心拍数増加	6	1	体が震えている	9
	額にしわを寄せた表情	6	2	背中を丸めている	6
2	背中を丸めている	5	3	額にしわを寄せた表情	6
	横臥位にならない	4	4	間欠的に鳴る	5
3	体が震えている	4	5	過敏	4
	間欠的に鳴く	2	6	心拍数増加	3
4	体に触れたり	1	7	横臥位にならない	3
	動かそうとしたりすると怒る	1		流涎	2
5	過敏	1		間欠的に鳴く	2
				呼吸が速い	1

最もよく見られる痛み行動に差

順位	去勢:L3	数	順位	避妊:L3	数
1	心拍数増加	6	1	体が震えている	9
	額にしわを寄せた表情	6	2	背中を丸めている	6
2	背中を丸めている	5	3	額にしわを寄せた表情	6
	横臥位にならない	4	4	間欠的に鳴る	5
3	体が震えている	4	5	過敏	4
	間欠的に鳴く	2	6	心拍数増加	3
4	体に触れたり	1	7	横臥位にならない	3
	動かそうとしたりすると怒る	1		流涎	2
5	過敏	1		間欠的に鳴く	2
				呼吸が速い	1

避妊:より強い表現の痛み行動が増加

順位	去勢:L3	数	順位	避妊:L3	数
1	心拍数増加	6	1	体が震えている	9
	額にしわを寄せた表情	6	2	背中を丸めている	6
2	背中を丸めている	5	3	額にしわを寄せた表情	6
	横臥位にならない	4	4	間欠的に鳴る	5
3	体が震えている	4	5	過敏	4
	間欠的に鳴く	2	6	心拍数増加	3
4	体に触れたり	1	7	横臥位にならない	3
	動かそうとしたりすると怒る	1		流涎	2
5	過敏	1		間欠的に鳴く	2
				呼吸が速い	1

考察

ペインスケール実施上の問題点



- ⌚ 手術内容によって見られる痛み行動が違う！
- ⌚ 痛み行動の定義がはつきりしていない！
- ⌚ その行動が、本当に痛がっているのか分からぬ！

1. 手術内容により痛み行動は変化

(去勢・避妊でさえ違う！)

今後、様々な手術内容別に
「特異的に見られる」痛み行動を調査する必要性



将来、手術内容により別々のチェックリストを作成可能？

2. 痛みの定義がはっきりしていない

例えば…

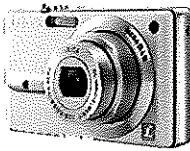
- 術部を気にする(L1)
- 術部に触られるのを嫌がる(L2)
- 術部を触ると怒る(L3)



これらを区別する明確な判断基準が設けられていない

提案: 動画撮影による 動物の痛み行動の積み重ね

例えば…



- 歯を見せて手を攻撃するのか
- 鳴きながら術部を見るのか
- 振り向かないが目を見ると反応しているのか

様々な動物の反応をメモして
自分たちなりの痛み行動の定義づけを行っていく必要

3. その行動が本当に痛がっているのか分からない



元々の性格



麻酔薬



観察力の差

今回は避妊手術でよく見られた行動で考察

体が震えている



◎注意点

- 疼痛？
- 麻酔による低体温？
- 元々の性格？

覚醒時の体温を必ずチェック
術前によく患者に接触して性格を知る

間欠的に鳴く／唸る



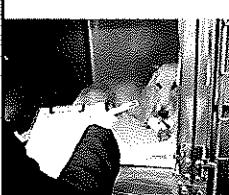
◎注意点

- 疼痛？
- 覚醒時の興奮？
- 甘え鳴き？

元々の性格はもちろん大事
どんな表情で鳴いているのか?
直接動物に接触したときの反応に注意

提案: 観察方法を統一する

- スタッフ間の差を最小限にできる
- 忙しさや気分などによって観察方法が変わることを防ぐことが可能



↓
第5のバイタルサインとして
定着させたい!
当院での観察方法を紹介します

1) まずケージの外から観察



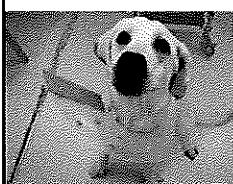
- ・犬が観察者の存在に気付いていない状態での観察が望ましい
- ・人がいるときといないときで行動が大きく異なる犬では重要性！

2) ケージを開けて観察



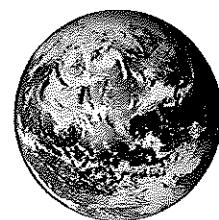
- ・声をかけながら顔から体を触っていく
- ・バイタルサインをチェック
- ・最後に術部をやさしく上から触って反応を見る

3) ケージから出して観察



- ・声をかけてケージの外に出す（場合により抱っこして出す）
- ・診察室で自由にさせて動きを観察し、再度体を触って最後に術部を触る
- ・外に出せない時は無理しない

ひとつの病院で
できることは限られている



みなさんも一緒に
やってみませんか？

付録：1

30分後の痛み行動
去勢と避妊の比較

レベル1 (L1)	去勢	避妊
ケージから出ようとしない	7	7
逃げる	1	2
尾の振り方が弱々しい、振らない	7	9
人が近づくと吠える		
反応が少ない	7	9
落ち着かない、そわそわ		
寝てはいないが目を閉じている	2	4
元気がない	7	9
動きが緩慢	6	8
尾が垂れている	6	9
唇を舐める		
術部を気にする、舐める、咬む		
ケージの扉に背を向けている	1	
	44	57

レベル2(L2)	去勢	避妊
痛いところをかばう		1
第3眼瞼の突出	2	6
アイコンタクトの消失	6	8
自分からは動かない(動くように促すと動く)	6	5
食欲低下	6	9
じっとしている(動くように促しても動かない)	5	8
術部に触れられるのを嫌がる	4	2
耳が垂れたり、平たくなっている	5	7
立ったり座ったり	1	
	35	46

レベル3(L3)	去勢	避妊
背中を丸めている	5	6
心拍数増加	6	3
攻撃的になる		
呼吸が速い		1
間欠的に唸る		5
間欠的に鳴く	2	2
体が震えている	4	9
額にしわを寄せた表情	6	6
体に触れたり、動かそうとしたりすると怒る	1	
流涎		2
横臥位にならない	4	3
過敏	1	4
術部を触ると怒る		
	29	41

レベル4(L4)	去勢	避妊
持続的なきわめく		1
全身の硬直		
間欠的なきわめく		
持続的に鳴く		
持続的に唸る		
食欲廃絶		1
散瞳		
眠れない		
	0	2

付録:2 避妊手術で見られた 痛み行動 時間経過による変化

レベル3(L3)	30min	3hr	6hr	翌朝
背中を丸めている	6	2	2	1
心拍数増加	3			
攻撃的になる				
呼吸が速い	1			
間欠的に唸る	5	2		2*
間欠的に鳴く	2			1*
体が震えている	9	3	1	
額にしわを寄せた表情	6	3	2	
体に触れたり、動かそうとしたりすると怒る				
流涎	2	1		
横臥位にならない	3	2		
過敏	4			1
術部を触ると怒る				
合計	41	13	5	2

* 明らかに興奮しているのが原因

日本動物看護学会
第 16 回大会 テキスト B

2007 (平成 19) 年 7 月 8 日 発行

発行元 日本動物看護学会
〒104-0032 東京都千代田区神田淡路町 2 丁目 23 番
アクセス御茶ノ水 2F
TEL. 03-5298-2850㈹ FAX. 03-5298-2851
E-mail info@jsan.gr.jp ホームページ <http://www.jsan.gr.jp>

無断で複写・複製・転載することを厳禁します。

日本動物看護学会
第 16 回大会 テキスト A

2007 (平成 19) 年 7 月 8 日 発行

発行元 日本動物看護学会
〒104-0032 東京都千代田区神田淡路町 2 丁目 23 番
アクセス御茶ノ水 2F
TEL. 03-5298-2850(代) FAX. 03-5298-2851
E-mail info@jsan.gr.jp ホームページ <http://www.jsan.gr.jp>

無断で複写・複製・転載することを厳禁します。
